

かば七十二歳の時アゼンスに於て罪せられて毒藥を服したり。彼の敵はアゼンスの青年を腐敗し、彼等を煽動して國家の守護神を輕蔑したりとて、政府に彼を讒訴したり。彼は當に彼に有罪の宣告を與へたる裁判官のみならず、又彼を理解し能はざりし愚民等の壓制に對し、昂然屈せず耐ふるの道德的勇氣を有したり。故に彼は毫も自己の主張を枉げず、口に靈魂不滅の教義を説きつゝ、從容として死に就けり。彼が裁判官等に向ひて曰ひたる最後の言は、次の如きものなりき。『今や我等が相別るゝの時なり。我は死なん爲めなり。汝は生さん爲めなり。されど死ぬると生きるると比べて孰れが幸運となすべしや。神の外之を知る者あらざるなり』と。

ブルーノ。偉人及び思想家にして、宗教てふ名の爲めに迫害せられし者何ぞ限らんや。伊太利のブルーノは、當時の流行たる虚偽の哲學を暴露攻撃したるが爲めに、生きたがら羅馬に於て殺されたり。宗教裁判廷にて死刑の宣告を言渡さるゝや、彼毫も懼るゝ色なく、昂然として判官に向ひ、『卿等は予の罪狀を宣告するに當り、被告たる予よりも、一層恐怖し居れり』と曰へり。

ガリレオ。ブルーノの後繼者は有名なる天文學者ガリレオなり。ガリレオが學者としての品性は、全く殉難者としての品性の美なるが爲めに、壓倒し去られたるばかりなり。彼は破天荒なる地球運轉の學說を唱へたるが爲めに、宗教界の憎む所となり、七十歳の時其學說を異端とせられ、羅馬に召喚せられたり。其拷問せられたるや否は疑はしきも、頑冥固陋なる宗教裁判廷は、彼を有罪として牢獄に投じたり。爾來白日を見ることなく、遂に老軀を鐵窓の下に横たへぬ。されど迫害は尙ほ其死後にまで及べり。即ち法王は命を下して彼の屍を埋めし處に、墓を立つることをさへ禁じたり。

ベーコン。フランチェスカ派の僧ロージャ・ベーコンは、物理學を研究したりし故に迫害せられたり。彼は化學を研究せしかば、魔法を使ふ者なりと讒訴せられたり。詰問せられたり。宗教裁判廷は、彼の著書の發行を禁止し、彼を獄中に投じたり。爾來獄中に呻吟すること十年、羅馬の法王四代を経たり。彼は獄中に死せりとさへ斷定せらる。

英國の哲學者オッカムも、其學說を異端とせられ、羅馬法王の迫害する所と

なり、終身ミューニッヒ調居の身となり、配所に在りて没せしが、彼は獨逸皇帝の友愛保護を受けたりといへり。

ウエサリアス

宗教裁判廷は嘗てブルーノ及びガリレオの二天文學者を、天體を人間に啓示したりとて迫害せし如く、又生物學者ウエサリアスを、人體を人に啓示したるは異端なりとて問罪せり。彼は實地人身を解剖して、人體の構造を研究したるものなり。彼は即ち人體解剖學の開祖なり。されど人身を解剖することは、當時全く宗教的迷信の爲めに禁制せられたるが故に、其大膽なる研究は、偶々以て彼の生命を犠牲にするの原因となれり。宗教裁判廷は、彼に死刑を宣告せしが、西班牙國王の仲裁に依り、終に死を赦されて、聖地エルサレムに巡禮することゝなれり。彼は春秋に富めりと雖も、長途の旅行に困憊し、歸途熱病の冒す所となり、ザンテに於て窮苦の中に憐れなる死を遂げたり。即ち彼は科學の爲めに身を以て殉したる者と謂はざる可からず。

學問の殉難者

ペーコンの著書新論法の現はるゝや、反對の聲一時天下に喧しかりき。或は曰く、危険なる革命的傾向あり、或は曰く、政府顛覆の陰謀あり、或は曰く、宗

教の權威を侵害するの傾向ありと。ドクトル、ヘンリー、スタップと云へる人（此人の名は既に世に忘れられたり）書を公にして、實驗哲學者を攻撃せり。學士會院の設置せられし時に於てすら、尙ほ實驗哲學は、基督教の信仰を覆へすものなりとて甚だしく反對せられたりき。

地球運轉説の開祖コーバニカスの後繼者は、皆基督教界の迫害を被りぬ。中にも異端信者なりとの名の下に、有らゆる侮辱迫害を受けたるは、ケブレルなり。彼自ら其迫害を受けたる所以を説明して曰く、『予は聖書の中にある神の御言葉と調和せりと、予に思はれたる議論を賛したるが故なり』と。されば、夫の僧正バーネトが予の見たる中にて、最も純潔なる靈魂を有せる人と評したる、高潔純正のニウトンさへ、地球の引力を發見して、其學説を公にするや、忽ち神を天の御位より廢するものなりとて、昧者の非難する所となれり。フランクリンが、雷霆の性質を説明したる時にも、亦斯の如き非難ありたり。スピノザは、素と猶太人なりしが、其主張せし哲學上の意見が、宗教に反對

するものと想像せられ、猶太人より彈劾破門せられぬ、後同一の理に由りて刺客の凶刃に斃れんとせしが、辛うじて其難を免るゝを得たり。されば彼は枕を高うして安眠し得ざるほどの危地にありしも、終生其自信を渝へず、勇敢に迫害と健闘しつゝ、落魄窮苦の中に其命を終れり。

デカルトの哲學は無宗教なりとて誣告せられ、ロックの教義は唯物主義の宣傳なりとて譏られ、近世の博士バックランド、セッジウィック、其他著名なる地質學者は、其地球の構造及び歴史に對する學說を神意に背ける異端として、世の非難する所となりたり。斯の如く、天文學に於ても、博物學に於ても、理化學に於ても、凡そ發見と呼ばれたるものにして、頑冥固陋なる愚者の爲めに、無宗教無信仰なりとて迫害せられざりし者、一もこれ有らざりしなり。

大發見家の迫害

其他の大發見家等も、縱ひ無宗教なりとの惡名冤罪を負はせられざりしまでも、専門的及び公共的性質の誹謗に遇うて之と健闘したるは、前例に劣る所あらざりき。嘗て醫學博士ハ・ヴェーが、血液循環の理を説きたる時、彼の家業は衰へて門前雀羅を張り、同業者は馬鹿者よとて、彼を排斥したり。ジョン・

ハンター曰く、『予が爲せし些少の善事は最大の困難を以て、最大の反對と争ひ戦ひ、然る後、纔に成し得たるものなり』と。醫學者サア、チャールズ・ベルが醫學上最大發見の一と後世より謂はれたる、神経系統に就きて研究に従事したる時、一日書を其友に寄せて曰く、『予にして斯くまでに貧しからず、斯くまでに多くの迫害を被ること無くんば、如何に予は幸福なるべきものを』と。彼は其研究上の發見を公にする毎に、其職業は著しく衰微したることを自白したり。

以上説く所の如く、吾人が今日、天體、地球及び人間に關して有せる所の豐富なる智識は、皆過去の偉人が精力と熱心と自己犠牲及び勇氣とに由らざるものあらざるなり。此等過去の偉人は、當時社會の爲め有らゆる迫害を被りしも、今日にては、人類の開明なる社會より最大なる榮譽を負へり。

さればとて過去の科學者に對する非道の迫害は、現時の訓戒とならざるなきにしもあらず。即ち若し、或る人にして不撓の精神を以て刻苦研究し、正直に考へ、自由に確實に其所信を發表すれば、吾人は、其意見の自説と異なるあ

宗教の殉
難者

るを知るも宜しく之を寛假せざる可からざることを吾人に教ふ。プラトリーも言へることあり。曰く「世界は人類に贈れる神の手簡なり」と。而して此手簡の眞意を闡明せんが爲めに之を讀み、之を研究することは眞面目なる人をして一層能く腦裏に神の權能を印せしめ、一層明かに神の明智を仰がしめ、又神の慈惠を一層有り難く感ぜしむるものなり。」

上の如きは學術の犠牲となりし殉難者の勇氣なり。信仰の犠牲となりたる殉難者の勇氣も、其光榮決して之に比して劣れるにあらず。蓋し人男女に限らず、其良心の爲めに世に一人の同情者だも有せず、閑居獨處して艱難痛苦に耐ふることは、懦夫てさへ多數と云ふ同情、又は助勢に由り、其熱心を奮發鼓吹せらるゝことを感ずべき戰場に在りて發揚せらるゝ所のものよりも、更に高尚なる勇氣の表現と謂はざる可からず。此等主義の信仰を確守して、困難、危険、及び苦痛を顧みず、世界の道德的戰爭場に身を處して、正義を行ひ、不退轉なる勇猛精神の氣を發揚したる者は、万世に其不朽の名譽を語らるべし。彼等は實に眞理の爲めに良心に負かざる爲めに、寧ろ死を辭せざる

エー・ア
ス・キ・ユ

覺悟ある人なり。

斯の如き職分の觀念に篤實なる人は、過去に在りては最も壯烈なる英雄的立脚地に於て其品性を表はし、今日までも歴史上に最も崇高なる事蹟を止めたり。纖弱なる女子にして、松柏の白雪に耐ふるが如き、壯烈勇氣あさく男子に譲らざる者亦決して尠なからず。今一例を擧げんに、エー・ア・ス・キ・ユウの如きは肉破れ骨碎かるまでに拷問せられしも、神色自若として獄吏の面を見あげ、言葉も柔かく、身に自白すべき一點の曇りなきことを答へたり。ラチャマー、及びリッドリーの如きは、其薄命を嘆ぜず、主張を枉げず、從容として死に就き、相顧みて「神の惠によりて英國に万代不滅の燈明を照らすは、快ならずや」と言ひて、莞爾たりきと云ふ。クレーカー主義の信者メリ・ダイエルといへる女は、其信仰の主義を公演したる罪によりて、米國新教徒の迫害する所となり、死刑を宣告せらるゝや、從容として斷頭臺上に登り、見物の男女に向ひて最後の演説をなし、懼るゝ色なく死に就きたり。

メリ・
ダイエル

サ・ア・ト
ー・マ・ス・モ
ー・ル

サ・ア・ト・ー・マ・ス・モ・ー・ルは、從容として絞臺に進み、其良心に背かんよりは、寧

ろ欣んで死に就けり。彼が飽くまで其主義を守らんと最後の決心をなすや、其女婿ローバアに告げて曰く、「我子ローバアよ、予は神に謝す、予は戦に勝ちたり」と。又公爵ノーフオルクが彼に其危難の迫れを語りて、「モール君、予は誓つて言はん、足下君主と争ふは甚だ危険なり。君主の怒りは死を致すものなればなり」と曰ひける時、モールは昂然答へて曰く、「閣下の言はるゝ所は、只其れのみなるか、閣下と予との相違は是れなり。予は今日死し、閣下は明日斃れん」と。

古來偉人が社會の迫害に遇ふや、多くは其妻によりて慰められ、扶けられしが、獨りモールは、斯の如き慰藉を有せざりき。彼は早く妻ゼーンコルトを失ひ、アリス・ミッドルトンと云へる寡婦を迎へて後妻とせしが、此女は、彼が在獄中、只形式的の慰藉を與へたるに過ぎざりき。彼女は不明にして、若し彼が國王の要求に應ずれば、自由の身となりて、チルシアの美宅に、妻子と團欒の樂みを爲し得べきを、深き道理のありて獄裡に呻吟せることを曉らざりき。されば、一日彼に告げて曰く、「昨日までも世に賢者と譽め稱へられたる卿

にして、今日斯の如きいぶせき牢獄の苦みを受け、鼠を伴侶とするの愚を學ぶは、訝かしき事なり。世の僧正達の爲せるが如くなせば、卿は青天白日の身とならんものと。然れどもモールが義理の見解は甚だ異なれり。モールの職分は個人的快樂を樂むことにあらざりき。されば、其妻の怨言も、遂に彼を動かすことを得ざりき。故に彼は從容として之に答へて曰く、「此家は我家の如く天に接近せるにあらずや」と。妻は只「是はしたり」とのみ、二の句を繼ぎ能はざりしと云ふ。

之に異なりてモールの女、マーガレット・ローバアは、父の飽くまでも主義と與に斃るゝの覺悟を壯として、其勇氣を鼓舞し、慰藉を與へたり。獄中筆墨の使用を禁ぜられしかば、モールは石炭の一塊を以て、辛うじて其意を娘に通じて曰く、「情ある卿の書狀に對して如何に予が慰安を得たるやを返事せんにも、筆なければ、石炭の一片にては説き盡くし難し」と。モールは正義の爲めに身を殺したる仁者なり。彼は自信を偽ることを忍び能はざりき。彼を殺したる者は彼の誠實なり。彼は遂に斬首せられて、倫敦橋上に暴されぬ。マーガレットはこ

れを見るに忍びず、官に訴へて之を請ひ受け、死に臨みて與に葬られんことを望めり。其後幾多の星霜を経、偶々マーガレットの墓を發掘せしことありしが、貴き形見たる、モールの頭骸骨は、彼女の白くさらけたる肋骨の上に、依然として在りたりと云ふ。

ルーテルの堅忍

マーティン・ルーテルは、其信仰の爲めに、生命を奪はるゝことなかりしも、法王に反對して自己の主張を表明したる其日より、其毎日は炭々乎として殆ど死地なりき。其一大苦闘の劈頭に當りてや、彼は全く孤立して援あらざりき。しかも彼に對したる迫害は、言語に絶したり。自ら語りて曰く、「一方には學問あり、天才あり、多數あり、高貴あり、爵位あり、權力あり、神聖あり、靈異あり。此方にはウイックリフ、ロレンツォ、ヴァルラ、アウガスティン及びルーテルあり。而かもルーテルは、一二の友の外には、全く孤立せる憐れむべき人なり。昨日の人もなり」と。皇帝チャールズ第五世が、異端説を辯解すべく、ルーテルをウォルムスに召喚するに當りてや、彼は行きて明白に答辯せんと決心したり。友人等は之を不可となし、勸告して曰く、これ自ら好んで死地に投ずるが如し、宜しく

奔竄して時機の再來を待つ可しと。彼聽かずして曰く、「否、予は行く可し。縱令其ウォルムス市の家の屋瓦の數よりも三倍多き悪魔ありとも、予は斷じて彼處に行かん」と。又公爵ジョージデと云ふ者、蛇蝎の如く彼を憎みしかば、或る人彼に注意せよと諫めたりし時、彼答へて曰く、「縱ひ公爵が、九日間小息みなく、雨の如く降り續けたりとも、予は斷然彼處に行く可し」と。

ルーテルは、徒らに大言壯語する者にあらず、即ち危険極まる旅程に就きたり。遙にウォルムス市の古塔を望み、慨然として『要塞は我等の神なり』の詩を賦したり。是れ則ち宗教改革の『マルセイエーズ曲』にして、これより唯二日以前に即興的に口吟したるものなり。審問の日迫りし時、フロインデスベルヒと呼べる老兵あり。ルーテルの肩を叩き、戯れて曰く、『好僧自愛せよ。足下は嘗て我々軍人が敵に當りし時よりも、激烈なる戰場に臨めるなり』と。ルーテルは只簡單に、彼は聖書と良心との上に立脚せんと決心せる事を答へたり。

ルーテルが、審問廷に於て發揚したる勇氣は、歴史に特筆大書する所なり。皇帝が最後に命じて所説の變更を迫りし時、彼之を退けて曰く、『陛下、予は經典

に照憑し又は明白なる例證によりて、所説の誤謬を摘發せらるゝにあらざれば、決して予の主張を變ぜざる可し。蓋し吾人は決して吾人の良心に背くことを得ざればなり。斯の如きは予の信仰の宣言なり。陛下又予に其他を望む莫れ。此處に予は立てり、予は其他のものを爲し得ず。神は予を助く」と即ち彼は君主のそれよりも遙に高大なる權能の命に服従すべく、其職分を勵行して、何等の迫害をも意に介せざりき。

其後、アウグスブルヒに於て、敵の苦しむる所となるや、「此處に五百の人ありと假定せば、信仰の一個條に背信せんよりは、寧ろ五百人を失ふに如かず」と曰へりとぞ。勇氣ある人に常に見る如く、ルーテルの勇氣は、其遭遇せし困難の度に應じて發したるものゝ如し。ハッテン曰く、「ルーテルの如く死を恐れざる者未だ獨逸にこれ有らざるなり」と。されば、吾人は、近世思想の自由と、信仰權の主張をば、先づ彼が道德的勇氣の賜に歸せざる可からず。

勇氣ある人は、恥あるを知りて、死あるを知らざるなり。世に傳へ云ふ。王黨のストラッフォルド伯が、刑場、塔丘タウヒルの絞臺に上りし時、其步調態度は、勇將が批

ストラッ
フォルド

貅を提げて凱旋するが如き觀ありしと、共和黨のヘンリー・ヴェーンも、同じ刑場の露と消えしが、「予が此全世界よりも價值ありとせる良心、正義、純潔を辱かしめんよりは、一万人の命を殞すを辭せず」と曰ひつゝ、從容死に就きたり。ヴェーンが招きたる災害は、皆其離別したる妻に起因せり。刑の當日、塔の窓よりヴェーンの通行を見物せる一婦人あり。是れ別人ならず、其前妻なり。ヴェーン之を見て、馬車の中に起ち、帽子を振り叫んで曰く、「天に行くぞ、我愛する者よ、予は天に行く。而して汝を暴風の中に遺す」と。道にして堵をなせる群集の中より、「それを即ち、君が嘗て坐はりし、最も光榮ある椅子なんめり」と呼ぶ者ありければ、ヴェーンは莞爾として之を顧み、「實に然り」と答へて大に悦びたり。成功とは、之が爲めに總ての人が働く懸賞品なり。然れども、時に、成功を眼中に置かずして、勞苦に耐へざる可からざることあり。此間に在りては、唯勇氣に依りて生活するあるのみ。之を譬ふれば、猶ほ暗夜に種子を蒔き、唯何時か根を生じ、奏功の結果を見るならんとの希望の如し。主義の最良なるものと雖も、失敗に失敗を重ね、蹉跎に蹉跎を生じ、幾多の勇士を失ひて、然る後初め

成功は
失敗の
結果なり

て城を乗り取り凱歌を揚げざる可からざるなり。彼等が示したる勇氣は、必ずしも直接の成功を以てのみ量るべきものにあらず、又其敵對したる困難と戦闘を維持したる其剛性とを以て量らざる可からず。

夫の連戦連敗せる愛國者等、或は凱歌を奏せる敵中に従容として死に就ける殉難者等、或はコロンブスの如き幾多悲惨なる歳月を渺々たる波濤の上を送りて、勇氣毫も沮喪せざりし發見家等は、最も完全顯著なる功を成し遂げたる人よりも、一層深き興味を以て、人の心を感動せしむるものなり。此等に比較するときは、腕力の戦争の修羅場に暗啞叱咤して死を見る歸する

通常の勇氣

が如くならしむる勇猛無比の偉績も、甚だ小なるが如く見ゆるなり。然れども、世界が必要とする勇氣は、所謂武勇的のものにあらず、勇氣は活動の歴史的舞臺に於て示さるべき勇氣、誘惑に抵抗すべき勇氣、眞實も示さるべきものなり。例せば、正直なるべき勇氣、正直に自己の身分に應じて、徒らに他の資力に依頼することなき勇氣の如き、即ち是れなり。

世界に於ける不幸と罪惡とは、概ね意志の薄弱と不決斷とに歸因するものなり。換言すれば、勇氣の缺乏に基くものなり。正義の何たるを知るも、之を實行するの勇氣なく、職分の盡くさる可からざる所以を曉れども、之を決行するの勇氣に乏しきは、世人の常弊なり。意志の薄弱にして、主義なき人は、常に誘惑に左右せらるるものなり。彼は「否」と言うて拒絶するの勇なく、唯々として其前に斃るゝ意氣地無しなり。若し彼の交友にして、悪人物ならんか、彼は直ちに其惡例の感化する所となりて、惡事を働くに至るなり。

品性は、其れ修身の活動力に依りて支へられ、強くせらるるものなれば、世に品性ほど頼むべき者あらざるなり。品性の根本要素たる意志は、常に決斷の習慣を修養せざる可からず。然らざれば、意志は惡を退け、善に従ふの能力を失ふに至らん。決斷は確乎たる立脚の力を與ふ。若し夫れ屈服は、微なる者と雖も、滅亡に近づくの第一歩なり。何事に拘はらずが決心を爲さんとするに、他人の力を借らんとするは無益なりと謂ふよりも、不可なりと謂はざる可からず。されば何人も己自身

の力に依頼し己自身の勇氣に信任するの習慣を養成せざる可からず。ブル
ターク英雄傳に曰く、マセドンの國王某戰正に酣なる時、ヘルキレスの神に
神饒を捧ぐるとの口實を以て程近き處に退陣せしが、敵將羅馬のイーミリ
アスは同じく神に冥助を祈り、躬ら劍を手にして陣頭に戦ひ、終に勝利を得
たりと。吾人日常の生活に於ても亦斯の如し。
立派なる目的を立てながら唯之を口に語るのみに終りたる者甚だ多し。
事業の單に計畫のみに止まりて實行されざるもの亦尠ならず。是れ畢竟
勇氣に乏しく、決斷に缺くる所ありしが故なり。されば舌は黙して實行の上
に雄辯なるを可とす。何となれば、人生及び事務に於ては、實行は理論に優れ
ばなり。而して天下一切の最も簡單なる返答は、實行なり。チロストン曰く、「焦
眉の必要に迫りて明白に實行を必要とせる場合に臨みて躊躇決せざるは、
意志の薄弱なる人たることを證するに最も確かなるものなり。終始新生涯
を期圖しながら、然かも之に着手すべき時機を見出し得ざるは、恰も飲食睡
眠を今日より明日と延期して、果ては餓死となりて斃るゝが如し」と。

所謂社會と云はるゝものゝ惡感化に反抗するには尠からざる。道德的勇
氣の實行を必要とす。夫の好んで人の是非を言ふ口八丁の所謂小説的グラ
ンデイ夫人は、勿論野卑なる凡婦たるに相違なし。然れども斯の如き人の社
會に於ける勢力は甚だ恐るべきものなり。多くの人特に女子は其屬せる階
級或は種族の道德的奴隸なり。彼等の間には各自の個人性に對し、一種の無
意識的隱謀とも云ふ可きもの存す。各團體、各部落、各位階は、皆相異なる各
自の風習及び禮式を有し、之に従はざる者は直ちに絶交せらるゝの危険あ
るが故に、之に一致することを強請せらる。或る者は流行と云ふ牢獄の中に、
或る者は風習と云ふ牢獄の中に、又或る者は世論と云ふ牢獄の中に幽閉せ
らる。而して其宗派以外に考へ、其黨派以外に行ひ、又は個人的思想及び行爲
の自由空氣中に躍出せんとするの勇ある者は、極めて罕なり。吾人は借金し、
破産し、悲境に沈淪するの危険を冒しても、尙且つ俗を逐うて、衣服を着、又は
飲み食ひ、且つ流行に従はんとす。吾人は己の許す資力に従ふと云ふよりも
却て吾人が生活する階級の迷信又は禮式に従うて生活すると云ふが當れ

るを見る吾人は竊に頭顱を平らかならしむる亞米利加印度人及び足趾を緊縮する支那人の愚を笑ふと雖も吾人は吾人自身の社會の中に常に流行と云へる畸形を眺め所謂グランデイ夫人の支配は普遍なることを見るにあらずや。

道德的怯懦

道德的怯懦は公生涯に於ても私生涯に於ても同じく示さるゝものなり。虚飾主義は必ずしも富者に阿ねるばかりにあらず亦屢々貧者に阿ねることあり阿諛とは高貴權勢に眞理を語らざることなりとは古人の言なれども今日に在りては却て弱者に眞理を語らざるものなりと言ふの當れるを見る。現今の世政權を行ふ者は多數の人民なれば巧言令色彼等に阿ねるの傾向日に益々大ならんとす。彼等人民は空なるを自認せる徳義に信任せらるゝこと厚く健全なる眞理は不愉快なるが故に之を言明することを憚り又彼等の機嫌を取らんが爲めに之が實行の望皆無なるを知りつゝ尙且つ假面を被りて同情を寄するが如く術ふ。

今や阿諛せらるゝ者は最も崇高なる人即ち高等の教育を受けたる人又

は最も善き境遇に在る人にあらずして却て最も卑しき人即ち無教育者又は最も悪しき境遇に在る人なり蓋し此等の人の投票は常に多數を制するが故なり故に位階あり資産あり教育ある紳士にして無學なる者の前に平身低頭するの奇現象を見ること少なからず蓋し斯の如くして初めて無學者の投票を得らるゝが故なり。彼等は不人望とならんよりは寧ろ忍んで無耻不義の人となるを辭せざるなり膝を屈し頭を低うして阿諛するは剛毅なる丈夫の本領を守るよりも容易なり。彼等は好んで世の妄見に従ひ時勢に反抗するの勇氣なし。凡そ死せる魚は水に従うて流る然れども流れに逆うて泳ぐには力量と勇氣とを要するなり。

卑劣なる手段に依りて人望を得んとするは近世著しき現象なり。此傾向は公務の人の品性を卑うし墮落腐敗せしめたり良心の制裁は益々緩漫となれり。明暗によりて其言行を二にす。私に世の謬見を嘲笑しつゝ公然これに阿ねりて憚る所なし。夫の口先さばかりの改宗即ち黨派の利害關係によりて直ちに變節するが如き無耻不義漢は更に一層突飛的なり。而して偽善

すら今や殆んど思むべきものなりとは考へられざるなり。

同じ道徳的卑劣は、社會の上下に通じて瀾漫せり。凡そ動力と反動力とは相等しきものなり。社會の上流が偽善を以て時勢を逐へば、社會の下流が亦之に倣うて偽善を以て時勢を逐ふは、決して異しむを要せず。地位高き人が其の主義を固執するの勇なければ、社會の下層に位せる人に何をか望むを得んや。彼等は唯眼前の實例に倣ふより他なきなり。彼等が陽に譽め陰に毀り、明暗其行を二にして憚る所なきもの、抑も亦誰の罪ぞ。彼等に密閉せる箱を與へ、或は穴又は隅を與へて、其行を隠すことを得しめんか。彼等は世に憚る所なく、安全に卑屈者の所謂自由を享くるに至らん。

人望を得ること

近世の所謂人望は、毫も其人の價値を高むるものにあらず。却て其人の陋劣を表明するものなり。露國の諺に「硬き脊骨を與へられたる者は、決して名譽の位地に登り難し」と云ふことあり。然れども、人望を獵せんと運動する人の脊骨は軟骨より成れり。故に彼等は公衆の稱賛を得んが爲めに腰を屈するのみか、如何なる方向にも自由自在に己を曲げ得るなり。

。人望を博する手段は、人民に阿ねり、眞理を隱匿し、最も陋劣なる趣味を敷吹するやう自ら己の書辭を卑うし、言論を陋にすることなり。而して尙ほ一の大秘訣あり。そは社會の好尚に投ずることなり。斯の如くにして得られたる人望は、眞面目なる人の眼より之を見れば、陋劣極まりなく、殆ど嘔吐を催はすに足る可し。ゼレミー・ベンサムは嘗て或る有名なる政治家の品性を論じて、「政治上に於ける彼の偉績は、多數の人の愛よりも、少數者の憎みより生じたる結果なり。利己的にして不實なる愛の影響を受くる所あらざりき」と曰ひしが、此言を適用すべき者、果して幾人か有る。

△ 品性の純正なる人は、輾轉落魄の悲境に在るも、尙ほ眞理を主張し、斃れて後已むの勇氣を有する者なり。コロネル、ハッチンソンは、其妻の言に據れば、世の毀譽褒貶を度外視し、悠揚として自ら得意なりしと云ふ。彼は自ら善なりと思へば、直ちに實踐躬行して、社會の批評に耳を傾けず、評判の爲めに自己の良心と道理とを枉ぐることなく、時流に反抗して、自信の命ずるまゝに振舞ひぬ。蓋し彼は肉眼もて直接に事物を察し、決して世評といふ野卑なる色

眼鏡を頼まざりしが故なり。」

。サア、ジョン・バキンソン曰く「最も陋劣にして、最も通俗なる意義に於ける所謂人望は有らずも、がな唯、汝の有らん限りの力を傾けて、汝の職分を遂行し、汝の良心の満足を得よ。是れ即ち最高義の人望を得る所以なり」と。

。リチャード・ドラッセル・エッチェウォース、晩年に及びて、隣人の間に甚だ名望を得たりしが、一日其女に告げて曰く、「予は恐るべき人望を博しつゝあるなり。我事既に休せり。凡そ人望ある人は、何事にも善なる能はざるなり」と。彼に此言あらしめたるは、蓋し聖書の「世人が汝を善く言ふは、汝に取りて悲む可し。何となれば、彼等の祖先は、僞豫言者に斯くなしたればなり」との句を思ひ出したるに由るなる可し。」

智力的剛毅

。智力的剛毅は、品性の獨立と自信とを維持する根本要素の一なり。人は自ら存在するの勇氣なからざる可からず、他人の影となり、反響となる可からず。人は自己の權能を實行し、自己の思想を唱へ、自己の感情を述べ、自己の主義を建て、自己の信念を形づくらざる可からず。主義を形づくらざる人は、怯

なり、主義を形づくらんと欲せざる人は、怠惰なり、主義を形づくり能はざる者は愚なり。」

。然れども前途多望と云はれたる人物をして、中道にして躓かしめ、友人の豫期を失望せしむるものは、此種の剛毅なり。彼等は活動の舞臺に進む。然るに一步毎に其勇氣を失ふ。彼等は必要なる決斷と勇氣と忍耐とに乏しきなり。彼等は前途の危険を顧み、不慮の異變を慮りて躊躇決せず。斯くて逡巡孤疑せる間に奮勵一番功名手に唾して取るべき好機を逸し、復び挽回するの策なきなり。

。人は眞理を愛するが故に眞理を語る可し。共和政府黨のジョン・ピム曰く、「予が語るの勇氣に乏しき故に、眞理が損害を受けんよりは、寧ろ予は眞理を語りて苦楚を嘗めんと欲す」と。若し人にして沈思熟考の上、確信する所あらば、出來得る限り公平なる手段に依りて其確信を實行すべきは當然のことなり。社會の状態及び事情の如何によりては、自己の意見を披瀝し、且つ社會と敵對の地位に立たざる可からざる時あり。此場合に當りて、社會の意を迎

ふるは嘗に弱さを示すのみならず、亦一種の罪惡を犯すものなり。場合に
りては、最大なる罪惡に抵抗せざる可からざることあり。此等の罪惡は戦
て撃退するより他に、除去するの良法なきものなり。

正直なる人は、詐偽に誠實なる人は、欺瞞に正義を愛する人は、壓制に潔白
なる人は、罪惡に自ら反對なるものなり。彼等は、此等の情態と健闘す。故に彼
等は何れの時代に在りても、世界の道德力を代表せり。彼等は社會的革新の
本尊なり。彼等微かりせば、世界は利己主義と罪惡との蹂躪する所となりし
ならん。古來大改革者及び殉難者は、詐偽と罪惡との勁敵なりしなり。遠く之
を使徒に見よ。彼等は社會を敵として、傲慢、放縱、迷信、又は無宗教の罪惡と健
闘したる組織的團體なりしなり。又現今に於ても、クラークソンや、グラン
キール、シャープや、神父マッシューや、リチャード、コブデンや、皆有名なる社會改
良家にして、社會の罪惡に反抗したる健闘の勇士なりし。

精力的勇
氣

世界を統率し支配するものは、意志の強固なる勇氣の人なり。薄志弱行の
徒は、世界に何等の痕跡を留めざるなり。正義にして精力ある人は、猶ほ光の

路の如し、彼の模範は残りて後世の渴仰する所となり。其思想精神及び勇氣
は、萬世を感化す。

何れの時代にも、熱心の奇蹟を生ずるものは、精力なり。精力の根本要素は、
意志なり。是れ即ち品性の力と稱するものの源泉にして、古今偉大なる事業
の眞髓なり。勇氣ある人は、猛然として正義の路に進み入る。デヴィッドが、巨人
ゴライアスを倒したるもの、豈に故なしとせんや。

人は自ら困難に勝ち得ると信ずるが故に、困難に打勝つこと往々これ有
り。彼等の確信は、亦他人の確信を鼓吹す。シーザー嘗て航海中、偶々颶風に遇
ひ、船屢々覆へらんとす。船長懼れて殆んど爲す所を知らず。シーザー叱咤し
て曰く、『汝何をか惧る。汝の船はシーザーを載せ居るに必ずや』と。勇敢なる
人の勇氣は、傳染的にして、他の人をも己の向ふ所に向はしむ。勇氣ある人は、
薄志弱行の徒を壓服し沈黙せしめ、又己の意思及び目的によりて、彼等を鼓
吹するものなり。

堅忍不拔なる人は、反對に遇うて、其英氣を挫くが如きものに、あらず。昔希

臘の哲學者ディオセネスは、アンティセネスの教を受けんと欲し、自ら行きて請ふ所ありしが、一言の下に拒絶せられぬ。ディオセネス屈せず、尙ほ請うて止まざりければ、アンティセネス、瘤だらけの杖を振り上げ、去らずんば一撃を汝の頭上に加へんと脅かしぬ。ディオセネス、毫も騒げる色なく、「打たば打て、足下は予の一念凝固りたる不撓の精神を打挫くほどの堅固なる杖を有せざるなり」と、流石のアンティセネスも一語を發し得ず、遂に彼を其門弟としたり。

精力ある性質に加ふるに多少の智力を以てせば、智力ばかりの人よりも、一層成功するものなり。精力は、人をして實際的才能の者たらしむ。精力は、人に原動力を與ふるものなり。精力は、品性の活動力にして、之に頓悟と沈毅とを配合すれば、人をして、人生の一切の事件に臨みて、其力を有利的に活用せしむ。

故に比較的平凡なる人が、此意志の精力に勵まされて驚嘆すべき功を成し、遂げたる例少からず。蓋し最も能く世界を感服せし人は、必ずしも天才の人にあらずして、寧ろ強固なる確信と忍耐力との人にして、勇猛不退轉なる

精力と不撓不屈の決斷心とに由りて刺戟せられたるものなり。マホメッド、イテル、ノックス、カルヴァン、ロヨラ及びウエスレーの如きは、即ち其實例なり。

精力と忍耐とを配合したる勇氣は、如何なる困難にも打勝ち得るものなり。ティンゲルは、フアラデーを評して、『其熱せる瞬間に決斷心を起し、其冷靜なる瞬間に能く其決心を行へり』と曰へり。忍耐力は、之を正しく活用せば、時と與に増進し、若し確乎として之を應用せば、凡夫と雖も必ず其報酬を得ることなくして止むものに非ず。他人の力を頼むことは、比較的益なし。ミケル・アンゼロの恩人の一人が歿したる時、彼は『予は初めて世界の希望が多くは夢幻にして、自己の力を頼みて立身出世を圖るは、最も善き最も安全なる行路なる所以を曉りぬ』と嘆じたり。

和勇氣と柔
勇氣は必ずしも柔和と云ふ事と兩立すべからざるものにあらざるなり。却つて溫雅と柔和といふ性質は、最も勇猛なる事業を成し遂げたる男女の特別なる品性なることを知る。サア、チャールズ・ナピールは、英國の名將なりしが、物も言へざる動物を殺すに忍びずとて、狩獵を廢したり。同じく英國軍人

中最も勇敢にして最も柔和なる人は、サア、ゼームス・アウトラムなり。彼はナ
ビールが印度のペーヤードとまで尊稱したる勇將なりき。彼は婦人には鄭
重にして、小兒には柔和、弱者には親切、腐敗せる人には嚴刻にして、正直なる
人には夏の如く優渥なりき。其正直なることは白日の如く、其高潔なること
は徳行の如し。

ブラックプリンス太子と異名せられたる英國のエドワードが、佛軍とポ
イクテイルスに戦うて、大勝を得、佛國王と其王子とを捕虜とするや、其夜彼
等を饗應して、優渥なる待遇を與へ、自ら起ちて杯盤の間に周旋したり。され
ば佛王等は感慨して、其徳に心服せり。エドワードは、年少なりと雖も、眞の丈
夫として、當時天下第一の勇士たりき。即ち彼は武士道の權化なりしなり。彼
が常に好んで曰へる二つの格言あり。曰く「勇氣」曰く「忠勤」。以て其人と爲り
をトするに足る。

寛大なる事は、勇氣ある人にして、始めて能くする所なり。寛大は勇氣ある
人の天性なり。英國革命軍の大將フェリアックスは、ネースピの戦に於て

勇者の寛
仁

自ら敵の旗手を斬りて、其の軍旗を奪ひ、之を部下の一兵卒に預けたり。此兵
卒は我が武功を誇らんが爲めに自ら奪ひ取りしが、如く仲間と言ひ觸らせ
り。風説は忽ちフェリアックスの耳に入りしが、彼は毫も憤る色なく、「彼を
して軍旗奪取の名譽を有せしめよ。予は他に十分なる名譽を有せり」とて知
らざるものゝ如くなりしと云ふ。

バンノックバインの戦に、ドラグラスは、ランドルフが大敵を持って餘して、令や
敗亂せんとせるを見、之を救はんとて、急ぎ赴きしが、途にしてランドルフが
其敵を撃退せるを見、大に呼んで曰く、「待て、願はくは吾人をして、彼等が配當
権ありと感ずるが爲めに得たる勝利を減ぜしむる莫れ」と。

活動の舞臺は異なれども、青年哲學者ピオットが、其論文を佛國學士會院に
朗讀したる時、之に對せしラブレイスの行動は、武士道の本領に叶ひたるも
のなりき。朗讀終るや、會員は一齊に彼の創見を嘆賞し、ラブレイスも亦其立
論の明晰なるを賞し、伴うて我家に歸れり。やがてラブレイスは、書齋の篋底
を探りて、幾歳月を経にけんいと古びて黄ばみたる草稿を取り出して、ピオット

ドラグラ
ス

ラブレ
イス

トに渡しぬ。讀みもて行く中に、ビオットの驚愕は甚しく、色を變ずるばかりなりき。蓋し彼が今日學士會院に於て多大の賞讃を博して得意なりし所謂創見は、悉く此草稿に解説せられ居たればなり。ラブレースは決して此事を漏らさざりしかば、ビオットは當然學士會院に於て名譽を授けられぬ。且つラブレースは、其後もビオットと與に沈黙を守りしが、後五十年を経てビオット自ら此事を表白し、天下は初めて其秘密に驚きたり。

佛國の一大工に就きて感ずべき逸話あり。是れ前例とは其舞臺を異にすれど、同じく自己を犠牲にするの特色を語る佳話なり。巴里市に建築中の高き巨屋あり、例の如く棧敷を掛けて其上に、仕事師と材料とありしが、棧敷は餘りに弱かりし爲め、俄然崩れて其上に在りたる人々は、只二人を除きて、皆地上に墜落したり。此二人とは、一人は青年にして、一人は中年者なりしが、幸ひ極めて狭き材木に取籠りて墜落を免れたるなり。然るに其足場は到底二人の重量に堪ふるものにあらずして、振動甚し、今や將に落ち懸からんとせり。時に中年者は叫んで曰ふ、「ビエール君、君落ちよ。予は一家の父なり」と。ビエ

ールは「實に然り」と曰ひつゝ、手を離すと共に、死體を地上に横たへたり。而して家族の父なる中年者は助かりぬ。勇敢なる人は襟度宏大にして、柔和なり。彼は敵と雖も、其不利益なる場合に在るときは、之に乗ぜざるなり。又敵に防禦力無きときは、之を撃たざるなり。敵味方入り亂れたる激戦中に在りて、斯の如き宏量の甚だ屢々示されたるを見る。デッティンゲンの戰に、佛國の騎兵、英軍の一聯隊に突撃せり。佛の騎兵隊長は、英軍の將に迫りて將に之を斬らんとしたるが、彼が既に隻手を失ひ、僅に隻手によりて手綱を握れるを見、劍を捧げ、敬禮をなして、其儘に過ぎ行きたりと云ふ。

チャールズ第五世皇帝にも一佳話あり。皇帝ウッテンベルグを圍みて之を陥るゝや、行きて宗教改革者ルーテルの墓を見たり。其墓碑銘を讀みつゝ、ありける時、卑劣なる一阿諛の臣あり、墓を堀りて異端者の死灰を風に散らしては如何と請ひぬ。皇帝赫として逆鱗し、「予は敢て死者と戰はざるなり。好し此場處をして尊敬あらしめよ」と答へたりと云ふ。

宏量なる人

基督教徒より大異教信者と稱せられたる希臘の大哲學者アリストートルが二千餘年前、宏量なる人、換言すれば、真正の紳士に就きて云ひたる語は、今日に在りても、尙ほ眞理たるを失はず、曰く「宏量なる人は善き運命に於ても、惡しき運命に於ても、共に適度を以て行動すべし。彼は勿論如何にせば賞められ、如何にせば賤めらるゝかを知れり。彼は成功を以て悦ばず、又失敗を以て悲まず、己に欲する所あらざるが故に敢て危険を恐れず、又好んで之を求めず。彼は遠慮勝ちにして寡言なり、されど必要なる場合に臨めば、能く明白に、能く大膽に、其心を語る。彼は好んで人に感服す。蓋し彼に在りては何物も偉大ならざればなり。彼は亦人より受けたる損害をも看過して咎むる所なし。彼は自己及び他人に就きて語るを欲せず。蓋し毀譽褒貶は其意に介する所にあらざればなり。彼は些細なることに就きて叫ばず、又他人の援助を求めず」と。

之に反し、卑劣なる人は、感服することも亦卑劣なり。彼等は謙遜も寛仁も宏量も有せず。他人の弱さに乘じ、其備なきを奇貨となし、之を利用して憚る

所なし。殊に義理も人情も度外視して、權勢の地位に登るに成功せし時を然りとす。高位に居て外見を衒ふ者は、下位に居て外見を衒ふ者よりも、其罪一層恕すべからざるものなり。何となれば、彼等は其丈夫らしき氣象の缺乏を感ぜしむるの機會一層多ければなり。空威張りをなし、法螺を吹くは、彼等が常なり。而して彼等益々立身せば、其地位不相應と云ふ事は益々著しくなるなり。諺に曰く「猿は木に上ること愈々高ければ愈々多く、尻尾をあらはす」と。何ぞ夫れ痛快なるや。

凡そ事は多く其爲さるゝ方法に由る者なり。一の行爲にして、寛仁の精神を以て爲さるれば、即ち親切として取らるゝも、若し吝嗇の精神を以て爲さるれば、殘忍酷薄ならざるも、貪慾なりと感ぜらるゝものなり。英國の詩人ベンジヤンソン病みて貧なり。國王粗末なる見舞料を添へて見舞の使者を派す。言甚だ不遜なりければ、無遠慮なる詩人は答へて曰く「予が裏店に住むが故に、國王之を贈りたり。請ふ歸りて之を國王に傳へよ。王の靈は裏店に住めり」と。

以上論じたる所に由りて之を見れば、忍耐にして剛勇なる精神の人となるには、品性の修養を最大急務とすべきは言を須むずして明白なり。是れ人生に於て常に有益なるのみならず、亦幸福の根柢となるものなり。之に反し小膽、殊に臆病なるは、最大不幸の一なり。男兒及び女兒の教育は、何事にも恐怖せざるやう育てるを主眼とせよとは古聖人の常に人を戒むるの語なり。恐怖を避へんとする習慣は、疑ひもなく、注意、勤勉、快活の如き他の習慣と

同様教育せらるゝものなり。恐怖は多く想像より生ずる結果なり。想像は徒らに未來を案じて暗黒の方面に妄想を生ぜしむ。故に勇氣を振作し得る力ある人にして、想像的小膽者の爲めに其膽を奪はれ、恐怖の渦中に投ぜらるゝ者極めて多し。されば想像なるものを嚴重に制取するにあらざれば、吾人の目的の中途にして悪事に出遇ひ、豫想の爲めに其悪事に惱み、以て自ら其苦痛を招くに至ることある可し。

勇氣の修養は、女子教育の度外に置く所なりと雖も、其實、音樂や、佛蘭西語

や、乃至地理學よりも遙に必要なるものなり。吾人はサア、リチャード・スチール氏の婦人の特色は優柔なり。女子をして可憐ならしむるは屈從なりとの意見に反對する者なり。吾人は女子に決斷力と勇氣とを教育すべしと主張する者なり。是れ蓋し女子をして、有力ならしめ、自信を強からしめ、有益幸福ならしむる一手段なり。

臆病は可憐なるものに非ず、畏怖は愛らしきものに非ず。精神に限らず、身體に限らず、凡て薄弱と云ふことは畢竟畸形の如し、決して快感を興ふるものに非ざるなり。勇氣は美なり、崇高なり、恐怖は醜なり、卑しむべきものなり。而も最高の溫雅、柔和は、勇氣と相伴ふものなり。畫家アリス・シエッフェル、嘗て其女に書を寄せて曰く、『能く勇なる可し、能く柔なる可し、此等剛と柔とは女子の本領なり。面倒と云ふ事は、何人も豫期せざるべからず。順境に處しても、逆境に處しても、泰然として動かざるは、運命を作る唯一の法なり。吾人は決して勇氣を失ふ可からず。落膽は自己に取りても、將た自己の愛する人に取りても、益々不可なるものなり。健闘すること、再三再四戦ひを新にすること』

は即ち人生の遺産なり」と。

病氣と悲嘆との場合に、女子の如く勇ある者なく、女子の如く思ひ切り宜き者はあらず。女子の心情が關係せる場合の其勇氣は、

『お、女は病なりとこそあはるれ、

されど、汝が心の聲は大膽なり。』

との古詩によりて盡きたり。女子が男子の如く辛苦艱難に堪へ得ることは、古來經驗の證明する所なれども、今日女子が教へらるゝ所の忍耐は、臥薪嘗膽の大苦痛に非ずして、實に區々たるものなり。斯の如き區々の艱難を因循姑息に放任するときは、忽ち病的に多感性と變じ、久しきに亘りては、慢性的厭世病を蔓延せしめ、遂に彼等の生命を滅亡せしむるに至るべし。

是を治するの良法は、道德的及び心的修養なり。心の力は男子に於けるが如く、女子の品性改良に必要なり。女子に人生の事務を處理する能力を與ふるものは心の力なり。大事に臨んで、能く其心を動かさざらしむるものは剛毅の心なり。男子の如く、女子に於ても、品性は徳義の最良なる番兵なり。宗教

女子に於ける靈の力

の最良なる襟母なり。時代の最良なる防腐劑なり。肉體の美は年と共に衰ふ可けれども、心と品性と、の美は年と共に益々増進するものなり。ベン、ジョンソンの婦女觀は、次の詩句の如し。

『女は恭敬、柔和、溫雅にして、

かりにも、尊大、傲慢なる振舞あるべからざるものぞ。

なよやかなる心に、ふさはしき、

女の操缺かさて備へてあるべきものぞ。

その天職たる機織裁縫の業に拙からず、

暇だにあらば、糸を紡がん心がけある

賢く、氣丈なる心根あるものこそ女なれ。』

女子の勇氣は多く、受働的なるが故に、真ならずと謂ふ可からず。女子の勇氣は、世界の喝采に由りて鼓吹せらるゝものにあらず。多くは、隱然たる家庭生活の上、に發現するものなり。されど亦赫々として白日と其光を争ふが如き、女丈夫たる者も古今甚だ罕ならず。歴史上に最も著明なる實例の一は、ゲルト、ルドフ、オン、デル、ワルトなり。其夫は皇帝アルベルト暗殺の無實なる

嫌疑を受け、車輪にて轢殺すと云ふ酷刑を宣告せられぬ。其冤罪を知れる彼女は、最後まで彼の爲めに辯疏し、せめては刑の苦痛を輕からしめんとて、皇后の憤怒をも恐れず、天候の險惡をも意とせず、二晝夜の間、夫の身を守りぬ。されど、女子の勇氣は、單に受働的なるのみならず、愛情の爲め、又は職分の觀念の爲めに勵まされて、丈夫も及ばぬ勇氣を顯はすことあり。蘇格蘭の國王、ゼームス二世を弑せんとて、一揆俄に起りて、其行在所に攻め寄せたり。時にゼームスは、身を以て纜に免るゝが爲めに、己が居室とせるものゝ前なる室にありたる女官等に、其力の及ぶ限り、扉を支へて逃走の時間あらしめよと命じぬ。一揆は既に深く企みたることなれば、豫め扉の掛金を取毀ちたれば、鍵を下すことも叶はざりき。一揆は既にして女官室に闖入し、早や門をも外されぬ。之を見たるカセリン・ド・グラスは、一門相傳の勇氣を奮ひ起し、咄嗟門の代りに其一本の腕を押込みたり。纖弱なる女子が一本の腕は焉んぞ狂暴なる一揆の力を支へ得んや、骨は忽ちにして折れぬ。一揆は手に手に、白刃を閃かしつゝ、争ふ女官等を突き飛ばし蹴仆し、室内に亂入しぬ。されど彼

等は國王ゼームスを逸したり。

ナッソウのウキリアム及びピコリニー海軍大將の後裔たるシャール・ロット・デ・ラ・トレンムイルが、眇たる一個女子の身を以て、ラソム家を防禦したる美談は、烈婦の龜鑑なり。共和黨軍が之に勸降使を送るや、彼女は夫に此家を守るべく委囑せられたるなれば、夫の命にあらざれば開け渡すを得ず、唯神助によりて死守せんのみとて、斷然之を拒絶したり。後世史家の言に據れば、當時彼女の防禦法と勇氣とは、毫も間然する所なかりしと云ふ。籠城約一年、其三ヶ月間は全く重圍の中に陥りしが、毫も屈するの色なく、遂に勤王軍の援兵を得て敵を撃退せしめたり。

探險家フランクリンの妻の勇氣は、世人の到底忘る可からざる所のものなり。フランクリン遠征隊の行衛搜索其功なく、皆絶望の聲を放ちたるも、獨り彼女は始終其勇氣を失はざりき。帝國地理學協會が彼女にファウンダース賞牌を贈りし時、サ・ロ德里ック・マーチソンは、多年彼女と親交中、婦人の勇氣を觀察するの機會を得たりとて、次の如く言へり。十二ヶ年の長時日、失敗に

失敗を重ね、希望は全く絶えたるにも拘はらず、彼女は終始其目的と熱心とを變ぜざりき。斯の如きは實に未曾有の事なり。最後に企てたるマックリントックの率ゐし、フオックス號の遠征は、二個の事實を明瞭にしたり。即ち探險家フランクリンは、今日まで航海者の知らざりし海洋を探險し、北西航路の發見中、不幸にして命を失ひたる事、其一なり。有名なるフランクリンの寡婦の功績に報ゆる爲め、此賞牌を贈呈する事は、國民一般の喝采する所なるべき事、其二なり」と。

大丈夫の品性を、色彩する職分の爲め、獻身すると云ふ事は、女子に在りては、屢々慈善の行爲として顯はれたり。慈善は陰徳なるが故に世に知られざるもの甚だ多し。女子の慈善的行爲にして、世に知らるゝに至りしは、畢竟其範圍の大にして一般的なりしが故にて、勿論求めずして來りしもの、其人に取りては、却て迷惑に感ぜられしなる可し。監獄改良家としてのフライ嬢、カーペンター嬢の如き、移民獎勵者としてのチンヨーム嬢、ライ嬢の如き、赤十字業に於けるナイチンゲール嬢、ガレット嬢の如き、世人の普く知る所なり。

此等の女子が、個人的家庭的生涯の範圍を脱して、公共的社會的なる慈善事業の急先鋒となりし事は、即ち其道德的勇氣を顯はしたるものと謂ふ可し。蓋し無事安逸退隱等は、女子の本然性なればなり。家庭圏外に一步を踏み出して、利用厚生の大舞臺を窺ふ婦人は、甚だ罕なり。然れども、若し其必要を感ずるときは、彼等は之を見出すに左ほど困難を感ぜざるなり。男子と女子が提携すべきものは、一二にして止まらず、唯誠意と實行とを必要とするなり。前に擧げたる慈善家は、決して自ら求めたるにあらず、彼等の前途に横はるものは、職分なり。職分は彼等に最も近く在りしものなりき。彼等は良心の満足以外に何等の報酬をも望みしにあらず。况んや名譽を豫期するごとくに於てをや。

囚人保護者の中にサラ・マーティンあり。其名フライ嬢の如く高からざるも、其事業に至りては、遙に之に超ゆるものありたり。サラ・マーティンが、一身を其慈善事業に捧ぐるに至りし動機は、同時に能く婦人の誠實と勇氣とを説明するものなり。

サラ・マーティンは、貧乏人の娘にして、早く孤兒となれり。さればヤームス
在のケイストルといふ處に住める其祖母の家に客となり、針仕事によりて、
一日五十錢の賃錢を稼ぎ、心細き活計の煙を立てたり。一千八百十九年の事
なるが、或る婦人が實子を虐待せし罪露はれ、裁判の結果ヤームスの監獄に
囚はれ、其評判一時市中に喧しかりき。マーティンは、偶々其判決文を讀みて甚
だ感動し、監獄に此女囚を見舞ひ、改心せしめんと希望を起しぬ。是より先、
彼女は監獄の嚴めしき門前を通行する毎に、其筋の許可を得て獄裡に出し、
囚徒に神の教を説き諭して、浮世の風に當らしめんと一念萌すこと其常
なりき。

されば此に至りて、夫の實子虐待の女囚を改心せしめんと一念は、禁ぜ
んとして禁ずるを得ず、意を決して監獄の門を潜り、獄吏に許可を願へり。事
故ありて彼女は一言の下に拒絶せられぬ。一たび家に歸りしが、斯くて止む
べきにあらねば、再び行きて請ふ所あり。遂に許可を得たり。良ありて夫の女
囚は彼女の前に引出されぬ。マーティンが其訪問の動機を詳かに語りし時、女

囚は暗然として涙を流し、其好意を謝せり。此涙と感謝とは、マーティンが後半
生の行路を形づくりぬ。爾來彼女は、針仕事の餘暇絶えず監獄に出入し、囚人
改良に全力を傾注せり。當時の獄制には、教誨師もなく、教師もなかりしかば、
彼女は教誨師と女教師とを兼ね、彼等に神の道を説き、又讀書を教へたり。彼
女は日曜日の他に、満一日と餘暇とを其目的に供しぬ。女囚には裁縫と女子
に適當なる商工業とを教へ、男囚には、帽子、シャツの製造及び修理の業を授
け、怠惰と不善の思想とを成るべく避けしむるやう苦心したり。亦囚徒の稼
ぎたる賃錢の貯蓄法を案出し、以て彼等が出獄後正業に就くの資本たらし
めぬ。

斯の如く、餘り熱中せし爲めに、彼女の職業たる針仕事は、甚しく衰微した
り。是に於て、其職を挽回する爲めに、囚人の保護改良を息むべきやとの問題
生じぬ。直ちに解決せられたり。マーティン謂へらく「損失高は決まりぬ。余が心
は決したり。他人に眞理を傳ふるが爲めに、余は一時活計の困難に迫るとも、
一個人の二時的苦痛は神の道を廣むる爲めには忍ばざる可からず」と。今や

彼女は囚徒の改善に、毎日其六時間乃至七時間を犠牲とするに至れり。新囚徒の如きは、悖逆無道、實に度し難きものありしも、彼女が諄々として倦むなき親切には、彼等も我を折りて畏敬するに至りぬ。重軽罪囚にして、彼女の感化を享けざる者なく、彼等は生れて初めて筆を持ち、字を書くことを學び得たり。

彼女が獨力にして、此貴き行路を歩むこと二十有餘年の久しき其間、彼女の生活費を支へしものは、祖母の遺産より生ずる十磅ばかりの収入と針仕事より得る所の賃金とのみなりき。其後、監獄教誨師の制度あるに及びて、官彼女の功績を認め、教誨女教師に任じて、年俸十二磅を給するに至りしが、そは生前僅に二ヶ年間なりき。最初彼女は公職に就くを好まず、金錢上の目的ならねばとて年俸の支給を謝絶せり。されど官は、監獄に出入を許可する以上は、彼女が政府の命に應ずるは當然にして、強ひて辭退せば許可を差止むべしといへり。故に已むを得ずして、彼女は二ヶ年間十二磅の年俸を受けたり。されど天の命數は、人力の如何ともし難き所、神の如き彼女も、老衰して最

早や、獄裡の不潔なる空氣に堪へ難き健康となれり。死の褥中に横はりて、病間讚美歌を作りぬ。勿論其以前にも、餘暇に作りたるもの少なからず。詩の技巧上より見ば、勿論言ふに足らざるも、高潔なる精神と博愛主義との籠れるもの、未だ斯の如きはあらざるなり。されど彼女自身の一生は、其自作の詩よりも高尚なる詩歌なりき。其生涯は、眞の勇氣、忍耐、博愛及び信仰に満ちたるものなりき。

『世の人に神の御恵を享けしめん、その高き望み』

と歌ひたる彼女の詩句は、實に彼女の生涯を説くものなり。

第六章

克己

名譽と利益とは、常に同一の袋の中に在らず。

ジョーザ・ハーバート

各人の政府は、唯一なる個人の眞自由郷なり。

フリードリヒ・ヘーゲル

男女に限らず、凡そ善なるものゝ顯はるゝは、忍耐恒久の後に在り。

アーサー・ヘルプス

節制は、一切の試験に堪ふる證據なり。地球運轉の如き殿しき不斷の精勵なり。

嚴格なる克己は、貴き感情の榮えざりし處に、禁制と思はるゝ影をひるげたり。

寛容、思想行爲に於ける慈悲、潔よき心の決斷、將た一切の美德は、彼女が貴き習

慣の生む所なり。

ウォーヅワース

克己とは、勇氣の變形したるものに過ぎずして、品性の根本要素なり。シエ

クスビーアが、人間を定義して前後を見る、活物なりと云ひたるは、實に此

性質の謂ひなり。克己と云ふ道念は、人間と禽獸とを區別する主なるものに

して、これ無ければ人の人たる所以存せざるなり。

克己は徳の根本なり

克己は總ての徳義の根本なり。人をして、其煩惱情慾の發する儘に放任せ

しめんか、即ち其刹那より道德的自由を放棄して、人生水の流るゝに任し、終

生情慾の奴隸とならん。

道德的自由、換言すれば、萬物の靈たらんとせば、人は、天性の煩惱に抵抗せ

ざる可からず、而して之を爲すには、克己に由らざる可からず、されば、肉體的

人生と道德的人生との眞の區別を成し、個人的品性の第一基礎を形づくる

ものは、此克己の力なり。

修養の價値

聖書は、城市を攻め取る所の勇者に稱讚を與へずして、自己の精神を治む

る所の人を一層勇なりとして稱讚を與へたり。斯の如き勇者は、修養により

て、己の思想、言語、行動の上に不斷的節制を行ふ人を云ふ。夫の社會を腐敗せ

しめ、若し之を放任せば、社會を辱かしむる罪惡となるべき情慾の十中八九

までは、自修、自重及び克己の前に向へば、忽ち無意味のものとなりて、萎縮せ

ざる可からざるものなり。能く此等の道念を練磨せば、心の純潔は習慣的と

なり、正義高潔なる品性を形づくるに至る可し。最も能く品性を維持するものは習慣にして、場合の如何に依らず、其目的が正しき方向に在るか、將た不正の方向に在るかに従ひ、習慣は仁君ともなり、暴君ともなる者なり、吾人は習慣の寵臣となることを得、又其奴隸となることを得べし。習慣は吾人を扶けて善の道を進ましめ、又滅亡の道に吾人を追及するものなり。

注意して練習を積み、習慣は直ちに形づくらしものにして、組織的修養及び訓練の力は、實に驚くべきほどなり、見よ、田夫野人にして、嚴肅なる修養と訓練とにより、勇氣、忍耐及び犠牲の美德を發揮せる者、多きにあらずや。戰場に於て、或は海上の危険例へば、セラ・サンド號の火災、バーケンヘッド號の難破の如き場合に於て、無下に賤き徒が、修養の結果、眞の勇氣と武士道とを現はせしにあらずや。

道徳的修養と訓練とは、品性を形づくる上に、少からず影響あるものなり。是れ無ければ、人生は混沌として、規律なきものならん。自重の念、從順の習慣

及び職分の觀念等を養成發展せしむるは、主として是れなり。故に最も能く己を恃み、己を制する人は、常に修養を怠らず。而して其修養愈々完全なれば、其品性は愈々高くなるものなり。人は慾望を制し、良心の命令に服従せざるべからず。然らざれば、徒らに其奴隸となりて、感情及び煩惱の弄ぶ所とならん。

克己の力

ハーバート・スペンサー曰く、『克己心の最も勢力ある所に、理想的人物の完全なる者成立す。煩惱を制し、換言すれば、順次に心中に起り來る慾望の爲めに左右せらるゝことなく、能く自ら抑へ、自ら鑑み、諸の感情を召集せる會議に於て、總ての行動を充分に討論し、又慎重に判斷したる決議に由りて支配せんとするは、教育、少なくとも道徳的教育の務めなり』と。

家庭的修養

道徳的訓練の第一教育場は、既に論じたるが如く、家庭にして、第二は學校。其次は實際的生涯の大學校たる社會なり。何れも皆其次期教育の豫備門にして、男女の將來は主として其前期の教育如何に因るものなり。されば、若し彼等にして、家庭と學校との訓練を放任せらるゝときは、彼等自身の不幸な

るのみに止まらず、亦彼等が集まりて組織せる社會の不幸なり。善良なる家庭は、常に最も完全に訓練陶冶の行はるゝ所なり。道徳的訓練陶冶は、自然法則の力に依りて動くものなり。之に配屬するものは、無意識的に屈從し、遂に品性を形づくるなり。されど其感化は、隱然たるものなり。道徳的訓練の必要なる所以は、シンメルペンシク女史の日記中の一事實、能く之を證明す。彼女の夫と共に、英國及び大陸諸國の癡癲病院を視察したる一英國婦人は、狂者の多數は、少年時代に意志の訓練を等閑にせられしものにして、克己の修養ある人は、此病に罹ること罕れなりとの事實を發見したり。

自修
凡そ道徳的品性は、其人の性質、身體の健康、並に家庭的又は幼時の育て方及び朋友の善惡に因るものなりと雖も、亦個人が各自注意深く且能く忍耐して、克己心を以て、自ら制し、自ら修養する力に由ること甚だ大なり。或る有名なる教育家は、癖と習慣とは、希臘語及び拉丁語の如く教へざる可からず、幸福の要素なればなりと曰へり。

ドクトル、ジョンソンは、天性憂鬱に傾き易く、極めて幼き時より、甚だ之が爲めに悩まされたる人なるが、尙ほ語りて曰く、「人の機嫌の善し惡しは、多く其人の意志如何に依る」と。されば、人は一方に於て、自ら忍耐及び満足の習慣を養成し得ると共に、又他方に於ては、不平不満の習慣を養ひ得るものなり。吾人は針ほどの惡をも棒ほどにし、棒ほどの幸福を針ほどにするやう、自ら馴らすことを得。又吾人は、區々たる不幸に怖ぢ氣だちて、其犠牲となり得るものなり。斯の如く、吾人は、快活なる氣質にも、憂鬱なる氣質にも、自ら教育することを得。自然及び人生を樂天的に觀察し、思考する習慣は、他の習慣の如く、自ら養成するを可とす。ドクトル、ジョンソンが、凡て事の善き方面を見る習慣は、一年一千磅の年金よりも、遙に價值ありと曰ひしは、蓋し過言にあらざるなり。

宗教家の生涯は、嚴重に自制と安心立命とを以て一貫するものなり。宗教家は眞面目にして、謹慎ならざるべからず。善を勧め惡を懲らし、常に勇にして死を見る歸するが如く、社會の木鐸となりて、精神的罪惡と戰ひ、宗教擁護

の任に當るの覺悟なからざる可からず。

事務に當る人も、必ず嚴重に規則と制度とに従はざるべからず。事務は人生と同じく、道德的槓杆の理に由りて取扱はるゝものにして、之に成功するは、主として己の性癖を制し、注意深く自ら修養することに由る。忍耐と克己とは、人生の大道を滑かにし、又多くの道を開くものなり。而して亦自重と云ふ事も、同一の結果を生ず。何となれば、自己を尊敬する人は、亦常に他人の人格を尊敬するものなればなり。

忍耐の價値

政治界に於ても、亦事務に於けると同じ。政治上の成功は、材幹によること少なく性質に由る者多し。天才によること少なく、品性に由る者多し。若し人にして克己心なければ、即ち忍耐に乏しく、機轉の才に缺け、又己を治め、他人を取扱ふの力無からん。嘗て政治家ピットの前に於て、總理大臣に最も必要なる性質は何ぞと云ふ事話題に上りしが、或る者は辯舌なりと云ひ、或る者は智識なりと云ひ、或る者は勤勉なりと云ひ、紛々として決せず。然るにピットは「否、そは忍耐なり」と曰へり。而してピットの所謂忍耐とは、克己の意味に

ハムデンの品性

して、流石ピットは、此性質に富みたり。彼の友人ジョージ・ローズの言ふ所に據れば、彼は一度もピットが氣を取亂せるを見たることなしと。

○眞の英雄的品性が完全にせらるゝは、忍耐と克己との力なり。大政治家ハムデンの特色は即ち是れなり。彼の高尚なる品性は、政敵すらも敬服する所なり。されば、クラレンドンは、彼を以て、癖の少なき、謙遜にして洒々落落、禮儀に厚き人なりと曰へり。彼は親切にして膽略あり、柔和にして言を謹む人なり。而して彼の心は、何人に對しても、常に愛を以て熱したり。彼は決して多辯の人にあらず。されど品性の高きが故に、一語悉く千鈞の重みありたり。勢力彼の右に出づる者あらず。彼は飲食を節し、愛憎と慾望とを制したり。故に他人に對して大なる勢力を有したり。サア、ヒリッパ・ウキックは、彼の政敵なりしが、或る政治問題を論ぜるとき、圖らず彼の勢力大なることを白状して曰く、「我々は、今にも互に頭髮を攫みて、心臓に劍を突立てんばかりなりしが、聰明沈重なるハムデン君が、簡單なる演説にて仲裁せしかば、雙方互に手を分ちて明朝まで争論を延期するに至れり」と。

強き氣質

強き氣質は、必ずしも悪しき氣質にあらざるも、唯氣質が益々強ければ、益々自ら抑へ、自ら制することを必要とす。人は老境に進むに従ひ善良となり、經驗に依りて改善す。されど、こは、其人の天性の廣さと深さとに由るとは、ドクトル、ジョンソンの言なり。人を破滅せしむるものは、必ずしも其人の過失にあらず。そは寧ろ、過失の爲されたる後に、其人の自ら行ふ所の仕方なり。賢者は其自ら起したる過失によりて利益を得、其過を再びすることなし。されど、亦此處に、一種の人あり。此種の人には、經驗は未來に何等の感化をも行はず。唯時と共に、益々狹隘に、益々悲痛に、益々奸惡になるのみなり。

青年の所謂強き氣質とは、不熟なる精力の量多き意にして、若し之を相當に使用せば、有益なる仕事を爲し得るものなり。ステイブンゼラルドは、素と佛國に生れ、米國に航して、赤手巨億の富を得たる人なるが、強き氣質の手代あれば、早速之を用ゐ、其爲すがまゝに放任して、決して干渉することなかりしと云ふ。蓋しゼラルドの意見に據れば、斯の如く強き氣質の人は、最も善く仕事を爲す人にして、若し誘惑せらるゝことなければ、其精力は自然仕事の

上に現はるゝものなり。

強き氣質とは、唯強き、激し易き意志の意なり。されば、此氣質は、能く制馭せざれば、往々邪路に馳せて、情慾の激發となる。然れども、能く制馭し、能く抑壓すれば、亦活潑なる勢力及び有益なる事の原因となるは、恰も蒸氣機關内の蒸氣力の如し。故に歴史上偉人物の或るものは、強き氣質の人なり。されど、彼等は同時に其動機力を嚴重なる節制の下に置き得たる大英斷家なりしなり。

ストラッ
フォード

有名なる政治家ストラッフォード伯は、噴火山的多感の天性を有したりしが、自ら此缺點を知りて、之を矯むるに非常の苦心をなしたり。其親友クックが、眞率に彼の缺點を缺點として摘發し、其矯正せざる可からざることを忠告したる時、伯は、其好意を謝し、書を寄せて曰く、『足下は予に忍耐なれよとの訓戒を與へたり。實際予の天性は、年と共に其度を加ふ。經驗を積みば、追々冷靜となるべしと自ら頼みつゝ、能く警戒を加へ居るも、尙ほ往々にして、弱點の爲めに乘ぜらるゝを免れず。然し此場合に在りては、多少恕す可きもの

ありと信ず。何となれば、予の熱心は、名譽と正義と陛下の御爲めを思つて發したるものなればなり。そは、憤怒と云ふまでには至らず、唯熱心を誤用したるなり。然れども、こは明かに咎むべき罪惡にして、之が爲めに迷惑したる人こそ誠に氣の毒なれ」と。

クロムウェル

クロムウェルも亦、青年時代には、人並み外れて、氣短かき男なり。不羈放縱にして、任侠を好み、喧嘩好きとして、郷黨の憚る所となり、將來の墮落頗る憂ふべきものありしが、幸にして、宗教の感化を享け、カルウェイン主義を勵行して、自ら其情を抑制したり。されば、其精力的氣質は、公生涯に入るに及びて、俄然として爆發し、能く二十年の久しき英國人を感化したりき。

ナッソウ家

由來ナッソウ家よりは、多く英邁の人物出てしが、皆克己と意思の強固なるを以て有名なり。夫の和蘭共和政治創建者として名高きナッソウ家のオレンヂウキリアムは、沈黙のウキリアムと異名せられけるが、そは彼が訥辯なりしが故にあらざり。彼は、必要の場合には、甚だ有力なる能辯家なりき。されど、言ふ可からざる時には、言はず。其國の自由の爲めに危険なりと思へば、他

くまでも秘密を守りたるが故なり。彼は舉止極めて溫雅なりければ、敵は怯と呼びて嘲りたり。されど、時來れば、彼の勇氣は猛烈火の如く、其決心は鐵の如く堅し。和蘭の史家モートレー曰く、『激浪逆卷く洋中の岩とは、彼の味方が、彼の剛勇を嘆美したる敬語なり』と。

ワシントン

モートレーが、此沈黙のウキリアムをワシントンに比したるは、頗る妥當なり。彼の如くワシントンは、威嚴、勇氣、純潔及び才藝の權化として、歴史上に卓然として立つ者なり。彼が危急存亡の大事に際しても、能く其感情を制したる事は、彼の性質を充分に知らざりし人すら、甚だ感嘆せし所なり。彼は天性多情多感の人なりき。其溫順、柔和、慇懃、謙讓等の美德は、畢竟幼き時より熱心に勵行したる克己修養の結果に外ならず。彼の氣質は猛烈なりき。彼の感情は強烈なりき。されど、絶えず之を抑へて、終に勝利を得たり』とは、ワシントン傳の語る所なり。又曰く、『彼の感情は猛烈にして、時に狂暴に流れんとせしが、彼は其刹那に於て、之を抑制するの力を有したり。恐らく、彼の品性中最も著しきは克己ならん。而してそは多少修養の結果なりと雖も、天性此克己力

を有したるが如し」と。

ウエリントン

ウエリントン侯は、ナポレオンの如く、甚だ性急なりしが、克己によりて、此弱點を矯むるを得たり。彼は東洋の勇士の如く、心膽を練りて沈着の氣を養成したり。故に彼はウォータロー其他の戰場に於て、彈丸雨飛の間に立ち、神色自若、聲も亂さず、號令し得たり。

克己の例

詩人ウォーヅワースは、幼にして剛情偏屈、性急なりしが、人生の經驗に由りて、克己力を修養し、其力に依りて、天稟の弱點を矯正するを得たり。然し其幼時の惡癖は、後年亦、彼が世間の批評に屈せず、超然詩界に標榜することに力ありたり。英文學史上、彼の如く抱負の大なりし者は有らざりき。

フアラデー

身體虛弱なりとも、氣質さへ善ければ、靈の力は活動することを得べし。近世英國物理學者の巨擘、チンダル教授は、フアラデーの品性を賞して曰く、『フアラデーの愛らしき優しき性質の下には、火山の熱ありたり。彼は激し易きこと、烈火の如き性質なりしが、能く自ら抑制し、之をして空しく無益なる情火となりて消費せしめず、却つて其火を化して、人生を濫むる中央の光とな

し、又之を動かす原動力となしたり」と。

フアラデーの品性には、尙ほ一の長所あり。そは克己に似たる自己の慾を節する事なり。若し彼にして應用化學に身を委ぬれば、忽ち巨萬の財産を作り得たり。されど、彼は健氣にも、此誘惑に抵抗して、純正化學を擇びぬ。チンダル教授嘆じて曰く、『彼が生涯の間を計算して、『鍛冶屋の子、製本屋の丁稚たりしフアラデーは、十五萬磅の財産と、持參金なき科學と、二者其一を擇ばざる可からざるに至りぬ。彼は意を決して、後者を採り、清貧を樂んで、其生涯を終れり。然れども、四十年間、英國の學界をして、世界萬國中第一等の地位を維持せしめたる、其榮譽は、彼が一代に作り上げたる財産なり』と。

アンケチ

此種の例を佛國に求むれば、歴史家アンケチルは、其一なり。彼はナポレオン崇拜の時流に阿ねらざりし氣骨稜々たる文士の一人なり。故に彼は、忽ち窮乏の悲境に陥り、一日の生計費を三錢に限り、パンと牛乳とによりて、纔に露命を繋ぎたり。或る時其友人に語りて曰く、『予はマレンゴ及びアウステルリツチの征服者の爲めに、尙ほ一日二錢を貯蓄せり』と。友人曰く、『されど、足下

若し病めば救助を求めざるべからず。足下何を苦んでか、人の爲す所に従はざるや、宜しく皇帝の意を迎ふ可し。足下は生きる爲めには皇帝を必要とす』と。然るに『予は死ぬる爲めに皇帝を必要とせず』とは大歴史家の答なりき。されど、彼は貧の爲めに餓死することなく、能く九十四年の高齡を保ちたり。『來りて、尙ほ生氣満々として死に行く人を見よ』とは、彼が其親友に告げたる辭世の一句なりき。

アウトラム

サア、ゼームス・アウトラムも、亦此種の人なり。勿論其舞臺は異なりて、彼は印度に於ける英國の軍人なりき。大王アーサーの如く、彼は確に無私無慾の人なりき。個人として國家の政策に反對せしも、決して軍人たる職分の道を忘るゝことなく、戰塵の苦を厭ふ所なし。されば、シンデ侵略の政策を喜ばざりしも、直ちに命を拜して征途に上りぬ。戰場に於ける其武勇は、ナビール大將が最も光輝ある品性なりとて、嘆賞措かざる所なり。されば、戰果て、分捕品山の如く其足下に積み上げられたる時、アウトラム曰ひけらく、『予は素と此戰爭を惡めり。予は此賞金を受くるを屑しとせず』と。

アウトラムが無慾の美德は、ラックノウの遠征に當りて、ハヴェロックの爲めに、救援軍を提げ萬里の征途に上りし時にも發揮せられたり。彼は先任たるが故に當然全軍を指揮すべき權ありしが、ハヴェロックが既に建てたる戰功を全くせしめんが爲めに、義として司令權を下級のハヴェロックに譲り、自らは一義勇兵として、從軍せんと申込み、クライド卿嘆じて曰く、『アウトラム少將は、義の爲めに、自己の名譽を棄て、功を人に譲れり。されど其無慾によりて爲したる犠牲の價は、毫も減ぜざるなり』と。

人苟くも、其一生を貴く、且つ平和に過さんとせば、何事に拘はらず、私を去ると云ふ事を實行せざるべからず。人は自ら忍び、又他人を客忍すべく、性情を判断の下に屈服せしめざるべからず。不平不満自惚等の小鬼は、虚あらば乗せんと待ち構へ居れり。彼等にして一たび心中に入らば、復た去るの期なく、所謂獅子身中の蟲となりて、其處に永住地を建設すべし。

何人も其幸福を望めば、言語と行動とに制限を加ふること必要なり。蓋し言語は手を用ふるよりも、痛く人を打撃するものにして、人は劍を用ひずし

言語を憚むこと

て、銳利なること、劍の如き言語を用ひ得る者なればなり。佛國の諺に「言語の切先は、槍の切先よりも鋭し」といふことあり。當意即妙、口を衝いて出づる警句は、能く敵を狼狽せしむ。所謂寸鐵人を殺すが如きものにして、何者と雖も其鋭鋒に當るを得ず。されば、ブレイメル嬢も、其著書「家庭」に於て「神は言語の恐るべき破壊力より吾人を守護し給ふ。其處に鋭き劍よりも、鋭く心臓を刺す言葉あり。其處に人の一生に止めを刺す鋭利なる言葉あり」と曰へり。

斯の如くなるが故に、品性は、亦言語の克己にも表はるゝ者なり。故に賢人及び忍耐ある人は、自ら制して、他人の感情を害ふが如き毒舌を吐かざるも、愚者は、前後の慮りなく、思ふ通りの事を喋舌りて、友人を其戲談の犠牲となし、感情を害するをも厭はざるなり。ソロモン言へることあり。曰く「賢者の口は、其心の中に在り。愚人の心は、其口に在り」と。

然るに爰に亦愚にあらざるも、自ら制するの忍耐に乏しきが故に、其言語に於ても、行動に於ても、輕卒なる人あり。縦横の機智と骨を刺す痛快の舌を持ちて生れし天才は、一時の盛典に乗じ、うかくと毒舌を弄するが爲めに、

再び取返し、のつかざる破滅を招くものなり。政治家にして、其言を慎まざりし爲め、敵の感情を害し、失敗せし者甚だ多し。ペンサム曰く「唯一文句の言ひ方にて、友誼の運命を決定したり。又吾人の知る所の者を以て見れば、王國興亡の運命をも決したり」と。故に巧妙にして、而かも殘酷なる事を手紙に書かんと、誘惑生ずるときは、之を抑ふること困難なりとも、先づ其憤怒を、其儘墨壺の中に留め置くことを、常に安全なれ。西班牙の諺に曰く「鵝鳥の羽は、獅子の爪よりも多く、人を害す」と。

カーライルが、クロムウエルを評したる中に、次の如き語あり。「心事を内に藏し得ざる者は、大事を爲し難し」と。沈黙なるウキリアムを評して、其大敵の一人は、彼の口より無禮なる言語、或は不注意なる言語を聞きたることなしと曰へり。彼と同じく、ワシントンも、能く其言語を慎みたり。彼は決して敵の不利に乗じて、其揚げ足を取るが如き陋を學ばず。又討論に於ても、唯目前の勝利を得るに汲々たらざりき。何れの時に如何にして沈黙を守るべきかを、知れる賢者には、何時か時節到來す可し」とは、古人の金言なり。

經驗家の語る所に據れば、彼等は屢々語りて後悔したれども、其舌を包みて後悔したる例なしと。ピタゴラス曰く、「黙せよ。然らざれば黙するよりも善きことを語れ」と。ジョーヂ・ハーバートも曰く、「語らば適したることを語れ。然らざれば黙するに如かず」と。レイ・ハントの所謂紳士の聖徒たる聖フランシス・ド・サル曰く、「怒りて眞理を語り且つ、悪しきソリスを懸けて、御馳走を汚すよりも寧ろ黙するに若かず」と。佛國のラコルデルは「言語に次で沈黙は、世界に最も勢力あり」と曰へり。實に語るべき時に語るは、極めて有力なり。黄金の舌は、仕合せ者の口に在り」とは、ウエールスの古諺なり。

公憤

十六世紀の西班牙詩人、デレオンは、克己の著明なる實例なり。彼は聖書の一部分を國語に譯したるが故に、迷信黨の怒を買ひ、宗教裁判の不公平なる判決によりて、多年鐵窓の下に呻吟して、白日を仰ぐを得ざりき。されど彼は悟道の妙諦に入れるが故に、決して反訴を起し、冤を雪がんとはせず、従容として曩に暴徒の爲めに破棄せられたる草稿を再び作り上げたり。勿論怒りの言語を發することも、時と場合とに依りては、正當なるのみか

必要なるものなり。詐僞、殘酷、利己の人、に對しては、憤怒を示すべき務あり。凡そ眞の感情ある人は、卑劣又は醜惡なる事に對して、言を挾むの義務なき場合と雖も、自然發憤を禁ぜざる者なり。獨逸の文豪ヘルテス曰く、「予は憤怒し得ざる人とは、何事をも共にするを好まず。世には惡人よりも善人多し。而して惡人等が跋扈するは、唯善人よりも大膽なるが故なり。吾人は決然として其力を用ふる人に對して、自ら愉快を禁じ得ず。勿論予は屢々語りて後悔したり。然れども、亦予が黙して後悔したることも少なからず」と。正義を好む人は、不善を爲す人に冷淡なるを得ざるものなり。若し彼が熱誠を以て感ぜば、心中を披瀝して、熱誠を以て語るなり。

徳行の人は、善美の輕侮を教ふ。

それは、何時までも人の驕尾に附するを剛とす。

慈善事業の躊躇を嘲り、

嘘言を侮り、不正の行爲を嘲り、

害心を賤しむ、

卑屈心を輕んず。

然れども吾人は輕卒に侮辱を加へざるやう注意せざるべからず。最も善き人と雖も、輕卒に流れ易きものにして、熱誠なる氣質は、亦屢々人をして、狭量ならしむるものなり。ジュリアウエツヂツツ嬢曰く、「一切の心的天賦の中に、最も稀なるものは、智力的忍耐なり」と。

人を容るゝの雅量なきを治する最良法は、人生の智識と經驗とを富ますに在り。故に學問あり經驗ある人は、必ず最も忍耐強く寛仁なれども、無學にして狭量なる人は、最も人を宥さざる者なり。襟度の大なる人は、其實際的智識の割合に應じて、他人の瑕瑾及び缺點を容赦するものなり。即ち品性を作るは、境遇の左右する所にして、薄弱にして失錯し易き天性の人が、誘惑及び過誤に抵抗するの力に限られたることを寛恕するものなり。ゲーテ曰く、「他人の爲したる過失にして、予自ら亦之を爲さずと限られたるものあらず」と。箆子に乗りて、ダイヤモンドに送らるゝ一罪囚を見て、或る聖賢人は「其處にジョナサンブラドフォード行けり。されど神の慈悲あれ」と叫びたり。

行爲を慎むべし

快なる世界を作り、憂鬱なる人は、憂鬱なる世界を作る。吾人は常に吾人の性質が周圍に在る所の人々の性質に反射せるを見る。吾人若し喧嘩好きならば、彼等も亦喧嘩好きなり。若し吾人が彼等に對して無情ならば、彼等も亦吾人に對して無情なり。近頃の話なるが、或る人夜會より歸る途にて、巡查に向ひ人相の悪しき漢一人、彼の跡を追尾し來ると訴へたり。然るに其追尾せる者は、其人の影なりしこと判然したりと云ふ。豈に滑稽ならずや。而して斯の如き滑稽は、吾人に其人生を示すものなり。即ち人生は、多くは吾人自身の反射なり。

苟も他人と平和を保ち、彼等の尊敬を得んと欲せば、吾人は自ら彼等の人格に向つて尊敬を拂はざる可からず。十人寄れば十色と云ふ如く、人は各自其習癖及び品性に特質を有す。されば吾人は、他人が吾人に寛大ならんことを欲せば、先づ他人に對して寛大ならざる可からず。勿論吾人は、自身の特質を知らざることあり。されど、特質は依然として存在するなり。南米の某村落にては、一村舉つて癩癩病を有したり。故に彼等は決して、之を不具なりとは

考へざりき。一日英國人の一隊ありて、此處を通過したり。村民等出て、之を見、嘲り笑うて曰く、『見よ、彼等は瘰癧を有せず』と。

人は、往々、他人が如何に己を考へ居るやとの疑問を抱きて、少からず苦悶することあり。或る者は好んで暗黒の方面をのみ觀、自己の標準を以て判斷し、人を最も惡しき程度に推定せんとす。然れども、他人の不仁は、其實在する所、畢竟吾人が不仁の反射に過ぎざる場合甚だ多し。吾人自身の苦悶は、其源を正せば、皆吾人自身の想像より起る場合極めて多し。而して吾人の周圍にある人々が、吾人に對して不仁なる考を有するとも、吾人は決して之が爲めに立腹すべからず。そは唯自ら己の腐り根性と浮薄なる心とを暴露して、却つて益々世の嘲笑を招くに過ぎざればなり。ジョージ・ハーバート曰く、『吾人の口より出づる惡事は、己に返りて、吾人自身の腹中に落ち懸かるものなり』と。

フアラデーの實驗
哲學

フアラデー嘗て、書を親友チンダル教授に贈り、忠言を呈せり。そは、蓋し、人生の豊富なる經驗の結果たる實際的智識に滿ちたるが故に、世に甚だ名高

し。曰く、『予をして、經驗を積み得たる老の婆心ウカを呈せしめよ。予は若かりし時、誤つて、荐りに他人の意向を忖度したりしが、後に至りて、當時自ら想像せし如きものに非ざるを發見せしばかりか、更に、他人が、己に對して嫌忌の情を有せりと思へば、其想像を壓へ、反對に親切の情ありと思ふときは、直ちに其念を捉ふるの寧ろ可なることを知り得たり。眞理は最後の勝利者なり。されば反對黨は、若し彼等にして正しからざれば、敗北する時よりも對抗せる間に信服すること速きものなり。約言すれば、黨派の結果を度外に置きて、速に、厚意に注意するを可とす。調停者に努めて従へば、却つて多くの利益を見るものなり。足下は、予が如何に屢々世の反對に會うて、竊に憤りしことあるを知らざる可し。蓋し予は不正に横柄に考ふる所ありたれども、賣言葉に買言葉を致すことを避けて成功したればなり。今日にても、予は未だ之が爲めに損せしことを知らざるなり』と。

有名なる英國の畫家バリーは、羅馬滯在中、其癖として、繪畫の描寫法と其取扱ひ方とに關し、美術家及び自稱美術家と、烈しき爭論を起し、自ら苦痛を

バインスの
が克己力
の欠乏

招きぬ。時に其親友エドモンド・パークは、親切なる且つ意味深長なる書を彼に贈りて曰く、『予を信じ給へ、バリー君、世の悪しき性質と戦ふべき武器及び世界と吾人とを仲裁する所の性質は、謙遜と柔和と讓歩と自惚根性を制することゝなり。此等は一派の論者が言ふが如く卑屈なる精神に非ず、却つて道念の最も美なる者にして吾人の安寧幸福に貢獻する所甚だ多く、亦吾人の天性をして其品格を高めしむるものなり。されば、吾人の周圍に在る人々と相争ひ罵り合うて生涯を送るほど、識者に不似合なるものはなし。吾人は、同胞と共に平和に暮らさざるべからず。是れ或は彼等の利益にあらざるとも、少なくとも吾人自身の利益なり』と。

詩人バインスは、最も能く克己の價値を認め、最も雄辯にそを人に教へ得たる人なり。然れども實行と云ふ場合に至れば、彼は最も意氣地なかりしなり。彼は自ら人を犠牲にして、巧妙痛快なる諧謔を弄するの快樂を制し能はざりき。或る人彼を評して、『彼は十の戯談を言ふ毎に百の敵を作りたり』といひしが、決して過言にあらざるなり。獨り諧謔に於てのみならず、彼は其情慾

に一の制裁を加へず、自由に其爲す儘に放任したり

『はかなき痴情の奴となりて、

その名を汚しぬ。』

との詩句は、遺憾なく、彼を寫すものなり。彼は亦酒仙黨の意を迎へて、作詩に汲々たりき。之が爲めに、今日にても、青年の毒せらるゝ者甚だ多し。其詩の外形は極めて洗煉なりと雖も、其内容に至りては、不道德的なり。此等の詩は、寧ろ社會の爲めに燒棄するを可とす。

ペランゼ

ペランゼーは、佛國のバインスと呼ばれたるほど、バインスと同典型中の人なり。彼はバインスの如き天才を有し、快樂を好み、世評を喜びぬ。されば、荐りに佛人の虚榮心に阿ねり、圓熟なる筆を以て、國民の喜ぶ可き罪惡を歌ひたり。ペランゼーの詩と、チェールの歴史とは、恐らく、ナポレオン政治の復興に最も有力なるものなり。されど、そは、ペランゼーの詩によりて生ぜられたる道徳上の惡影響に比ぶれば、實に論ずるに足らざるなり。佛國の家庭に醜惡なる空氣の満てるは、主として彼の力に依る。ペランゼーの詩は、醜猥と罪

悪との好圖畫なり。是に由りて破滅を招かざる國民果して何處にかある。

パインスの名詩は、二十八歳の詩作りたる「詩人の墓碑銘」と題せる一篇なり。こは思ふに、彼自身の生涯の描寫なり。ウォーヅウォース評して曰く、「此處に眞率なる告白あり。彼自身の意志の宣告にして、詩的及び道德的信仰の自白、豫言の歴史なり」と。其詩の結句の意は左の如し。

『讀者よ、爾が靈、

蒼穹はるかに空想の翼をひろげて翔り、

或は、闇、低く颯ひ來りて、

この地上の穴を翳るや否を見よ。

知れや、謹慎と注意深き克己とは、

眞理の根なることを。」

パインスが身を誤りたる惡徳の一は酒癖なり。こは惡徳の最も惡徳なるものと謂ふべく、多くの他の惡徳を誘致するものなり。勿論彼は、玉の盃底なきと云ふほどの大酒家にあらざりしも、酒の爲めに、墮落せる交際をなし、是に由りて己が天性を陋劣ならしめ、忌むべき誘惑に屈したり。然れども憫む

べきパインスは、之が爲めに孤立することあらざりき。何となれば、一切の惡徳中、飲酒の慾は、今日の如く其當時に於て、最も能く流行し、最も人氣ありしものなればなり。

力
慾情の暴

此處に暴君ありて、人民に強ひて所得三分の一の重税を取立て、同時に彼等を野蠻にし、又墮落せしめ、彼等が家族の平和と幸福とを害し、加之ならず浪費を要求し、病氣と早死の病毒とを蒔きたりとせば、怨府となりて、如何に恐るべき示威運動や起らん。雄辯なる演説及び自由の精神に訴ふる壯語は、到る處に聞くを得ん。斯の如き不自然に對する反抗は、夫れ如何ならん。然り斯の如き暴君は、現在吾人の中に在るなり。所謂獅子身中の蟲にして、即ち制馭なき慾情是れなり。如何なる武器の力も、人の聲も、將た議會の投票も、此暴君に抵抗するの力なし。而かも、世人は好んで其奴隸となり居れり。

此暴君を征服するには、自修、自重、及び克己の道德的手段に依るの一策あるのみ。種類の如何を問はず、情慾に抵抗するには、此他に策なし。制度の變更も、投票權の擴張も、政府の刷新も、學制の改良も、情慾の奴隸となりたる人の

正直なる生活

品性を矯むるに益なし。陋劣なる快樂に耽るは、眞の幸福を凋落せしむるものにして、道德を頹廢し、元氣を消耗し、個人及び國民の勇氣と勢力とを一掃し去るに至る。

克己の勇氣は種々の形に於て現はるゝと雖も、正直なる生活に於て最も明瞭に示さるゝものなり。克己の道念なき人は、常に其慾望に屈服するのみならず、亦同じ心を有せる他人にも常に屈服するものなり。他人の爲す所のものは、彼等の爲す所のものなり。彼等は其交際仲間の人爲的標準に従ひ、仲間の爲すが如く消費して、其結果を慮ることなく、同時に分に過ぎたる生活を望みつゝ、其生涯を送らざる可からず。彼等は外道に他人を誘ひ入れ、中途に息むの道德的勇氣を有せざるなり。彼等は情慾の爲めには、他人の迷惑を顧みず、不義の快樂に耽るの誘惑に抵抗することを得ず、遂には借金の爲めに束縛せられて身動きもならぬ始末となるも辭せざるなり。凡そ斯の如きは、畢竟大なる道德的臆病と懦弱と、品性と云ふ勇壯なる獨立心の缺乏とに因す。

正義の心ある人は、虚偽、虚飾、虚榮を屑しとせず。故に他人の資力に依頼して、不正直に生活せんよりも、寧ろ正直に我が資力の許す限りの範圍内に生活するの勇氣あるなり。蓋し分不相應の贅澤をなして、負債をつくる人は、其精神に於て公然汝の懷中を掏り取る人と同じく、不正直なる者なり。

世人或は曰はん、是れ餘りに極端なる意見なりと。されど、是れ最も嚴しき實證にも耐へ得る所の主張なり。他人に代價を支拂はせて生活することは、常に不正直なるのみならず、亦言語に於ける詐僞の如く、行爲に於て不眞實なり。『借金家は、虚言者なり』と云ふ、ジョーヂ・ハーバートの諺は、經驗上確實なる眞理なり。シヤフツペリーは、或る時吾人が有せざるものを有せんと欲し、又實物以上に外見を飾らんと欲して、輾轉苦悶するは、一切の不徳の根本なりといへり。故に道德の極めて些細なる規則にまで、嚴格に服従することは、一切の男らしき又崇高なる品性の基礎なり。ミラボールの所謂『區々の道德は偉人の大敵なり』との語は、甚だ危険なるものとして、排斥せざるを得ざるなり。

名譽を重んずる人は其資力を用ふるに節儉にして正直に其用途を支拂ふことを吝まず彼は實力以上に富者を銜はず又負債に捲込まれて最後に破産の厄を來すが如き事に關係せず凡そ資産甚だ乏しきも其慾望を能く制馭する人は決して貧者にあらざるなりされば人は其資力の己が需用に充分なるよりも多きときは則ち富める者なり昔ソクラテスは財寶珠玉及び高價なる家具を澤山に積みてアゼンスの市中を練り行く者あるを見て『今や予は幾多の予が望まざるものあるを見たり』と曰へりペルテス曰く『予は如何なる事をも寛恕すれども獨り我儘のみは恕すべき限りにあらず最も資力の薄き状態に在りても余のもの他のものと自他を區別する間に偉人たる本領を示すの餘地あるものなり極貧の者は別として自己の収入の範圍内のみにて其家計を整理するの慮りだにあらば何人も其日々の生涯を金錢の思想のみにて充たすの必要あらざるなり』と

輕卒なる
不正直

べき快樂を得んと欲せば正直なる手段を以て其資を儲け決して夫の借金政略家の爲すが如く他人の所得に依頼して生活すべからずマギンといふ男常に負債の爲めに苦めり人ありて彼に酒代に何を拂ひたりやと問へば彼知らずと答へたり唯彼は酒屋が何事か帳面に附けて行きたりと信ずるばかりなりき

此帳面に附けると云ふ一事は目下代價を支拂ふの資力なき物を信用にて取らんと誘惑に抵抗し能はざる薄志弱行の徒の零落を證明するものなり若し或る事情の下に契約せられたる負債を債主をして取返し得る法は全く廢止せらるれば社會は爲めに大なる恩惠を得るならん然れども商業上の競争にて借金を爲すべき種々の奨勵法行はる故に債主は其最後の手段として法律に依頼せるなり嘗て文學者シドニスミスが其新宅に居を移したる時其地の新聞紙が彼は高貴の方に縁故ある人なりとの記事を掲げたりしかば種々の方面より得意を求むる者日々引きも切らざりしと云ふ然れども彼は直ちに其地方人の迷を醒まさせたり即ち彼等に告げて

曰く『予は全く身分ある者にあらず、只普通の正直なる人民なり、負債は必ず返済する正直者なるのみ』と。

ハズリットは、寧ろ錢遣ひに締りなきも、全く正直なる人なり。其言ふ所に據れば、全然相異なるといふほどにはあらねど、世に二種の人あり、即ち我手の中に我錢を有ち能はざる人と、我手を他人の手より離し能はざる人と是れなり。前者は常に錢の缺乏を告ぐ。蓋し彼等は恰も錢を手にすることを厭うて避けんとするが如く、先づ我眼に觸るゝ所のものに悉く之を投ずるが故なり。又後者は我所得を支出し盡くして更に負債を起せり。而し其借金の天才は、偶々以て最後に招く破産を證するものなり。

シェリダンは、此種の薄命家中、最も有名なる一人なり。勿論相當の收入ありたれども、締りなきが故に、借財の爲め東奔西走是れ日も足らざる有様なりき。嘗てウェスミンスター選挙區にて代議士候補者として花々しく打出でしが、到る處に負債ありと云ふ不人望の爲めに失敗したり。有名なる政治家家バルマー・ストーン卿は、其手紙の一に於て左の如く云へり『數多の貧乏人

等は、候補演説ある毎に、彼の立てる演壇の周圍に群がりて、彼が負へる證書に對し支拂を請求しつゝありたり』と。されど、シェリダンは極めて平氣なり。斯くても、尙ほ平時の如く、債主を揶揄し、諧謔口を衝いて底止する所なし。バルマー・ストーン卿は、實際シェリダんに招かれて、其宴會に列したることあり。其宴會に於て、彼の財産差押を勵行せる司法官の下役人共が、法官服を着けながら、給事の役を務め居たるは頗る奇觀なりきと云ふ。

シェリダンは、斯の如く個人の信用に就きて、極めて乏しかりしも、公金に關しては、清廉己を持して、決して私することあらざりき。或る晚餐會の席上、パイロンと共に、時事を論じ、談偶々、保守黨内閣の地盤堅固にして動かし難きは何が故ぞやとの事に移りしが、此時シェリダンは肅然襟を正し、さて曰ひけるは『君よ、そは極めて容易きことなり、決して異しむに足らず、貴族に年々數万圓の黄白を握らせば可なり、其黄白は、彼等の愛國心を誇り、誘惑を避ける爲めに、公金の中より私せらるゝなり。されど、彼等は同様の抱負、少なくとも同様の手腕を有し、不等ならざる情慾を有せる人々が、如何なる誘惑を

公人の正直

避けたるやを知らず。而して彼等は亦、彼等自身の一シルリングを所有することの何たるやを知らずして、一生を終れり」と。パイロンの言ふ所に據れば、シエリダンは、斯く語りつゝ、暗涙に咽びたりと。

金錢に對する官吏の道德は、近時甚だ墮落したり。政治上の官金私消は、當然の如く考へられ、政黨の首領連は、官金を勝手にして、以て黨派の分裂を防ぐに躊躇せず。彼等の度量や、夫れ或は寛大なりと云ふ可けん。されど他人の費用に依頼せるの一事は、夫の

『彼が一大恩恵なりとして、

地方税にて橋を作りぬ』

と歌はれたる地方官と何等擇ぶ所なし。

コルンウォーリス卿が、愛蘭總督となるや、三人ナビールの父たるナビール大佐を以て、軍務監督長官となし、『予は正直なる人を要す。是れ予が醜吏を驅逐する唯一の法なり』と曰へり。

チャタム卿は、政治に清廉の美風を興へたる率先者なり。其子ウヰリアム・

詩人スコット

ピットも、政治の局に當りて極めて正直なりき。數億圓がピットの手にかざれつゝありし間、彼は清貧にして、死後一の財産を貽さたりき。されば政敵と雖も、彼の公明正大を疑ふの餘地を見出し能はざりしなり。

是よりさき、官吏の収入は、驚く可きほど莫大なるものなりき。十六世紀の有名なる年俸取りなるアウドレーが、或る人より、彼がワーズの朝廷より得たる収入は、幾何なりやと問はれたる時、『さればなり、極樂へ行かんと願ふ者は數千圓、地獄を懼れざる者は其二倍、惡魔を懼れざる者は、夫れ幾何なるや何人も測り知り難し』と答へけり。

詩人スコットは、天性、心の底まで正直なる人なりき。彼が其借金、否、寧ろ迷惑なりし會社の借金を拂はん爲め、決然として勇を鼓し、刻苦したることは、常に吾人の壯烈を感ずる所なり。彼の出版者及び印刷者が倒産したる時、破産は彼の眼前に控へたり。彼の此災厄に就きては、同情少なからず、友人等は彼の爲めに金策せんことを申込みたり。然るに彼は傲然答へて曰く、『否、予の此右手は、此負債を悉く働き出すべし』と又書を一友に寄せて曰く、『吾人は悉

○他○の○もの○を○失○ふ○と○も○是○非○名○譽○だ○け○は○汚○し○た○く○な○し○』と其過度の労働の結果、健康著しく衰へ、最早筆を執ること能はざるに至りしまで、彼は自ら言ひけん所謂餓虎の如くに働きて休めざりき。而して彼は其生命を以て古今に比なき刻苦の罪を購ひしも、名譽と自重の精神とを拯うて毫も之を汚さざりしなり。

スコットが其大窮厄中、匆忙として作り上げたる「ウィドストック」「ナポレオン傳」「クワリタリ」や「クロニクル」「オブゼ」「カノンゲート」の紙上に投じたるもの、「散文小品集」及び「テイルス」「オブエ」「グランドライザ」等を自ら排斥したるは、世人の普く知る所にして、此等の原稿料は皆債主の手に渡りたるなり。『予は債主の感謝を受くる愉快及び自ら名譽と正直の人として、義務を盡くしたる良心の満足を感じずる今日の如く、熟睡することを得ざりき。予の前途は遼遠にして暗黒なりと雖も、清淨無垢の名譽に導くものなり。予にして若し勞苦の間に斃るれば、予の死は名譽なり。若し又予の事業を完うせば、予は總ての關係者の感謝と、予が良心の満足とを受く可し』とは、彼自らの語る

所なり。

スコットの如き多作は、天下の甚だ珍とする所にして、其後、尙ほ續々として、小説傳記類の著を刊行せしが、一日忽然として、腦充血の仆す所となれり。然るに、天尙ほ此人を棄てず、介抱の甲斐ありて、追々快方に向へり。執筆するほどの健康に復するや、彼は直ちに書齋の人となりて、「レクター」「ス」「オン」「デモノロヂー」「アンド」「ウキッチクラフト」「ラードナー」百科全書の蘇國史、及び「テールス」「オブエ」「グランドライザ」第四卷佛國史の部に健筆を揮ひぬ。醫師は仕事を廢せよと勸告せしも、スコットは之に従はず、アベルクロムビー醫學博士に答へて曰く、「予に仕事を廢せよといふは、猶ほ三が火上に茶釜を置きて、茶釜よ希はくは煮え立つ勿れ」と云ふが如きものなり。予は働かざれば狂氣とならん』と。

斯の如く勇猛不退轉の精力を以て、刻苦精勵せしかば、流石數十萬圓の負債も漸次減少し、數年を出でずして、スコットは自由の身となるを得べく、茲に益々力を得て、新に「巴里のロバート伯」と云ふ小説を起稿せしが、不幸にし

て復た激烈なる腦充血に冒されぬ。彼は死期の近づけるを知りぬ。體力全く衰へて、復た昔日のスコットにあらざるも、其勇氣と忍耐とは、毫も衰へざりき。其日誌の一節に曰く、『予は精神よりも、寧ろ身體に、著しく苦痛を感じ、此儘眠りて、何時までも覺めざれと願ふこと度々なりき。されど、予は出來得る限り、之と戦ふべく決心せり』と。

彼は再び、危険なる城を起稿するまでに、病癒えたりしが、筆致も着色も亦昔日の如くならず。其れより、彼は保養の爲めに伊太利に最後の旅行を試みぬ。其ネーブルス滞在中、毎朝筆を執りて、一篇の新小説を作りしが、完結せずして止みぬ。

スコットは、死すべく、アボッツフォールドに歸り來れり。歸りて人に語りて曰く、『予は多くの物を觀たれども、我家に優るものあらざるなり』と。彼は死に臨み、其抱負を洩らして、『想ふに、予は現代第一の多作家なり。而して未だ人の信仰を亂し、人の主義を腐らすが如きことをせず。今世を辭するに當りて、抹殺すべき書無きを願みば、心中の愉快を禁ぜざるなり』と言ひしが、是れ實に

スコット
とロツカ
ルト

スコットの本領なり。又臨終の際に、其養嗣子ロツカルトを戒めて曰く、『ロツカルトよ、予が御身と語るも、一分時のみ正義なれ。信仰あれ。善人たれ。是れ以外に、御身が此死の床に横はる時、御身を樂しますものあらざるなり』と。

ロツカルトの一生は、決して父の名を汚すものにあらず。其スコット傳は、數年間苦心の結果にして、最も有名なる書なり。彼は此書に依りて得たる利益を私せず、悉く之をスコットの債權者に支拂へり。こは彼が其負債償却の義務を有せるが故にあらずして、全く其名譽を保つ精神と、故人の記念との爲めなりしなり。

第七章

職分と信實

我、眠りて人生は美なりと夢みぬ。我、覺めて、人生は職分なりと知りぬ。
職分とは、不思議なる思想なる哉。勤めて働くものならず、煽動して働くものならず、威して働くものならず。唯精神の中の自然法律を維持することによりてのみ働く。されば、汝等若し之に従はざれば、汝等が名譽は常に奪はれ去らる。職分の面前に出て、如何に密々情慾反を謀るとも爲すことなげん。

カント

他人の意志にたよらぬやう、育ちたる者こそ如何に幸ひなれ。彼が武器は、彼の正直なる思想、彼が手練の早術は、彼の單純なる信實なり。
彼は情慾の奴とならず。彼が心は死を覺悟せり。世上是非の聲を聞流して、命に戀々たらず。

此人は賤しき羈絆を免れて、希望を抱き、墮落を悞る。彼自身の君主にして、土地其他のものこそなけれ、一切のものを有せり。

ヴォットン

彼が不承諾は、一たび出て、は復た還らず。彼が然諾は然諾なり。此ほど力ある

職分の意

ものなし。彼が然諾を興ふるや甚だ用意深し。彼の思想と詞とは一致せり。彼の詞は證文なり、實印なり。

男爵スタインの墓碑銘

職分とは負擔の意にして、目下の不信用及び従つて起る道德上の破産を避けん爲めに何人も拂はざるべからざるものなり。そは、一の約束なり。即ち一の負債にして、人生萬般の事に於ける隨意的勤及び確固たる行爲によりてのみ拂はれ得るものなり。
職分は、人間の全生涯を包圍するものなり。先づ職分の生ずる所は家庭にして、子の親に對する職分、親の子に對する職分あり。之と同じ關係にて、又夫婦間の職分及び主従間の職分あり。家庭を出づれば、男子にも女子にも、朋友及び隣人としての相互の職分あり。又雇主と雇はるゝ者と、又支配する者と支配せらるゝ者と相互の職分あり。

聖パウロ曰く、『凡て彼等の權利に還せよ。徴税の權ある人に租税を拂へ、畏敬せらるべき人に畏敬を拂ひ、名譽ある人に名譽を拂へ。人は互に相愛する

ことの外、何等の負ふ所なし。蓋し能く他を愛する人は、天道を完うせる者なり」と。

斯の如く、人間の一生は、其生るゝより死に至るまで、職分の一貫する所なり。長者に對する職分、劣者に對する職分、同等者に對する職分、人に對する職分、神に對する職分、是れなり。凡そ用ひる力又は指揮する力ある所には、必ず職分あり。何となれば、吾人は、吾人の爲め、及び他人の爲めに、吾人に委託されたる方法を用ひるべく命ぜられたる執事の如き者に他ならざればなり。『職分を固く守ると云ふ感覺は、品性の眞の王冠なり。最高の態度に於ける人の尊敬する規則なり。これ微かりせしめて、吾人は、吾人の爲め、及び他人の爲めに、吾人に委託されたる方法を用ひるべく命ぜられたる執事の如き者に他ならざればなり』。して卒倒すべし。然れども、是に勵まざるゝときは、弱き者と雖も強くなり、勇氣を十分に起すものなり。セームソン嬢曰く、『職分は道德上の建築全部を結合するセメントなり。これ無きときは、一切の力、徳、智、眞、幸、愛、其者は、持久力を有せざるに、至り、存在と云ふ建物は、吾人の下より崩れはじめ、最後に瓦解の中央に、吾人をして、杳然として坐せしむるなり』と。

職分は、正義の上に置かるゝものなり。詳言すれば、善の最も完全せる形なる愛に由りて勵まざるゝ正義を其基礎とするものなり。職分は感情にあらずして、人生を貫徹する主義なり。而して、主に人間の良心及び自由意志にて定められたる品行及び行爲となりて表はるゝものなり。

良心の聲は、職分を果たしたる時に語るものにして、若し其力なきときは、智力も、單に邪路に導く光明たるのみ。良心は、人をして地上に起立せしめ、意志は直立せしむるものなり。良心は心の道德的支配者なり。詳言すれば、正しき行爲、正しき思想、正しき信仰、正しき生涯の支配者にして、高潔正直なる品性は、唯此良心の權能に依りてのみ、發展せらる。

良心は決して聲高く語る者にあらず。然し強き意志なければ、語りても甲斐なし。意志は善惡の行爲を選択するに自由なり。然れども選擇は、直ちに決行を伴はざれば無益なり。若し職分の一念強くして、行くべき路開けば、勇氣ある意志は、良心の命ずるまゝに、猛然として其行路に進み、人をして、一切の困難障礙に耐へ、目的を遂げしむ。よしや又失敗に終ることあるも、職分の爲

めなりと自ら慰むる所あるなる可し。

ハインツエルマン曰く『青年諸子よ、汝の周圍に在る者が不義の富貴に耽る間は、自ら貧困に甘んぜよ。他人が昇進を希圖するときは、地位及び權力を願ふこと莫れ。他人が阿ねりて成功するときは、失意の苦痛を忍ぶ可し。媚びて這ひ屈みて人の求むる握手を退けよ。汝自身の徳義に汝を包みて、朋友と毎日の麵包とを求めよ。若し汝にして己の身を守り、名譽を毀損せずして、老い行かば死して猶ほ餘榮ありとこそ云ふべけれ』と。

高き主義を抱ける人は、職分の爲めに、其尚び又愛する一切の者を犠牲として願みず。斯の如き壯烈なる職分の獻身と云ふ古代の英國魂は、詩人ラブレースが、厥然孤劍を提げて、君の馬前に馳せ参じたる時、其戀人に與へたる詩に、餘蘊なく現はれたり。

『戀しき人よ。余は名譽を愛するほどに、

御身を愛し能はざるなり。』

名譽心

セルトリユウス曰く、『品性の尊嚴を保つ人は、名譽を以て戦ひ、命惜しさに、良

からぬ手段を用ひざるなり』と。されば、聖パウルは、職分と信仰との爲めには、繩目の恥を忍ぶのみか、ゼルサレムに於て死するも敢て辭せずと公言したり。

コロンナ

伊太利と西班牙との二國鬨あり、遂に干戈は訴ふ。伊太利のペスカロー侯推されて征討の帥を統ぶ。其妻ヰキットリア・コロンナ、伊國興亡の責全く侯の双肩に懸かれりとなし、陣中の侯に書を寄せて曰く、『運命以上に、又帝王以上に、汝を立身せしむる所の汝が名譽を忘れ給ふこと莫れ。唯是に由りてのみ勝利は得らるべし。位階の立派さにては勝利は得られざるなり。勝利は子々孫々に永く傳はるべき汝の幸福と誇りなり』と。斯の如きは、彼女が其夫君の名譽に就きて抱きたる、丈夫も及ばぬ意見なりき。而してペスカロー侯が、バツィアの役に名譽の戦死をなすや、コロンナは、世を遯れて、心靜かに夫の冥福を祈り、戒行甚だ堅固なりしと云ふ。

實際生活すると云ふことは活動することの意なり。人生は勇ましき戦闘なり。人は高尚にして尊敬すべき決斷を以て己の位置に立たざるべからず。

又何時にても必要あらば死するの覺悟なかる可からず。古丁抹英雄の如く、意志を敢行して、職分の途に逡巡せざるの決心なからざるべからず。意志の力の強弱は、人によりて異なれども、素と天稟なり。されば之を用ふることなくして終るは、所謂實の持ち腐れなるが如く、亦之を不義の目的に用ふべからず。プライトンのロバートソンは、人間の眞の偉大なることは、自己の快樂又は名譽、又は進歩を求むることにあらず。換言すれば、一切の人は己の生命を救ふにあらず、又己の名譽を求むるにあらずして、唯己の職分を果たすにありと云へり。

職分の遂行を妨ぐるものは、懷疑と意志の薄弱と、不決斷となり。一方には良心と善惡の判斷力とあり。他方には、偷安、利己、快樂の愛、或は情慾あり。薄弱なる意志は、一時此兩者の勢力の中間に、右往左往し、其輕重に應じて、何れかに傾くものなり。若し受働的に止まらば、利己或は情慾の勢力は勝を制し、斯くて人倫敗れ、個人性廢れ、品性墮落し、人は唯甘んじて感情の奴隸となるなり。

されば、良心の指定に従ひ、之に由りて劣性の感情に抵抗し、以て英斷に意志を行ふ力は、道德的訓練上、根本的必要條件にして、最も善き形に於ける品性の發達上、絶對的に必要なり。正しく身を處するの習慣を養ふこと、惡癖に抵抗すること、情慾と戰ふこと、利慾を壓することは、長き不撓の修練を要す。されど、若し一たび職分を盡くすと云ふ習慣を養成せば、其後は比較的容易なり。

勇氣ある善人は、自由なる意志の英斷と實行とによりて、己を訓練したる人なり。自由の意志を優柔不斷なるに放任し、感情及び利慾の招くが儘に誘はれ行く人は、惡人にして、惡徳の習慣を得、之が爲めに、遂に鐵鎖に結び付けらるゝに至る。

意志の力は、獨り自由意志の作用によりてのみ得らるべし。人若し直立不動ならんと欲せば、自ら力を用ひざるべからず。蓋し他の助力を以て支へらるべきものに非ざればなり。人は自己及び其行爲の主人なり。人は、心せば、不善に遠ざかり、信實なることを得べく、感情を退け、情慾を制し得べく、又殘忍

の所業を免れて、寛仁大度なることを得べきものなり。而して此等は、各自の努力と修養とを待ちて後、初めて到達し得べし。即ち善となり悪となる、皆各人自分の致す所なり。

エビクタス言へることあり。曰く、『吾人は人生に於ける自己の役割を選ばず、又此役割を務むるの素養あるに非ず。吾人の簡單なる職分が、能く吾人の役割を演ぜしむるなり。奴隷は官憲と同様自由なり得べし。而して自由は幸福の長なり。自由は他の一切の者を屈せしむ。加之他の一切の者は無意義なり。自由に比すれば、他の一切の者は用なく、これなければ、一切の者は不可能なり。……幸福は、妄りに探して出會ふべきものにあらざることを、汝は世人に教へざる可からず。幸福は、強力の中に存せず。ミロやオフエリュウスは決して幸運ならざりき。又富の中に伏せるに非ず。クレーサスは幸福ならざりき。又權力の中にも在らず。元老官は皆幸福ならざりき。又一切此等を合せ得たる中にも存せず。ネロや、サーダバラスや、アガメンノンは、嘆息し、落涙し、煩悶し、境遇の奴隷となり、人の欺く所となりしにあらずや。幸福は汝自

エビクタ
ダスの職
分論

身の中に在り、眞の自由の中に在り、無我の間に在り、完全なる自治の中に在り、又満足と平和の力との中に在り、又貧困、流罪、病氣及び死の影暗き谷間の中に、人生の流れ出づる所にも在り」と。

職分の念は、勇氣ある人をも保護する力なり。彼を正しからしめ、強からしむるは是れなり。ポンペイ嘗て羅馬に行かんとし、將に船に乗らんとす。偶々暴風ありて海上甚だ不穩なり。人皆之を危み諷めしが、彼笑つて應ぜず。答へて曰く、『行くことは、予に、必要にして、生存することは、予に、必要ならざるなり』と。何ぞ夫れ壯烈なるや。爲すべきを正しとせば、彼は直ちに斷行して、危険に向ふも、暴風に逆らふも、敢て逡巡孤疑することなかりき。

試みに英雄ワシントンを見よ。彼の生涯に於ける、重なる活動力は、職分の精神なり。こは、其品性の根本要素なりき。明かに職分ありと認むるときは、彼は如何なる危険をも冒し、忠實に決行す。そは結果を思はうて爲すにあらず。名譽や報酬は、彼の眼中にあらず。唯考ふる所は、爲すべき正しき事と、其最良なる方法となり。

ワシントン
の職分
の精神

されど、ワシントンは最も謙遜なる人なりしかば、米國獨立軍の總指揮に推薦せられし時、固辭して容易に承諾せざりしなり。議會が滿場一致を以て、此大事を託すべき者、ワシントンの他になく、米國の未來は、一に懸りて彼の双肩にあり、と決議するに當りて、彼は遂に其請求を容れ、且つ曰く、『希はくは、予は、予の名譽を辱しむべき或る不幸なる事件の出來せざらんやう、今日眞率に、此重任は予に過分なりと宣言することを、忘るゝ莫らん』と。

其最愛の妻に寄せて、司令長官拜命を報じたる書中に曰く、『予は御身と子供等とに別るゝを好まず、又到底其任に堪へざるを思ひて、百方之を辭退したり。御身と一ヶ月間同棲するの樂みは、眞に國を去りて天下の名勝に遊ぶに優る。されど、予に此重任の歸したるは、天の命なるが故に、予は或る善き目的の上に定められたる運命に従はざる可からず。予の不名譽を忍び、予の友人に苦痛を與へてまで固辭するは、予の到底忍ぶ能はざる所なり。こは確かに御身の喜ばざる所にして、予の衷心甚だ恥づる所なり』と。

ワシントンは、一生を通じて、正しき路を歩みたり。初め、米國獨立軍の司令

長官として、後、大統領として、彼は其職分の道に、狐疑躊躇することあらざりき。彼は世の毀譽褒貶を眼中に置かず、只管目的の固持に力めたり。或る時ゼイ氏が英國と訂結したる條約の批准に就きて、天下の物論沸騰し、ワシントンに批准交換の拒絶を迫る者ありたり。されど、是れ畢竟彼の名譽と國家の體面とを損するが故に、彼は斷然として輿論を退けぬ。是に於て、條約に對する非難の聲高く、ワシントンは、暴徒に瓦礫を投ぜられしまでに、一時不人望なりき。然れども、彼は條約を批准するは、即ち彼の職分なりとの主張を枉げず、如何なる嘆願も、何人の勸告も、彼を動かすを得ざりき。『予は吾國民の然諾を重んずるを知るが故に、予が良心の指定に背きて、足下等の勸告に聽くを得ず』とは、其時勸告者に答へたる語なり。

ワシントンの如く、ウエリントンの理想は、職分にして、彼の如く職分に信實なりし者は、あらざる可し。ウエリントン嘗て曰く、『生活に價せる者、現生涯の中に少しもあらざるなり。されど、吾人は皆正路を進み、職分を爲すことを得可し』と。彼は、從順の職分を爲し、好んで事に奉ずるより他に、愉快なるもの

を認めず、蓋し忠實に仕ふること能はざれば、又能く他人を支配し得ざればなり。『吾は仕ふ』及びミルトンの詩に所謂「立ちて而して待てる人も、亦仕ふるなり」との格言ほど、人を賢ならしむるものあらず。

一將校あり、其軍功不相當の卑職に任ぜられしかば、心甚だ平かならず、來りてウエリントンに訴ふる所あり。ウエリントン答へて曰く、『予は旅團長より聯隊長となり、軍團長より旅團長及び師團長に轉じたることありたり。然れども、予は何等の不平も感ぜず、唯命是れ奉じたり』と。其人甚だ慚ぢて去る。葡萄牙に於て聯合軍を指揮したる時、ウエリントンの眼より見れば、其國人の所業甚だ意を得ず、又職分に忠なるものと思はれず。ウエリントン即ち嘆じて曰く、『予は幾多の熱誠を見たり、萬歳の歡呼を聞きたり。又到る處に、各種の裝飾、愛國の歌、宴會等に出あひたり。されど此等は予の欲する所にあらず。予の願ふ所は、人々が其れ相應の職分に忠實にして、正當の主權に服従することなり』と。

職分の理想は、ウエリントンの品性を支配する根本原則なりしもの、如

ネルソン
とコリン
ウッド

し。彼は常に此理想を逐うて、其生涯に於ける一切の公の行動を支配したり。されば彼の部下は彼と同一の精神を以て勤務せる人なりき。ウォーターローの戰爭中の事なるが、ウエリントンは、或る歩兵の陣地を巡視し、兵力弱くして、佛國騎兵の襲撃に當り難きを憂ひ、彼等を勵まして曰く、『諸子よ、頑強なれ。本國にて同胞が吾等を何と言ふかを一考せよ』と。彼等一齊に答へて曰く、『閣下、請ふ意を安んぜよ。我等は我等の職分を知る者なり』と。

英雄ネルソンの理想も、亦職分なりき。彼が奉公の精神は、トラファルガーの海戦に當りて、旗艦の橋頭に掲げたる『英國は總ての人に職分を盡くすことを望む』との信號に表はれて餘蘊なし。予は予の職分を仕遂げたり。予は神に感謝す』との最後の言葉は、彼の本領を發揮したるものなり。

ネルソン艦隊の一艦長に、コリンウッドと云へる人あり。剛勇にして率直なる慷慨家なり。常にネルソンと友とし善し。夫の大海戦に、其艦破れて沈没す。時に旗艦に信號して曰く、『今頃は、我等の家族が英國にて、會堂に行く途中なり』と。コリンウッドは、ネルソンの如く、熱心なる職分の献身者なり。『汝等力

の及ぶ限り、汝等の職分を盡くせ」とは、ネルソン艦隊が根據地を發して、トラファルガーに赴かんとする時、其部下に訓示したる彼の言葉なり。或る時、又少尉候補生を戒めて曰く、「足下の愉快と昇進とは、他人の力にあらずして、足下自身の力に依るものなる事を、足下宜しく信ず可し。能く足下の職分を盡くし、長官其他一切の人に懇懃に振舞へば、人々の注意は自ら足下に集中し、報酬は必ず來るの時ある可し。斯の如くにして、何等の報酬なければ、足下は軍人たるの資格なき人なりと言ふを憚らず。足下常に不平を制す可し。不平は足下の友をして悲ましめ、却つて足下の敵をして勝たしむるものにて、足下の爲めに不利なり。有らん限りの力を以て、足下の本分を盡くせ。少なくとも足下の良心は満足するなり。一切の職分に於て、先登第一たることを、足下の野心とす可し。決して僥倖を期する莫れ。唯進んで之を取るべし。足下の長官が不明ならざる限りは、決して足下にのみ、多大の職分を課すること無きなり。」

職分に獻身すること

職分に獻身することは、英國人の特質なりと云はる。そは確かに我英國よ

り出てたる偉人の特質なりき。恐らく、他國民中には、『名譽』『勝利』『光榮』或は『邦家』等の語をいはず、唯單に『職分』と云ふ信號を海風に靡かせて、敵を擊破したるネルソン將軍の如き司令官は有らざる可し。又斯の如き鬨の聲の下に、集合するを好む國民は、世界に有らざる所なり。

パーケンヘッド號の亞弗利加の沖にて難破するや、船長以下の船員は、短艇を卸して、船内の婦人小兒等を之に乗らしめ、信號火を揚げ、船と共に海底の藻屑となりぬ。ブライトンのロバートソンは、其書簡の一に、當時の状況に關し論じて曰く、「然り、德義、職分、犠牲、此三者は、英國の花とも云ふべき特質なり。英國は田舎の百姓の如く、屢々鐵道王とか、感電生氣論とか云ふ大法螺に吹捲られて驚嘆したり。されど權利以外に何者も、此祖先傳來の英國魂を動搖せしむるものあらざりき。彼女の肩掛けは、不恰好なり。音樂堂を見て膽を潰すべく、燕と瑞典鶯の區別をも知らず。然れども幸ひなる哉、彼女は、恰も職分は世界の最も自然なるものなりと思へるか。如く從容として海底の藻屑と消えし人々の如く沈むべきことを、如何にして其子等に教ふべきやを

知れり。彼女は、決して英雄に扮する俳優と俳優に扮する英雄とを識別するに短ならず」と。

國民の職分

畢竟するに、此職分を以て一貫せる精神は、國民に取りて、極めて貴ぶべきものなり。其存在せる間は、其未來を悲觀するに及ばず。然れども、職分の精神地を拂ひ、代りて逸樂、利慾、乃至は虚榮を渴望するに至らば、滅亡直ちに來るが故に、其國民は不幸なりと謂ふ可し。

佛國衰退の原因

國民として、近世佛國の憐むべき衰退の原因に關し、識者の一致せる點は、國民及び當局者に、職分と誠實との念の缺けたる事なり。獨佛戰爭前、伯林の佛國公使館附武官なりし、大佐ストッフエル男の、公平なる口供は、能く此事を證明するものなり。開戰前約一ケ年、即ち一千八百六十九年八月、彼が、皇帝ナポレオン三世に贈れる私書ツォレリ宮にて發見せられたり。此私書に於てストッフエル男は、高等教育を受け、且つ修養ある獨逸國民は、一般に職分の熱情を有し、且つ尊く高きものを、誠實に尊敬して自ら卑屈なりとはせず。然るに總ての點に於て、佛國は悲しむべき反對を呈せることを述べたり。

凡そ、一切の事を嘲弄する人は、如何なる事にも尊敬を表し能はざるものなり。然り而して、德義、家庭生活、愛國心、名譽、宗教の如きは、嘲弄に適當なるものとして、輕佻浮薄なる時代に表はされたるものなり。嗚呼、佛國は果して、其眞理と職分とに背きし罪科を嚴しく罰せられたるなり。

過去の佛國の偉人

されど、佛國にも、職分に忠實なる偉人を多く有したる時代ありたり。然し彼等は遠き昔の人なり。デ・バヤール、ドウゲクラン、コリーニ、ドウケイン、ツォレン、コルベ、スウリーの如きは、死して亦其後繼者を傳へず。近世佛國に於て職分を絶叫して起ちたる稀有の一偉人あり。然し彼の聲は、荒野の中の悲鳴の如きものなりき。其人を誰とかなす。デ・トックヴヰル蓋し其人なり。然れども大聲は俚耳に入らず。彼は世に憎まれ、鐵窓に呻吟し、政治家著述家として予は漸次職分の遂行より生ずる幸福の中に生活するに至れり。予は斯の如く深遠にして眞なるものあらずと確信す。此處に吾人が、努力すべき世界の一大問題あり。人類の道德是れなり」と。

路易十四世の時以來、佛國は歐洲中第一の狂暴なる國民となれり。然れども、尙ほ時に眞面目なる人ありて、國民の戰爭狂に反對の聲を揚げ、平和の經典を説くのみか、之が實行に努力したるものあり。斯の如き人の中にて、最も勇氣ありしは、所謂セ・アッペ・デ・セン・ビエール其人なり。彼は大膽にも路易十四世の企てたる戰爭を罪惡と呼び、路易十四世に「大」と云ふ追號を贈ること拒絶したり。是に依りて彼は學士會より其名譽を剝奪せられぬ。彼は熱心に萬國平和制度を主張したり。ジョセフ・スターヂが、セント・ペテルスブルグに行きて、平和を露帝に遊説したる如く、彼は亦永遠の平和を確保せん爲めに、ウトレヒトに行きて、萬國會議に遊説したり。勿論彼は其主張を、正直者の夢と嘲られ、熱心僧正ドウボワの亞流と目せられぬ。然し、彼は其夢を聖書の中に發見せるなり。されば戰爭の慘禍を免れしむるは神の意なりとて、そを畢世の目的としたり。此會議は、基督教國を代表せる人々の集會なりしが、一人として、彼の言に耳を傾くる者あらざりき。

彼は其主義を普く世界後世に傳へんが爲めに、一千七百十三年、永久平和

の謀と題する書を公刊し、各國民の代表者を以て、萬國會議を設け、各國の元首は、武器を取りて起つ前に、先づ此處に來り訴へ、中裁を求む可しと論じた。此書の刊行後約八十年、ヴォルネー曰く、「人とは何ぞや。曰く、社會の一員なり。戰爭とは何ぞや。二人間の決闘なり。社會は其會員の二人が相戦ふ時、果して如何なる態度に出づべきや。曰く、彼等の中に入り、宥めて和解せしむべし。アッペ・デ・セン・ビエールの時代に在りて、こは一場の夢として嘲られぬ。されど、人生に取りて幸なる事には、此夢は今や漸く實現し始めぬ」と。されど、氣の毒にも、ヴォルネーの豫言は命中せざりき。ヴォルネーが斯く論じて、墨痕未だ乾かざること二十有五年間、佛國は振古未曾有の大戦亂に苦しみたり。然りと雖も、アッペ・デ・セン・ビエールは空論家にてはあらざりしなり。彼は實踐的博愛家にして、多くの社會改良策を圖り、後世一般の採用する所となれり。彼は貧民實業學校の創設者なり。彼は法律の修正及び省略を主張せり。是れ即ちナポレオン第一世が實行したる理想なり。彼は決闘、奢侈、博奕を不徳として痛罵し、隱遁主義に反對して、「僧侶的生活の憧憬は、心の疱瘡なり」と

言へり。彼は其収入を擧げて慈善に投じたりしが、單に施與することをせずして、貧困なる少年男女が自活法の補助としたるなり。彼の慈善事業は、一的にあらずして、永久的なり。彼が眞理の愛と言論の自由とに對する主張は、死に至るまで渝る所なかりき。八十歳の時言へることあり、曰く、『人生を幸福の福引とせば、予の引きたる抽籤は第一等のものなり』と。其臨終に際し、ヅアルテール、彼に其所感を問ふ。答へて曰く、『天國への旅程に就かんとすることなり』と。斯くて彼は平和に其天命を終へぬ。されど、彼は上流社會の腐敗を痛罵したる爲め、其反抗も亦極度に達し、學士會に於ける彼の後任者たるマウペルチウスが、彼に頌徳表を奉らんと提議せるに、否決せられたり。ド・アレムベルトに依りて彼の記念の爲めに此名譽を追贈するに至りしは、彼の死せるより二十二年の後なりき。善良にして、眞實を愛し、眞實を語れるアツベの眞正にして感動を與ふべき墓銘は次の如し、曰く、『彼は多く愛せり』。

職分は、全く品性の信實と一致するものにして、職分に忠實なる人は、就中其行爲に於ても、其言語に於ても信實なり。彼は正しき方法、正しき時に於て、

正しき事を言ひ、且つ行ふものなり。

チエスターフキールド卿は、紳士を成功せしむるものは信實なりとせり。クラレンドンは、其時に於ける最も高潔なる紳士の一人として、フオークランドを『彼は偽りよりも盜むことを優れりとするほど信實の熱望家なり』と言へり。

ハツチンソンは、信實にして信用すべき人なりき。夫人曰く、『彼は心にもなき事を言はず。決して、我力の及ばずと信ずる所の事を約束せず。爲し得る限りの事は、必ず實行したり』と。

ウエリントンは、熱心なる信實論者なり。嘗て耳を病み、耳鼻咽喉科の名醫に相談したることあり。醫は種々の治療を試みしも、効なかりしかば、斷然最後の方法として、腐蝕劑の注射を行へり。苦痛尋常ならざりしが、自若として之を忍びぬ。一日ウエリントン家出入の醫師某來り、侯が頬を赤くし、眼血はしり立ち上がらんとし、して踉蹌めけるを見、異しみて耳を診察せば、烈しき脈衝を起せるを發見したり。即ち直ちに豫防せざれば、腦を冒し、生命にも關は

るべしと診断し、烈しき療治を用ひて、痲衝を防ぎしが、其効なくして耳全く
聾せり。耳醫は其療治の烈しかりし爲め、病人の危険を受けたることを聞き、
謝罪及び慰問の辭を述べんが爲め、アプスライ・ハウスを訪問しぬ。侯曰く「其
事に就きては最早多言を費す莫れ。足下は出來得るだけ勉めたり」と。耳醫は、
若し此事一度世間に知れ渡らば、一生の一大事なればとて、侯に愁訴する所
あり。侯曰く「何人も知るものなし。足下と余と、堅く口を噤すれば可なり」と。耳
醫曰く「然らば、閣下は常の如く、閣下に仕ふる事を許し給ふなり。予は予に對
する閣下の信任の減ぜざることを公衆に示さん」と。侯即ち拒んで曰く「否、其
は偽りなるが故に、予は爲し能はず」と。彼は偽りを語らざるが如く亦偽りを
行はざるなり。

職分と信實とが、約束の履行といふ事となりて現はれたる實例は、獨逸の
大將フォン・ブリュッヘルなり。一千八百十五年六月十八日、ウエリントンの
爲めに、援軍を率ゐて、險惡なる道路を急行軍せし時、彼陣頭に立ちて、進め進
めと叱咤したり。そは不可能なり、逆も駄目なり」とは、兵士の答なり、再三再四

勵まして曰く「我等は進まざる可からず。汝等は逆も駄目なりと言ふ。然れど
も爲さざる可からざるなり。予はウエリントンに約束したり。約束なり、解り
たり。や、汝等は予をして背信せしめんと欲するか」と。斯くて、遂に目的を達し
得たり。

信實は社會の羈絆なり。信實無ければ、社會は存在せずして、混沌亂雜名狀
し難きものとならん。家庭は偽りを以て支配せらるゝものにあらず。國民も
亦然り。サア、トーマス・ブラウンは嘗て或る人に「惡魔は偽るものなりや」と問
はれける時、答へて曰く「否、何となれば其時となりては地獄すら存在するを
得ざるが故なり」と。思慮は、人生の一切の關係上、主君たるべき信實の犠牲を
判断し得ざるなり。

總ての賤しき惡徳の中に、偽りは、最も賤しきものにして、或る場合には、
是を非に曲げ、又惡徳を生ぜしめ、多くの場合には純然たる道徳上の臆病者
を生ず。多くの人は、己の爲めに偽ることを其從僕に命じ、又は斯の如き賤し
き教によりて、從僕が其身の爲めに偽ることを知るも、驚き異しまざるほど、

偽りを軽視するものなり。

サア、ハリ・ウオットンは、公使を、國家の利益の爲め外國を欺く可く派遣せらるゝ正直なる人なりと言へり。こは勿論一時の戯言に過ぎざれども、偶々國王ゼームス一世の逆鱗に觸れぬ。そが正直なる人の職分に就きてのウオットンが眞意にあらざること、は、本章の劈頭に拔萃したる彼の詩句が、證明する所なり。彼即ち正直なる人を讚して、

彼の正直なる思想は、そが武具なり。

彼があざやかなる手練は、飾りなき信實なり。

と曰へり。

偽りは外交術、方便、德義保有の如き種々の形を假るものにして、又一二の習慣となりて、社會全般に、多少貫徹することを見出し得べし。時としては、兩意の語を用ひ、德義に託つけることあり。こは、一佛國人が嘗て、信實を探し歩くと云ひしが如き偽りの種類なり。

兩意の語

眞意を胸中に包藏し、意見の主張と發表とを避くる爲めに、曖昧なる兩意

の語を用ひ、信實を避け、德義の後門より逃るゝに、極めて狡猾器用なる人あり。斯の如き方法に基づける成規及び制度の、必ず偽りにして不完全なるは固より明了なり。ジョージ・ハーバート曰く、『偽りは常に能く装ひ飾るとも、必ず滅ぼさるゝものなり』と、露骨淡泊なる偽りは、大膽且つ腐敗せりとも、詭辯を弄し、兩意の語を用ふる種類のものよりは、尙ほ恕すべき點あり。

不信實は、種々の形を假りて表はるゝものなり。一は沈黙、一は過言、假面隠蔽他人の説に心にもなき同意を表すること、偽りの態度を示すこと、又は心にも無きことを約束し、又は、いざと云ふ場合に、信實を語らざるが如き是れなり。又世にはパンヤンの所謂八方美人的の人あり。彼等は、他人を欺かんと欲して自ら欺くものなり。されば、根本的不誠實なるが故に、信用を得ず、其末路は詐偽者とならずんば、即ち常に失敗に終る。

或は又偽りなる事に不信實にして、不當の價值を求むることに不信實なる者あり。之に反し、信實なる人は、謙遜にして、自ら其功に誇らず。ピット病みて將に死せんとす。偶々印度に於けるウェリントンの大捷報到る。ピット曰

偽り

く、「予はウェリントンWellingtonの勳功あるを聞く毎に、益々彼の謙遜を嘆美せざるを得ず。彼は謙遜によりて、其功績に値ひする賞讃を得たり。功績を空しくせざる者は、予の知れる人の中にて、彼一人あるのみ。而して、彼が斯くあるべき當然の理あり」と。

フアラデーFaradayは、學問上にも、生活上にも、一切口實と云ふものを憎みたりとは、チンダルChandler教授の言ふ所なり。博士マーシャルMarshall・ホールHallも、彼と同一精神の人なりき。其親友の言に徴すれば、「予は偽りて満足せんことを欲せず。又満足し能はざるなり」と言ひて、常に不信實なる事及び不正の動機を退けたりと云ふ。彼は心中直ちに、正不正の問題を斷じて、正しきことに従ひ、如何なる犠牲、如何なる困難をも、之が爲めには辭せざりしなり。

博士アーノルドArnoldは、信實の徳を、青年の精神に染込ましめんと力めたり。蓋し信實は徳義中の最も男らしきものにして、男らしきことの眞の根本なりと思惟したるが故なり。彼は信實を稱して、「道德的透明」といひ、徳義中第一等の地位を與へたり。偽りの露顯するときは、一大罪惡となせしが、若し子弟が

斷言すれば、「汝斯く云はゞ全く充分なり。勿論予は汝の言を信ず」と言ひて、其子弟に信用を置けり。斯く子弟を信用して、信實を以て彼等を教導せしかば、彼等も遂に「アーノルドに偽りを言ふは耻辱なり。彼は常に人を信ず」と云ひて互に戒むるに至りぬ。

能く職分を守り、信實にして勉強なる人の品性として、擧ぐべき最も著明なる實例は、エディンバラEdinburgh大學に於ける、工藝學の教授なりしジョージ・ウキルソンWickersonの生涯なり。吾人は、之を職分の章中に説くと雖も、亦勇氣及び仕事の實例として、等しき價值を有するものなり。ウキルソンの一生は、勤勉を以て終始し、靈の力が肉の力に打勝つべきものなることを實證するものなり。ウキルソン幼にして病弱、十七歳にして、早くも憂鬱病と不眠症の冒す所となりぬ。醫は神經興奮の爲めならんと曰ひしが、彼は、一友人に語りて曰く、「予の生命は、到底長からざる可し。予は精神を以て、自ら作り出さん。身體は直ちに、之に従ふものなり」と。十七歳の少年の語としては、實に驚くべきものにあらずや。然れども、其健康は到底意の如くならず。彼の一生は全く、腦力の仕

事、勤勉及び競争なり。一日運動中、俄に卒倒したり。運動は彼に取りて害ありき。暫時ハイランドに病痾を養ひしも、唯倦怠せしむるのみにて、何等の効驗なければ、即ち歸りて其腦力の仕事に従事したり。

彼は醫師の勸告に従ひ、スターリングの近郊を二十四哩づゝ散歩せし時の事なりき。一日過ちて足を挫き、疼痛を忍びて、家に歸りしが爲めに、局所化膿して、遂に右足を切斷せざるべからざるに至りぬ。然れども、彼は之が爲めに、決して其仕事を廢せず、化學を講じ、且つ著述せり。次いで彼を苦しめたるものは、僂麻質斯と眼病となり。眼力甚だ弱く、到底筆を執るに堪へざりければ、講義の草稿は之を妹に口授して筆記せしめぬ。苦痛は晝夜の別なく襲ひ來り、纔かにモルヒネに依りて少時安眠を得るのみ、實に傍の見る目も氣の毒なるばかりなり。病魔は尙ほこれにて足れりとせず、肺病の徵候は、徐々現はれ來りぬ。然れども、彼はエディンバラ美術學校の依頼により、毎週其講義を續けたり。數百の聽衆の前に聲を限りに講演するは、最も疲勞せしむるものなりと雖も、彼は一日も其職分を怠ることあらざりき。『さて、又一本、予の

棺桶に釘を打込めり』とは、家に歸りて、外套を脱ぐ時、常に彼の口にせし所なり。而して、夜間安眠を得ざるは舊の如し。

二十七歳の時、彼は毎週十一二時間づゝ講義したり。彼は死の影の背後に迫れるを悟り、益々勉強しぬ。書を友人に寄せて曰く、『或る朝、朝食中、予の訃に接することあるとも、足下請ふ驚く莫れ』と。其覺悟を聽く者誰か一滴の涙なからんや。されど、彼は斯の如く覺悟したりと雖も、之が爲めに落膽するが如き意氣地無しにあらず。即ち彼は、病あらざるものゝ如く、愉快に其仕事を續けたり。或る時人に語りて曰く、『死を覺悟せる人ほどに、何人も生活の樂みを感ぜず』と。

健康は益々不良なり。病は愈々重なるのみ。時に咯血の爲め、心身共に全く疲勞して、餘儀なく業を休むことあれども、數週間の靜養と氣候の變化とを經れば、又直ちに、『井の中に、水は復びいづみはじめぬ』と言ひて、其業に歸るを常とせり。災難は更に來れり。一日其足の不自由なる爲め、過ちて顛倒し、自ら起き上がらんとして、腕を張り過ぎしものから、肩の骨を挫きぬ。斯の如き奇禍

と病氣とは、相續いて襲ひ來りしも、彼は常に非常手段を以て、回復するを得たり。嗚呼、昔は曲がりたれども、折れざりき。暴風は息みぬ。復び起き直りぬ。彼に煩悶なく、苦痛なく、不平なく、其代りに愉快、忍耐及び不撓の精力あり、安心立命の圓熟に悟入して、苦痛の中に平然自若たり。恰も彼の體內には、數人の力籠れるかの如く、彼は面白ぶかしく、其日課に勤めぬ。唯其苦心せし所のものは、家族に病苦を隠す事なり。『予は他人の中に交りて愉快なり、而して死につゝある人として、一日づゝ生き居れり』と曰ひし事あり。

彼は従前の通り、建築學會と美術學校とにて、其學科を講じつゝありしが、一日美術學校の講義を終り、歸りて暫時眠りしが、俄然として咯血し、其量は驚くべく多量なりき。されど、彼は詩人キーツの如く、失望煩悶することなく、心靜に死の使の來るを待てり。されば常の如く、家族と共に食卓に就き、翌日も平氣に學校に行きて、時間通り講義を終れり。然るに其過度の談話は、第二の咯血を促し、甚しき重患となり、其夜一夜の生命も覺束なく見えぬ。然るに幸か不幸か、纒かに命だけは取止めたり。而して病稍を愈るに及びて、更に蘇

格蘭工藝博物館長に任ぜらる。こは、確かに、講演の如く、多大の勞力を要する劇務なり。

爾來、彼の所謂『親愛なる博物館』は、彼の精力を吸収せり。其事務甚だ多忙を極めしが、僅の餘暇を偷みて、貧民學校、貧民教會及び慈善協會等に教鞭を執りたり。彼は自ら精神と肉體との安息を求めず。『働きつゝ死す』と云ふことは、彼が畢世の希望なりき。彼の精神は衰へざるも、身體は意の如くならず、遂に激烈なる咯血を來し、一切の業務を廢せざるべからざるに至りぬ。此時は左右の肺と胃より吐血したりと云ふ。自ら記して曰く、『一ヶ月間、否四十日間、の怖るべき斷食。風は地理學上幸福なる亞拉比亞より吹きたれども、驗溫器上アイスランドより咀ひぬ。我は戰の捕虜となり、肺に氷柱を下げ、先月一杯交はるゝ冷され、焼かれ、咳嗽く度に、青くなるまで血を吐きぬ。今は癒えたり。明日は講義(工藝學の)結論を講ずべし。予は一切の困難にも拘はらず、予の屬せる技術の力に就きて、最後の日まで、講義を遺憾なく進め得たるを感謝す』と。

さて、何時まで生命は續く可きか。彼自身すら異しむに至りぬ。蓋し彼が死を覺悟せしは、既に遠き一昔となりたればなり。遂に疲勞を極め、到底仕事に堪へ得ず、一本の手紙を書くに、苦痛の盡力なるを感ずるほど、はなれり。『横になりて眠ることは、爲すべき唯一の者なり』とは、當時の實感なり。然るに未だ幾何もあらずして、日曜學校の爲めに、講義の原稿として「智識の五大門」と題する一篇を草し、其後之を敷衍して一冊子としたり。稍々體力を復するに及びて、即ち又其屬せる學會に、種々の論文を呈出し、且つ他人の分擔に屬する仕事まで手傳ひぬ。

夜間の不眠、晝間の苦痛及び咯血は、慢性となれり。彼自ら曰く、「予の苦痛を感ぜざるは、講義する時のみなり」と。斯かる重病に苦しみながら、勇猛不退轉なるウキルソンは、「エドワード・フォールベス傳」の起稿を思ひ立ち、遂に之を完結したり。學校其他に講義するは舊の如し。教育家の組織せる一學會に、工學化學の教育上に於ける價值と云ふ題にて講演したる事あり。此時一時間の講演を終りて、更に引續き演ずべきや否を聽衆に質せしが、聽衆は拍子喝采

して、更に半時間の講演を望みたりと云ふ。『聽衆と云ふ感覺は、汝の手にせる粘土の如く、不思議にも、思ふ通り一季節を作り出しぬ。これ實に怖るべき力なり。』今や職分てふ語は、予に取りては、世界最大の語なり。一切の予が眞面目なる仕事の第一位に在るものなり』とは、彼の自ら記する所なり。

此記事は實に、其死に先つこと四ヶ月の時なり。其後又曰く、「予は一週より一週、否寧ろ一年より一年と命の糸を紡ぎ出せり」と。間斷なき肺の咯血は、僅に残れる體力を奪ひ去りぬ。されども、彼は尙ほ講義を廢せざりき。彼は喜んで、一友人の忠言を容れ、健康の爲めに看護人の世話を受くるに至りしが、決して仕事を休むことあらざりき。

一千八百五十九年の秋、日常の如く、エディンバラ大學の講義を終り、烈しき苦痛を忍びて家に歸りしが、階段を上ることすら能はざりき。直ちに醫を迎へしが、肺の瘀衝と肺炎症との診斷なり。流石のウキルソンも、重き病に勝ち難く死を待つばかりなり。病間詩を詠じて曰く、

『死者に涙の手向こそ甲斐なけれ、

光か、やく明日は、痛みと愁ひのうたてき命の終りなり。』

ジョージ・ウキルソンの一生は、彼が妹の筆によりて、萬世不朽に傳はれり。そは史上稀に見る所の苦惱の記録にして、亦堅忍高尚有益なる事業の記録なり。彼の全生涯は、彼が其親友ドクトル、ジョン・レイドの死を悼みて作りたる詩の、詳細なる解説と云ふべけれ。其詩に曰く、

『汝は、勇氣と希望と信實との日課なり、

吾等は生きたる汝を驚嘆し、死したる汝を羨む。

汝は溫柔恭敬なりき。汝が意思の強さよ。

さても、睡がず動せず、勞苦に耐へたる不敵さよ。』

第八章

性情

性情は、基督教の十分の九なり。

僧正ウキルソン

天は性情なり、居處にあらず。

ドクトル、チャルマース

思ふに青年の常弊として、わが青春の氣粗暴に流れぬ。われは、日に／＼残らず
滋味を取り去らん。わが齡と共に氣質和らぎて、終の上葉の如くなるまでも。

サウジ

權力其者も柔和の力に比せば、半分にも當らず。

レイ・ハント

古人曰く、人は材能に依りて成功する如く、性情に依りて成功する者なり。と。然れども、人生の幸福は、主として、氣性の靜平と忍耐、抑制、及び周圍の人々に對する親切用心とに依る。他人の善を求めて己の善を得と、プラトリーの言誠に理あり。

能く組織せられたる天性は、萬事に善を求め得るものなり。不幸と雖も、安心慰藉を求め得ば、甚しき不幸にあらず。空暗黒なりと雖も、到る處より、暗黒を通じて發する光線を見得ば、甚しき暗黒にあらず。若し太陽我が眼に入らざれば、假令或る目的の爲めに姿を隠せりとするも、我等は少なくとも、太陽存在せりと考へて、己を慰むるなり。

性質の快活

斯の如き幸福なる天性は、羨まるものにして、愉快、喜悅、宗教又は快活、哲學の光明を其眼中に有す。太陽の光線は、彼等の胸邊に在り、而して其心は、總て其見る所のものに、其色の儘に光を附するものなり。天性は負ふべき重荷あるときは、敢て拒むことなく、憤ることなく、徒らに悲むことなく、猛然争ひ進みて、道々路傍の草花を摘みながら、快活に其重荷を負ひ行くなり。

且つ公等宜しく、苟且にも、斯かる人は、柔弱にして思慮なしと疑ふ莫れ。最大にして最も宏量なる天性は、通常最も快活にして最も好ましく、最も有望にして最も信ずるに足るものなり。黒雲の中に輝ける徳義の光線を認むるに、敏き人は、非常なる視覺を有する賢者なり。彼は目前の罪惡の中に未來の

善を認め、苦痛の中に健康を回復すべき天性の結果を認め、經驗の中に修正と訓練とを認め、悲嘆と苦惱との中に勇氣、智識及び最良なる實用的才智を集む。

ゼレミー
テイヤラー

ゼレミー・テイヤラーが、其家を奪はれ、其家族を追はれ、其財産を押收せられたる時、自ら左の如く記して、其眞價を失墜せざりき。曰く、『予は收稅吏と執達吏との手中に落ちたり。彼等は予より一切を取り去りぬ。今將た何かあらんや。予をして自ら顧みる所あらしめよ。彼等は予に日月と愛妻と、多くの同情ある友人と、自活すべき或る物とを残り行けり。斯くて予は尙ほ堂々として論戰し得可し。而して予の許諾を得るにあらざれば、彼等は、逆も予の温顔と樂しき精神と良心とを持ち去り得ざるなり。其上に彼等は予に神の使命と聖書の眞理と、わが宗教と、わが天の希望と博愛とを遺留しぬ。斯くて予は尙ほ眠り、消化し、飲み且つ食ひ、讀み且つ考ふ。……斯の如く、樂しむべき多くの大なる原因を有する我は、未だ失望し悲しむに及ばず、此等の樂しみを樂み、而して寧ろ自ら進んで、一握りばかりの棘の上に坐らんのみ』と。

快活は養
成せらる

氣性の快活なると云ふ事は、素と天稟に屬すと雖も、他の習慣の如く、馴致し、教育し得らるゝものなり。吾人の一生を善くするも、悪くするも、吾人自ら爲し得る所にして、人生の幸不幸の岐るゝは、其責全く吾人に在り。人生には、常に二つの方面あり。そは全く吾人の觀方みかた一つにして、所謂光明の側と暗黒の側と是れなり。吾人は意志の力に依りて、之を選択し、幸不幸何れなりとも思ふ儘の習慣を養ひ得可し。されば、吾人は、暗黒の方面よりも光明の方面を取る所の性質を懲懣せざるべからず。吾人若し雲を看るときは、銀色をせる雲の際に着目するを要す。

眼中の光
線

眼中の光線は、悉く形となりて、人生の上に、光明、美、及び歡喜を注ぐものなり。其照らす所や、寒冷を暖め、苦痛を和らげ、無學を曉らしめ、悲哀を慰む。眼中の光は、智力に光澤を與へ、自ら美しくしき光を發せしむるものなり。眼中の光なかりせば、人生の光線は感ぜられず、花は徒らに開き、天地間の奇異を闡明するに由なく、宇宙の萬物は、唯怖るべき、生命なき、氣力なき、空なるものとならん。

マーシャル
ル・ホール

氣性の快活は、人生幸福の一大根源なるが故に、品性の一大保護者なり。如何にして誘惑に打勝つべきやと云ふ質問に、現代の某大家は答へて、『第一に快活、第二に快活、第三に快活』と答へたり。善行と徳義との生長に、最良なる肥料たるものは、快活なり。快活は心に光明を與へ、精神に彈力を加ふるものなり。快活は博愛の朋友にして、忍耐の養育者、智識の母なり。又徳義と智力との最良なる強壯劑なり。ドクトル、マーシャル・ホールは、病人に告げて、『強壯劑中の最良なるものは快活なり』と曰ひ、ソロモンも亦『樂しき心は藥の如く効驗あり』と曰へり。

ルーテル

ルーテル或る時、憂鬱病者を見舞ひ、忠告して曰く、『快活と勇氣、詳言すれば、無邪氣なる快活と、理に叶へる貴き勇氣とは、青年にも、老年にも、又悲哀に沈める一切の人にも良藥なり』と。ルーテルは、音樂に次いで小兒と花とを愛したり。偉人は女の如き優しき心を有するものなり。快活は、非常に美裝する所の性質の一にして、古人は之を心の快晴なる天氣と呼べり。この者は、精神の調和を生ぜしむ、所謂永久なる無言の詩なり。安

バルマ
スト
リン

息と同一にして、天性をして、其力を補充せしむ。故に不平と不満足とは、絶えず之を消耗せしめ快活を殺ぐものなり。

吾人が往々にして、バルマーストリン卿の如き、死に至るまで、勇を鼓して、其本分を盡くしたる者を見るは、抑も何に依りて、然るか。こは勿論主として、性情の静平と習慣的の快活とに因りてなり。斯の如き人は、自ら忍耐の習慣を養成したるなり。バルマーストリン卿と二十年間、莫逆の友たりし、或る人の言ふ所に據れば、卿の怒りたるを見たることなく、唯一度例外とも云ふべきは、アフガニスタン騷擾事件に就きて、責を負ふべき内閣(彼自身其内閣の一員なり)が、敵黨の奸策に誤られたる時なりと云へり。

偉人は快
活なり

之を傳記に徴するに、古來偉大なる天才の人は、多くは快活にして、樂むの人なり。名譽、金錢、或は權力に淡泊にして、人生を味ひ、其樂みを樂むの人なり。ホーメル、ホレーヌ、ヴァジル、モンテレーヌ、シェークスピア、セルヴァンテスの如き皆然り。是れ明かに彼等の書の語る所にして、ルーテル、モリア、ベニコ、レオナルド、ダヴィンチ、ラフェール、ミケランゼロの如きも、同階級中の人

フキ
イル
アイ
ンク

物なり。恐らく、彼等は、斷えず働き、其偉大なる心より作り出せし仕事を、最も能く樂みたるが故に幸福なりしなり。

ミルトンも、亦多くの苦楚辛酸を嘗めたる人なれども、極めて快活にして、天性の弾力に富みたり。晩年明を失して朋友と死別し、一寸前は闇にして、背後に危険の聲ある、不幸なる末路に臨みしと雖も、尙ほ希望を絶たずして、能く耐へ、正しき路を進みぬ。

英國の小説家ヘンリー・フキールディングは、負債と世故の辛酸との苛責に一世を終りし人なり。メアリー・ウォルトレー・モンターグ夫人は、彼の快活なる性質を徳として、『彼は世界の何人よりも、多くの幸福なる時を知れりと言ふを口癖にしたり』と云へり。

ジョ
ンソ

ドクトル、ジョンソンは苦楚辛酸及び運命の迫害と健闘したる、勇ありて快活なる男子なり。常に人生を達觀して其心に樂しみたり。嘗て一僧あり、田舎の生活の興味なきことを嘆じ、『彼等田舎者は、唯若き牝牛のことのみを語れり』と皮肉なる酷評をなしたり。時にスレール夫人の母、傍より進み出て、『君

博士ジョンソンは、若き牡牛の事を談ずことを知るならん』と云ふ。こは蓋し、ジョンソンは何に限らず最大なる位置を作る人なりとの意なり。ジョンソンは、之に由りて、心に満足を感じたり。

ジョンソンの意見に依れば、人間は、老ゆるに従ひて、益々善良となり、其天性は年と共に圓熟するものなりと。こは確かに、チエスターフィールド卿の所謂『心は齡に伴うて善良となるものに非ず、益々粗暴となるのみ』との悲觀說よりも、人間の天性に關して、面白き觀察なり。然れども、人生は種々の立脚地より觀察せらるゝものにして、人間は性情に支配せらるゝものなれば、兩氏の觀察は、各々眞理ありと謂ふべし。蓋し善は經驗によりて己を利し、克己によりて己を訓練しつゝ、益々發達するものなるに反し、惡は經驗の感化を受けずして、益々惡となるものなればなり。

スコット

詩人スコットは、親切なる心を有せし人なり。彼に交はりし人は、皆彼を愛したり。彼が室に在らざること五分間にして、家族の幼き愛兒等は、直ちに彼の心の慈悲深きことを知りたり。スコットが、キャプテン、パーシル・ホールに

物語りたる其幼時の逸話は、彼の情深き性質を證するものなり。或る日、犬に石を投げつけしに、命中して、其足を傷けしが、哀れなる犬は、彼の前に這ひ寄りて、其傷を嘗めるの餘裕を有したり。此一事は、實に彼が將來に、苦痛なる憐憫の意思を起さしめたりと云ふ。彼且つ曰く、『斯の如き往時を反省せば、人の生涯に於ける品性の上に、最も善き結果を來たすものなり』と。

スコット曰く、『正直に笑ふ人を、友とせよ』と。而して彼自身は、心より正直に笑ひたる人なり。彼は何人に對しても情ある詞を使ひ、親切に振舞ひぬ。メルロース寺の番人、嘗て、ワシントン・アーヴィングに語りて曰く、『スコット先生は、度々此處に來らる。時には多勢の人と共に來らるゝことあり。毎時も、ジョンニ、ジョンニ、と呼ぶるゝは、先生の御聲なり。老生應と答へて出て行けば、先生は常に冗談と面白き詞とを以て挨拶せられ、老生と共に隔てなく四方山の話に笑ひ興じ給ふこと、恰も夫婦の打解けたるが如くなり。世にも罕なる博學の大先生なるにと思ふ毎に、老生は常に難有涙に暮るゝなり』と。

アーノルド

アーノルド博士も、亦同情に富める、心より親切なる人なり。虚飾と辭退の

口實とは、毫も彼に見るを得ざりき。レールハム寺の寺男曰く、「博士の如き謙遜なる人を見たることあらず。博士は常に同輩の如く予と握手し給ふ」と。又フオックス・ハウ近在の老媪曰く、「博士は度々わが荒屋に訪づれて、貴婦人に對するが如く余と談話せらる」と。

シドニー・スミス

シドニー・スミスは、快活の力を説明する好例なり。彼は常に物を光明の側より觀たり。田舎牧師としても、管長としても、彼は常に親切、勤勉、忍耐、謹嚴にして、何事にも、基督教徒たるの精神、僧侶たるの親切、紳士たるの名譽を失はざりき。餘暇あれば、筆を執りて、自由教育、道德及び宗教を論じたり。其論旨平易にして、奇抜ならざれども決して拙劣ならず。又決して社會の意向を迎へず。其高潔なる精神、天稟の活氣及び體力は、決して衰ふることなく、晩年病んで褥中に在る時すら、尙ほ一友に書を寄せ、其本領を洩らして曰く、「予は數病併發して病褥中の人となれり。然れども其他に於ては健在なり」と。

科學の大家は、大概忍耐勤勉にして快活なる心の人なりき。ガリレオの如き、デカルトの如き、ニュートンの如き、ラブレリスの如き、皆然らざるは無し。獨

オイレル

逸の大數學家オイレルは、最も著明なる一例なり。彼は晩年明を失して盲人となりしが、種々の巧妙なる器械と、非凡の記憶力とによりて、舊の如く著述したり。彼が唯一の樂みは、孫を相手に遊び戯むれ、勉強の餘暇、彼等に日課を教授することなりしと云ふ。

ロビンソン

之と同じく、夫の有名なる大英百科全書の第一の編輯者たる、エディンバラー大學の教授ロビンソンは、不治の病に罹りて以來、孫の相手になるを無上の快樂としたり。ゼームス・ワットに寄せたる書に曰く、「予は孫の生長と其智識の進歩とを見て無上の樂みを感じず。予は、自ら力めて、神の御手に予の注意を向け、愚なる動機、邪惡なる妄想を制し得るは、予の佛國神學者に感謝する所なり。彼等は總て、わが生命と發育と、力との保護者なり。予が、再び小兒の昔に返りて、一生懸命に勉強して、我が力を發達せしむるを得ざるは、予の深く遺憾とする所なり。」

アボウジ

人間の性情と忍耐にと於ける、最も悲惨なる經驗の一は、佛國の大物理學者アボウジが、ゼネツァに住みける時代の出來事なり。其事情はニュートンの

と甚だ相似たり。アボウジの研究は多方面なりしが最も力を盡くしたるは、晴雨計の研究にして、これより氣壓力の原則を演繹せんとしたるなり。二十七年間の久しき、他念なく之が研究と観察とを記録して、驚くべき大部のものとなせり。然るに、雇入れたる新參の下婢、甲斐々々しく立ち働きて、各室を掃除したり、彼の研究記録は、書齋以外の室にも、秩序よく堆積せられたり。アボウジ入り來りて、見れども其在る所を知らず、則ち婢を呼び「晴雨計の傍に積み置きたる書類は如何にせしぞ」と問ふ。婢曰く「餘り古びたる紙なりしがば、燒棄て、見らるゝ如く白紙と置き換へたり」。こは一大事なりと、悔めども既に及ばず。アボウジは、惘然腕を組み、良少時煩悶したりしが、應て我に歸り、靜かに婢を諭して曰く「汝は二十七年間勞力の結果を烏有に歸せしめたり。今後此室内に在る物に妄りに手を觸るゝ莫れ」と。

博物學の研究ほど、研究者に性情の非常なる快活と安心とを起さしむるものなきが如し。是れ博物學者が他の學科を研究する人よりも長壽なる所以なり。リンネアン學會の會員の報告によれば、一千八百七十年中に死去し

アダンソン

たる十四名中、九十歳以上の者二名、八十歳以上の者五名、七十歳以上の者二名にして、其年に死したる會員全體の平均年齢は七十五歳なりと。

佛國の植物學者アダンソンは、革命破裂の時既に七十歳の高齡に達し居りしが、其騷動中に財産も、住宅も、花園も、悉く暴徒の爲めに失はれたり。然れども、其勇氣と忍耐と決心とは、決して彼を見棄てざりき。彼は非常の窮境に落ち、食ふに食なく、着るに衣なき有様なりしが、意に介せざるものゝ如く、熱心其研究に従事したり。或る時佛國學術會開會せられ、彼も古き會員なりしかば、勿論案内状を受けたるが、靴が無いからとの理由の下に、出席を謝絶したることありたり。グビエー曰く「此憐れなる老翁が、怪しげなる暖爐の餘燼に近く、植物學上の新思想に、生活上の苦痛を一切打忘れて、瘦せたる手の運び怪しく、白紙の小片に筆を走らせる有様を見れば、誰か感動せざらんや。植物學は、彼の落寔を慰むる天使なりき」と。共和政府の委員は、其窮乏を憐みて、少額の年金を與へ、後ナポレオンは、其額を二倍しぬ。斯くて、彼は、七十九歳を一期として、永き安眠に就きたり。彼の葬式に關せる遺言は、其品性を餘蘊なく

説明するものなり。即ち彼は一族五十八名の手向くる花環のみにて、其棺を飾る可しと遺言したり。

以上は、偉人が自ら樂みて、其業務に勉めたる數例に過ぎず。總て偉人は、快活にして遠大なる希望に満てり。其感化も亦甚だ偉大なり。或る人、印度の戰場に於けるマルカム將軍の事を記して曰く、『彼が印度の陣中に出現したるは、猶ほ日光の如し。何人も彼の前に出て、は、笑顔を作るを禁じ得ず。彼は依然として、所謂小兒マルカムなり。其無邪氣にして快活なる態度の魔力は、到底何者も拒み得ざるなり』と。

マーク

エドマンド・パークも、亦快活なる性質の人なり。或る時サア、ジョスア・レイノールズの催したる晚餐會の席上、偶々如何なる酒が如何なる人に適するやとの事、談話の種となりて座興を添へしが、ジョンソンは『葡萄酒は小兒に、ポルトは老人に、ブランデーは英雄に適す』と云ふ。パーク曰く、『さらば予に葡萄酒を飲ましめよ。予は小兒となりて、少年時代の無邪氣に歸らんを望む』と。老人の如き小兒、小兒の如き老人は、吾人が往々世間に見る所なり。

快活の根本

吾人は、嘗て生意氣なる青年の面前にて、快活なる一老人が、老いたる小兒の外、何者も残らずと、揚言せるを聴きたることあり。大量にして眞率、無邪氣なる愉快は、生意氣者の特質にあらざるなり。詩人ゲーテは、常に善人の事を言うて、『嗚呼、若し彼等にして、唯矛盾を行ふ心を有せしならんには』と云へり。こは彼等が誠實と、情愛とを缺けりと、彼が想像せし場合なり。彼等の事を語りて、振向く時、彼は感嘆して、『美しき人形』と曰へり。

快活の眞の根本は、愛、希望、及び忍耐なり。愛は愛を呼び、愛の親切を生む。愛は他人の希望ある寛大なる思想を慰むるものなり。愛は博愛なり、柔和なり、誠實なり、善の辨別者なり。愛は物の光明なる方面に向ひ、其顔は常に幸福の方に向けらるゝものなり。愛は『草の中に光榮を認め、花の上に日光を見る』。愛は幸福なる思想を覺醒し、愉快の大氣中に生存す。一錢を費すこと無くして、無限の價值あるものなり。蓋し之を所有せる者を恵み、且つ他人の心に多くの幸福を生ぜしむるが故なり。其悲哀にすら快活を伴ひ、其眞の涙は香ばしきなり。

ベンサム謂へらく、「人間の活快の寶庫は、他人に施與するに従うて益々富むものなり。一人の親切は、他人の親切を呼び出すが故に、彼の幸福は、他人に恵むだけ増すものなり」と又曰く、「親切なる言葉は、不親切なる言葉よりも費用を要せず、親切なる言葉は、其對手にのみならず、用ひたる人の方にも親切の行爲となるものにして、交通の原則に従うて、單に偶然的なるのみならず、亦習慣的なり……仁惠の結果は、仁惠を受けんとする人を利せざること無きにしもあらずと雖も、能く行はるゝときは、仁惠を施せる人を恵む者なり。善き友誼の行爲は、何等の報酬なきことあり、又不満足なる報酬に止まることあり、されど對手が感謝せずとも、與へたる當人は、自ら自己の善行を樂みて可なり。斯くて吾人は、わが周圍に、僅少の費用にて、恩愛と親切との種子を蒔き得るなり。其種子の中には、偶然善き地面に落ち、他人の心中に仁惠となりて生長するものあるべし。而して彼等の總ては、其生ずる胸の中に、幸福の實を結ぶものなり。一度受くる幸福は、常に全く有徳にして、二度受くる幸福は、時として有徳なり」と。

詩人ロージャリスは、常に好んで萬人に可愛がられたる一少女の事を語り、或る人、其少女に問うて曰く、「何故に汝は、總ての人に愛せらるゝや。」少女答へて曰く、「それは、想ふに、自ら總ての人を愛するが故ならん」と。此一小話は、廣く適用することを得べし。蓋し廣義に所謂人間としての善人の幸福は、吾人の愛する者の數と、吾人を愛する者の數に比例すべければなり。されば、目的の大成は、正直なる手段によるものと雖も、何れの人にも仁惠となるものにあざれば、比較的幸福なるものにあざざるなり。

親切は、世界に於ける一大勢力なり。レイ・ハントが「權力は、溫和の力の半分にも當らず」と言ひしは、蓋し正鵠を得たるものなり。人は常に最も能く、愛情に支配せらるゝものなり。佛國の諺に曰く、「人は親切の虜となる」と。英國にも「黄蜂は、醋より蜜にて捕へらる」との俚諺あり。ベンサム曰く、「親切なる行爲は、凡て權力の實踐にして、貯蓄したる友誼の寶庫なり。而して、權力は何故に苦痛を起すが如く、快樂を起すことを勉めざるか」と。

親切は、^{精神}の中に存せずして、精神の中に存す。人は財布の中より出づる

の實と溫和

錢を與へ、心より出づる親切を抑ふるものなり。錢を與ふる親切は、勿論善なれども、時に害をなすものなり。然れども、同情の親切、思慮ある補助の親切は、必ず仲直の結果あらざることなし。

親切なる行爲に表はさるゝ善性は、柔弱或は暗愚と混同すべからず。其最良なる形に在りては、常に人間生存の受働的狀態なるのみならず、亦自働的なり。公平にして、甚だ同情的なり。人生の最下等なる不定の形を表はさずして、最も高尚に構造せられたるものなり。眞の親切は、その爲すべき時に善を爲すの正當なる方略を講じ、快活に其方略を増進するものなり。且つ明かに未來を察して、人類の進歩及び幸福に貢獻すべき同一精神を認むるものなり。

親切なる性質の人は、世界に於ける活動的人物にして、利己主義的猜疑的の人は、唯自己を愛するのみにて、怠惰なり。或る種類の熱心を以て、生涯を始めざりし青年には、何者をも與ふるを欲せずとは、バッファンの常に言ふ所なりき。是に因りて觀れば、彼は少なくとも、善にして高尚寛仁なる、或る物を

信仰せしものゝ如し。

自負、不信及び私慾は、常に人生不幸の友にして、特に青年には不合理なるものなり。自負に隣れるものは、惑溺なり。絶えず自己を計る者は、他人に同情を有せず。彼は萬事に自己を標準として、己を考へ、己を利す。所謂唯我獨尊なり。

厭世家の淺見

最も憎むべきは厭世家なり。彼は一切の物を悲觀して、世界の端より端まで、悉く荒寥無情となし、何事にも改善の策を講ぜず。彼等運命を悲觀するの徒は、實に人世無用の長物なり。職工仲間の惡漢が、常に同盟罷工の張本人なる如く、社會の不勉強家は、不平を言ひたがる者なり。惡しき車は常に軋る者なり。

性情の病

不平の感情は、やがて悲哀となる。黃疸病者には、何者も黄色に見ゆる者なり。惡しき性質の人は、一切を不正なり、全世界を亂雜なりと思考す。彼等には、一切は虛無なり。精神の苛責なり。人形の腹の中が糠にて詰められたるを見、忽ち、万物是れ空なりと觀じて、尼寺に遁れたる、ポンチ繪の少女に劣らぬ滑

稔は、往々世間に見る所なり。好い年をしながら、理も非もなく悲む者多し。不健康を喜ぶと云ふべき人物は、世間に有り勝ちのものなり。彼等は其れを以て、一種の財産とも見做せるものゝ如く曰く頭痛、曰く脊痛、曰く何、曰く何と、絶えず病氣を口癖にして、遂には之を以て心を慰むるの所有財産となす。然れども、こは恐らく彼等が同情を貪らんとする所以にして、同情なければ、彼等は到底社會に生存するの價値なきなり。

○小事は大事の本なれば、吾人は大に警戒せざるべからず。人生不幸の源を尋ねれば、皆些細なる面倒より起れり。大なる悲哀の前に在りては、凡て些細なる面倒は消え去るものなれども、概して人間は、不幸の渦中に投ぜられ易きものなり。不幸は往々吾人が妄想の子にして、其赴くがまゝに放任するが故に、寶の山に入りながら、手を空うして歸るが如く、折角來れる幸福をも取逃がすものなり。吾人は門戸を閉ぢて、愉快を入れず、獨り憂鬱の中に在り。此習慣は、吾人の生涯を着色して、漸次不平を鳴らし、意地悪くなり、同情を表せざるに至る。吾人の談話は悉く怨言なり。判斷力は亂暴となりて、自ら無愛相

となり、他の一切をも、其如く考へ、自らわが胸を、苦痛の藏となして、自他を苦しむるに至るなり。

此性質を鼓舞するものは私慾にして、私慾は他人に對して同情なく、他人の思慮を顧みるものにあらず。單に不正なる方向に隨意に進むものなり。蓋し避け得らるゝものなるが故に、隨意と云うて可なるべし。定數論者は、意志と行爲との自由は、一切の男女の所有物なりと論ず。そは吾人の名譽たれども、時としては吾人の耻辱たり。何事も其用ひらるゝ仕方によるものなり。吾人は光明の側を見るも、暗黒の方面を見るも、全く自由なり。吾人は善き思想に従ひ、惡しき思想を避け得べし。吾人は自己の決心一つにて、不正なる人もなり、正しき人もなり得べし。浮世は吾人が心の儘なるものなり。浮世は浮世を楽しむ人の所有に歸するが故に、實際之を所有する者は快活なりと謂ふべし。

○然れども、道德家の範圍外なる場合なきにしもあらず。嘗て憫むべき胃弱症の患者あり。醫師を訪うて病苦を訴ふ。醫曰く、「足下に不足なるは、善き心か

らの笑なり。グリマルヂを見に行け」と。患者曰く、「其グリマルヂは予なり」と。されば、スモレットが病苦に悩まされ、保養の爲めに歐洲大陸諸國を漫遊したる時、黄疽病者の眼にて、万事を觀察したり。スメルファンガス曰く、「予は浮世に、其れを語らん」と。ステルン曰く、「汝は醫師に其れを語ることを勝れり」と。驅け出して、中途に氣の付くが如き、輕卒不安不滿なる性情は、心の幸福と平和とに取りて甚だ不幸なり。一時に赫と腹立ちて、寄らば攪み懸からん權幕を示すが如き人多し。一時性情を抑へ得ざるが爲めに、積極的に怖るべき不幸の社會に生ずること極めて多し。斯の如く、樂は苦痛と變じ、人生は荆棘の間を跣足にて行くが如きものなり。リチャード・シャープ曰く、「時としては、小なる不幸と雖も、眼に見えざる毒蟲の如く、非常なる苦痛を與ふ。一本の毛髮は大なる器械を止め得べし。されど、安慰の一大秘訣は、些細なる苦痛に無頓着なる事なり。小なる愉快の下地を大切に守り育て、後初めて、大なる愉快は安全に育つものなり」と。

聖フランシス・デ・セルは、基督教の立脚地より、此事を論じて曰く、「吾人は

注意して、十字架の根元に生ずる小なる徳義を撫育せざる可からず」と。或る人問うて曰く、「足下の所謂小なる徳義とは何ぞ」と。答へて曰く、「謙遜、忍耐、從順、慈心、惻隱、寛容、柔和、快活、懇篤、親切、實直、誠實等一切の小道念是れなり。彼等は内氣なる藁の如く、蔭を好み、雨露の恵みに生ひ出て、早く馥郁たる香氣を放つものなり」と。

又曰く、「汝等如何なる極端に沈むとも、溫柔の餘裕あらしめよ。凡そ人心は、嚴酷に抵抗し、溫和に屈服する如く構造せられたるものなり。穩かなる詞が怒りを鎮むるは、水の猛火を滅するが如く、溫和は如何なる土地をも實らしむるものなり。恩愛を以て言はれたる眞理は、頭上に積み重ねたる燃ゆる石炭なり。否、寧ろ顔上に置ける薔薇なり。眞珠と金剛石とを武器とせる敵に、吾人は如何にして抵抗し得るか」と。

不幸に遭遇することを豫想し居たればとて、不幸に打勝つ所以にあらず。吾人若し永久重荷を負は、直ちに其荷の下に倒れん。不幸に遭遇せば、吾人は大膽と希望とを以て、之を處置せざるべからず。ペルテスが、些細なる事を

苦にする一青年に寄せたる書は、疑ひもなく謹聽すべき忠告なり『希望と自信とを以て前進せよ、こは浮世の辛酸を嘗め盡くしたる老人が足下に與ふる老婆心なり。何事が起るとも、吾人は眞直に立たざる可からず。此目的の爲めには、吾人は常に快活に變現窮まりなき人生の勢力に、己を委せざるべからず。足下或は之を以て輕浮と云はん。そは必ずしも誤れるにあらず。何となれば、花と色とは、空氣の如く輕き些細なるものなればなり。且つや斯の如き輕浮は、人間天性の一部分にして、これ微かろりせば、天性は時の經過と共に沈むなり。浮世に生存する間は、吾人は浮世に伴れて、榮枯盛衰の理に従はざるべからず。人間の自覺は、より高き標點に到る方法にして、吾人は快活に之を弄ぶを妨げず。否、實に斯く爲さるべからず。然らずんば、行爲の氣力は全く衰ふるに至らん』

快活は又忍耐を伴ふものにして、忍耐は人生に於ける幸福と成功との根本要素なり。ジョージ・ハーバート曰く、『成功せんと欲する者は、忍耐ならざるべからず』と。幸運は神の恵みなるが如く、彼に伴へり』とは、快活にして忍耐な

望
快活と希

るアルフレッド王に就きて、故人の言ふ所のものなり。マールボロウの沈着は、軍人としての彼が成功の要素なりき。『忍耐は一切のものに、打勝つものなり』とは、彼が一千七百〇二年、ゴドルフキに寄せたる書中の一句なり。同盟軍の裏切りに、四面楚歌の中に陥りし時、マールボロウは、『吾等は及ぶ限りの力を盡くしたり。最早忍んで従はざる可からず』と曰へり。

最後の最も重大なる幸福は、最も共通的なる『希望』なり。哲學者テールスの言ひけん如く、『如何なる人にも、希望を有するものなり』。希望は貧者の大恩人なり。『貧人の麵包なり』と云はる。所以偶然にあらず。希望は亦大事業の助勢者にして、鼓吹者なり。アレキサンダー大帝のマセドン王位に即くや、父が彼の爲めに遺したる領地の大部分を、其功臣に分ち與へぬ。ベルディカス恐る。『進み出て、陛下の手に保存せらる所幾何ぞと問ふ。アレキサンダー答へて曰く、最大の財産たる希望なり』と。

記憶の愉快は、非常なれども、之を希望の愉快に比すれば、寔に論ずるに足らず。蓋し希望は勉強と勞力との親なればなり。天より享くる一切の恵みは

希望の息を吹き込まれて、初めて生あるものなり。世界を動かし、絶えず活動を維持するものは、道徳的機関なりと云はる。而して最後まで、吾人の前に立つものは、エロンのロバートソンが所謂大希望なり。詩人バイロン曰く、『希望微かりせば、未來は果して何處に在りや。唯地獄に在るのみ。現在を云ふは無用なり。何となれば、吾人は概ね之を知ればなり。過去を語るも愚なり。そは記憶に存する所は何なりやと問ふまでの事なり。換言すれば、破れたる希望なり。故に一切の人事は希望なり。曰く希望なり。曰く希望なり。』と。

CHARACTER

SAMUEL SMILES

自
由

性

論

明治
39 6 7
内交

博士 サミュエル・スマイルズ 原著
文學士 竹村 修 譯述

東京

内外出版協會

品性・論

下巻目次

第九章 動作

動作は品性の美なり——動作の感化力——禮儀——禮法——眞の禮節——自制——不敬——
動作の自由——外國人の禮儀——其趣味は經濟家なり——女子の本能的機智——皮相の
動作——無骨者——ノックスとルーテル——ジョンソンの粗野——内氣と沈着——チユート
ン族の内氣——内氣なる英國人——沙翁の内氣——ホエートリ——内氣なる米國人——
内氣と殖民——佛國人の殖民に失敗せし理由——英國人は非美術的なり——美術と修
養
三二三頁——三五七頁

第十章 書籍の友

人物は讀書によりて推察せらる——其書は其友なり——傳記の趣味——傳記の大教
訓——書籍の王——歴史と傳記——プルタークの英雄傳と其感化——プルタークの手腕
——品性の描寫——自傳——佛國の備忘録——セイモンとラッセル——傳記と小
説——大傳記は少なし——ホスウェルのジョンソン傳——偉人と同時代の人——傳記なき
偉人——偉人の愛讀書——書籍は青年を感化す——其書は善行に似たり——書籍は人生

の日用品なり——書籍の道徳的感化

三五八頁——三九九頁

第十一章 夫婦の關係

結婚は品性を感化す——男女の關係——女子の性格——昔の女子教育——女子の愛情——愛は鼓吹者なり慰藉者なり——戀愛——女子の王國——智の女と情の女——良書の資格——結婚の根本要素——美人と結婚——妻の道徳的感化——ア・トック・ヴィル——ギゾー——パーク——ハッチンソン——ラッセルの妻——パンヤンの妻——バックスターの妻——チンツェンドルフ伯の妻——リヴァインガストンの妻——ロミットの妻——パーアット——クラム——學者の助手としての妻——バックランドの妻——フリーベルの妻——ハミルトンの妻——ニアールの妻——ミルの妻——カールライルの妻——フアラデーの妻——フィドの妻——ナヒールの妻——グロシアスの妻——ハイネの妻——フイロテの妻——コベット——コベットの品性

四〇〇頁——四五四頁

(2)

第十二章 經驗の訓練

實用的才智は如何にして學べるか——隱遁の弊害——人生は經驗の學校なり——青年の熱望——理想と現實——熱心と忍耐——困難の年季奉公——貧乏は興奮劑なり——セルバンテスの事——失敗の教訓——偉人の失敗——天才の辛酸——ダンテとカモエンズ——時の復讐——偉人の苦痛——航海家フリンデルス——名士の入獄と獄中の文士——失敗は常に損失にあらず——不幸は試金石なり——困難と幸福——困苦中の仕事——苦

痛の辛抱——幸福は夢想なり——人生の神秘——職分は人生の極致なり

四五五頁——四九一頁

第九章

動作

我等は温雅ならざるべからず。さらば我等は紳士なり。

シエイクスピーア

動作は徒爾ならず、乃ち高貴の性と、忠義の心との果實なり。

テニソン

美しくしき舉動は、美しくしき姿に優る。見るからに、彫像、繪畫よりも快なり。美術中最も美なるものなり。

エマーソン

動作は往々餘りに放過閑却せらる。動作は女子には勿論、男子にも均しく最も必要なり。……悪しき動作を矯正せんには、人生は餘りに短かし、且つ動作は徳義の影なり。

シドニー・スマース

動作は品性の美なり

動作は品性の重なる外面美の一にして、行爲の裝飾なり、極めて平凡なる務をして雅醇典則あらしむる所以のものにして、人生の些細なる事柄を

も文飾し、概して愉快になさしむるが故に、萬事に處するの良法なり。
論者或は、大行は細瑾を顧みずとて、動作を無視するものあれども、畢竟短見者流の言のみ。蓋し動作は人生の事務を容易ならしめ、且つ社交を圓滑ならしむるに與かりて、甚だ力あればなり。僧正ミッドルトン曰く「徳義其者も、醜惡なる動作に伴ふときは不快なるものなり」と。

處世上、動作は甚だ重んずべきものにして、屢々深謀遠略及び實力よりも他人の心を感化するに勢力あり。仁恵にして信實なる動作は、成功の一大要素にして、之を缺くが爲めに失敗を招く者少なからず。蓋し成功は最初の印象に因る所多きが故にして、此等の印象は、人の禮儀禮讓に都合好く、然らざれば一致するものなり。

粗暴は門戸を閉ぢ、心を閉づるものなれども、善き動作の存する行ひは、到る處に、公然の秘密の如く活動す。門戸は其前に開放せられ、貴賤老幼を問はず、一切の人の心の通行券なり。

『動作は人を作る』との諺あり、然し寧ろ「人は動作を作る」と言ふを當れりと

す。放漫にして、時に粗暴に流るゝも、其心術に於て、乃至は其性質に於て、善なる人あり。されど、彼にして、若し性質の濃厚と、眞の紳士として恥かしからぬ動作の禮節を顯はし得ば、更に一段の光彩を添へ、且つは一層有益なる人と成り得可し。

ハッチンソンの品性に就きては、吾人前に屢々之を言ひたりしが、其夫人彼の禮節を重んじ、性質の濃厚なりし事を記して曰く、「彼は豪俠なりしか、將た尊大に構へざりしものか、我得て之を知らずと雖も、彼は決して小人を擯斥せず、又權勢に阿ねらず、極貧の者に對しても、禮儀を失はず。時に兵卒及び貧しき勞働者の群に交りて、其樂を分つことありたり。斯くて彼等と互に相狎るゝに至りしも、決して彼等に侮らるゝことなく、能く彼等をして心服せしめぬ」と。

動作は、或る程度までは、人の品性を語るものなり。動作は内部の性質の外形に現はれたるものなり。故に人の趣味、感情、氣質並に交際の種類は、其動作によりて推知し得可し。動作に通俗的のものあれども、こは比較的必要なら

ず。然し自然的の動作、即ち天賦の開発が、能く自力の修養を以て改良せられ
たるものは、甚だ緊要なり。

動作の美は、感情によりて鼓吹せらる。畢竟感情なるものは、心術の修養あ
る人には、何等快樂をも與へざるなり。此見地よりせば、感情は、才能及び藝能
に比して、毫も軒輊あらず。寧ろ人の趣味及び品性を陶冶するに、前者は後者
よりも有力なり。同情は他人の心の門戸を開く鍵にして、常に禮儀禮讓を教
ふるのみならず、亦識度を高め、智能を啓發す。されば、人情美の帝王なりと謂
ふも過言にあらず。

禮法

禮儀に關せる人爲的法則は、極めて益なし。禮法の名目を假る者は、往々に
して、非禮、不信實の基なり。そは多く虚禮にして、容易く看破せらるゝものな
り。如何に能く相似たるものと雖も、禮法は到底善き動作の代用物たるに過
ぎざるなり。

概ね善き動作は、懇懃及び親切より始まるものにして、禮は、吾人が他人に
對して有せる、内部の尊敬を外に表示する術なりと稱せらる。されど、人は、他
人に對し、特別の尊敬を有せずとも、外見上充分に丁寧なる様子を示し得る
ものなり。善行は美行と等し。『美しくしき様子は、美しくしき容貌に勝り、美しくしき
動作は、美しくしき様子に勝る。そは繪畫、彫刻を見るの快感よりも一層高き快
感を與ふ。蓋し美術中の最美なる者なり』とは古人の金言なり。

眞の禮節

眞正の禮節は、誠實より生ずるものにして、心より發するものにあらず。され
ば、印象を繼續せず、蓋し禮儀の量は、信實を以て行ふこと能はざるが故なり。
天性は其圭角と濫味とを取り去らざる可からず。聖フランシス・デ・セールの
言ひし如く、禮儀を水に譬ふれば、最も清澄にして最も單純無味なる時、水は
最良なりと雖も、天才の人は、常に動作に多くの缺點を有し、且つ英雄豪傑の
輩には、細瑾を顧みずとて、默許せらるゝを常とす。眞面目と特質と微かりせ
ば、人生は趣味と變化とに乏しく、品性の勇氣と勢力との大半は亡失せらる
べし。

眞の禮儀は親切なり。そは他人の幸福を希圖する性質と、他人に苦痛を與
へざらんと力ひる所に在りて存す。親切なるが故に感謝あり、從つて能く他

の親切なる行爲を認容す。ケプテン、スベークと云ふ探検家は、亞弗利加の中心ナイアンザ湖畔に住せるウガンダ土人の如き蠻人すら此美性を有せりと言ひ、結論して曰く、『忘恩は罰す可きものなり』と。眞の禮儀は他人の人格を重んずる所に特に表はるものなり。自ら人に尊敬せられんことを欲せば、先づ他人の品位を尊敬せざる可からず。他人の主義、定見は己と異なるとも、相當に尊敬せざる可からず。善行の人は他人に丁寧なり。且つ時には、忍んで彼の言ふ所を聞きて、彼の尊敬を得ることすらあるものなり。彼は常に人を咎めず。人を咎むるは、即ち人をして己を咎めしむる所以なり。

然れども、非禮なる感情家は、時に戯言を發せざるよりも、朋友を失ふを勝れりとする者なり。一時の快を得んが爲めに、他人の感情を害する人は、愚なりと謂はざるべからず。建築家ブルネルは、親切なる性質の人なりしが、或る時語りて曰く、『怨恨と悪性とは、人生の最も浪費なる奢侈の中なり』と。ドクトル、ジョンソン曰く、『非禮を口にするは、非禮を行ふよりも、一層不正にして、

人を毆打するよりも、人に粗暴なる事を言ふは、一層誤れり』と。

賢にして禮ある人は、隣人よりも其地位、學問、財産の上に出でんことを欲せず。彼は其階級、門地、或は國に就きて、誇ることなく、下級の人をも見下げざるなり。彼は己が功業、職業、或は手柄話を口にせず、却つて、實行を重んじ、天真爛漫、謙遜にして偽りなく、臆断せざるなり。

他人の感情に對する尊敬の缺乏は、通常利己心より生ずるものにして、動作の粗暴及び冷淡となるものなり。そは、同情と禮儀の缺乏とより生ずるものにて、故意あるにあらず。他人に與ふる苦樂は、些細なる事に對する觀察と注意の有無如何に因るものなり。されば、人間通常の交際上、禮非禮の岐るは、自己を犠牲にすると否とにありと謂ふ可し。

社會に多少の自制無くんば、人は殆んど忍び難きものとならん。何人か斯の如き人と交はりて、愉快なるを得んや、彼は社會に於ける困苦の永久的根本なり。自制缺乏の爲めに自ら困難を招き、或は偏狹にして溫和ならざるが爲めに、一生を賭して成功を得ざる者甚だ多し。之に反して、然らざる人は、多

少運もあるべけれど、兎に角、忍耐、沈着、克己を以て、行路を開き、着々成功の域に進むものなり。

不敬

人は種々の非禮なる方法によりて、他人に不敬を示す者なり。例へば、衣服の不體裁なる事、不潔なる事、或は醜惡なる習慣に耽る事によりて、不敬を示すが如し。不體裁にして不潔なる人は、自ら外形を不快ならしめ、他人の趣味及び感情を輕蔑し、一種の粗暴と無禮とを行ふものと謂ふべし。

第十六世紀佛國新教の名僧ダヴキッド・オンシーヨンは、人を懐ける魔力ありて、眞面目に宗教を説きたる人なりしが、好んで人に語りし所は次の如し。曰く「唯人に苦痛を與へざるだけにては、公衆を敬する所以にあらず。寢衣の着流しにて、會堂に來るが如き人は、何事にかけても不作法なるものなり」と。

動作の自由

動作の完美は自由なり。天真爛漫ほど、人の注意を引くものあらず。虚飾と天真爛漫なる禮儀とは、氷炭相容れざるものなり。ロチエフ・コールド曰く、「外見を飾ることほど、吾人の天性を害するものあらず」と。されば、仁惠丁寧親

切、同情等は、質朴と信實との表現なり。天真爛漫なる人は、他人を安んぜしめ、樂ましめ、而して彼等の心を感化す。故に斯の如く心術の高潔なる動作は、品性と同じく眞の動力となるものなり。

カノン・キングスレー曰く「シドニースミスが、一世の敬愛と嘆賞とを博したるは、貧富貴賤を分たず、同様に丁寧親切に、胸襟を披いて交はりしが、故なり。斯くて、彼の行く處として、幸福を植ゑ附けざるはなく、幸福を收穫せざるはなかりき」と。

世人或は謂へらく、良き動作は紳士の特色なり。下層社會よりも、上流社會に在る人の特質なりと。こは固より論ずるまでも無き事にして、上流社會の人の境遇は、前半生に於て下層社會の人よりも都合善かりしが故なり。然れども、下層社會の人は、上流社會の人の如く、善き動作を爲すべからずと云ふ理由は存せざるなり。

手を以て稼ぐ人は、手を以て稼がざる人と同じく、自ら重んじ、又他人を尊敬するを妨げず、互に自重し、互に尊敬することは、畢竟各自の心掛け一つに

外國人の
禮儀

在り、即ち動作如何に存するなり。労働者の生涯は、一刹那と雖も、換言すれば、工場に在りても、道路に在りても、將た家庭にありても、此種の親切によりて、其樂みを増し得ざることあらず。温良なる職工は、期せずして、其社會の一大勢力となり、漸次に感化を及ぼすものなり。ベンジャミン・フランクリンは、職工たりし時、其社會の氣風を一新したり。財布の底軽くとも、叮嚀且つ温和なることを得べし。禮儀は進むこと遠くして、別に費用を要せず。總ての物貨中最も低廉なるものなり。そは美術中最も卑しきものなれども、必要にして愉快を與ふるものなるが故に、人情の中に列せらるゝを妨げず。

各國民は互に他の長を取りて我が短を補ふ可し。英國の労働社會が他國民より學ぶべき所は、大陸労働社會の禮儀ある事なり。獨佛等の國にては、最下層の人と雖も、動作温雅にして、叮嚀信實、床しき心地す。他國の労働者は、道路に相遇へば、帽子を取りて互に敬禮を表す。斯の如き動作は、決して其人の威嚴を損するものにあらず。他國の労働社會は、極貧なる者と雖も、心に樂し

良趣味は
經濟家な
り

きが故に、決して不幸ならず。彼等の収入は、我英國労働者の収入の半分に足らざるも、酒色に溺れて、悲惨なる境遇に陥るが如きことなく、自ら貧を樂しみて、能く人の道を盡くせり。

良趣味は、眞の經濟家なりと謂ふべし。趣味は行ふに費少なく、勞力と慰安の運を調和す。趣味が勤勉と職分、遂行とに伴ふときは、更に一層愉快にして、貧も趣味の爲めに慰めらる。趣味は家庭の經濟の上に現はれ、荒屋に光と美とを與ふるものなり。趣味は清新を生じ、善心を起し、愉快の大氣を創作す。斯の如く、親切同情及び智力を伴へる趣味は、最も卑しき運命をも、盛裝するものなり。

動作の最初の學校は、品性に於けるが如く、家庭にして、女子は其教師なり。一般に社會の風は、中流家庭の反射なり。然し、人は不良なる家庭の損害に鑑みて、智力の如く、自ら動作を自修し、範を社會に示して、其風を改善し得べし。人は猶ほ瑩かざる玉の如し、其美と光澤とを出さんには、他の善き性質と相磨し、瑩かざる可からず。或る者は唯一面のみを瑩きて、本質の美を示すに止

まる。されど、玉質の美を充分に表はさんには、経験の訓練と日常の交際とに於ける品性の模範にて磨擦することを要す。

動作の成功は、多く機智に依る。此點に於て、女子は概して男子に勝れり。女子は男子よりも、自制に富み、且つ天性男子よりも溫和にして、丁寧なり。女子が作用の鋭敏なるは本能的にして、性質を洞察すること甚だ明快、且つ非常なる表裏の區別と技巧とを有す。女子は、天性、社會の微細なる事柄に適し、且つ敏捷なり。故に、禮儀ある君子は、淑女、社會に交はりて、其儀容を學ぶを常とせり。

機智は才能及び智識よりも能く人をして困難に打勝たしむる動作の直覺的術なり。古人曰く、『才能は力なり、機智は術なり』と。才能は重量にして、機智は動力なり。才能は爲すべき事を知り、機智は爲すべき方法を、知るものなり。才能は人を尊敬すべきものたらしめ、機智は尊敬せらるゝ人たらしむ。才能は富なり、機智は現金なり。

機智ある人と機智なき人との高下は、バーマーストリン卿と彫刻家ベ

ネスとの一逸話の證明する所なり。一日ベーンネス、バーマーストリン卿を訪ひ、突然問うて曰く、『佛國の形勢如何、我國のルイナポレオンに對する策如何』と。卿徐ろに應へて曰く、『實の所、予は知らず。予は新聞紙を見ざりき』と。ベーンネスは、非凡の才藝ありしが、機智に乏しかりし爲め、成功せざりし人なり。斯の如きは、機智と結合せる動作の力なり。醜男子ウヰルクスは、婦人の愛を得るに、彼と英國第一の好男子と、三日より多くの差あらずと言ふを常とせり。

然し、ウヰルクスの場合は、品性を缺けるが故に、動作の必要と云ふ事に關して有力なる證左とならず。ウヰルクスの如き動作に堪能なる人は、唯虚飾的にして、而も其目的や不正なり。動作は、美術の如く、見て甚だ快きものなれども、亦徳無くして有徳を飾る人の如く、嘔吐を催さしむること無きにしもあらず。斯の如きは、唯動作の假面を被りて、皮膚の深さほども厚からざる善行を標榜するに過ぎず。心術の陋劣なる人が、動作を美にするは、猶ほ臭き物に蓋をするが如し。

無骨者

されど、玉にも瑕あり非凡の天質を抱きながら、禮儀禮讓の美德を缺く者亦少なからず皮の蕪雜なる果實が美味なるが如く、粗野なる外形の下に、親切にして信實なる天質を隠すことあり。粗野なる人の行爲は、一見粗暴なるが如きも、其心は正直親切にして溫和なり。

ノックス
とルーテ

ジョン・ノックスとマーティン・ルーテルとは、禮儀に拘泥せず、彼等は禮儀よりも寧ろ嚴酷と決斷とを要する事業を有したり。故に彼等は動作に於て、粗暴過酷なりと云はれぬ。蘇國の女王メーリー、一日ノックスを難じて曰く、『汝如何なればこそ、妄りに我國の貴族と君主をば學校に入れんとするや』と。ノックス答へて曰く、『同じ人間に生れたるものなればなり』と傳へ云ふ。ノックスの剛直と粗野とが、メーリー女王を泣かしめたること、一再にして止まらずと。攝政モルトン偶々此事を聽き、莞爾として曰く、『善い哉。女の泣くは、髯面の泣くに勝る』と。

一日ノックス、女王陛下の御前より退出するや、侍臣等耳語して曰く、『彼は悞れず』と。ノックス顧みて曰く、『紳士の嬉しげなる顔が予を恐れしむる理由

ジョン
の粗野

ありや、予は怒れる人の面相をも見たり。されど、格別恐れざりき』と。彼が過度の勞力と心勞とは遂に彼を黄泉に導きぬ。計に接したる攝政モルトンは、行いて其遺骸を見嘆じて曰く、『其處に人の面を恐れざりし男横はれり』と。ルーテルも亦粗暴過激なる人なりと稱せらる。然れどもルーテルの時代は粗暴過激なりき。故に彼の事業は到底溫和なる手段を以て成功するの見込みなかりき。長夜の眠より歐洲を覺醒する方便として、過激なる議論を或は口にし或は筆にし、時に亂暴に流るゝことすらありしなり。彼が外見の粗野は、温かき心情を覆ひたり。故に私人的生涯に於けるルーテルは、極めて溫和にして愛すべきものありたり。彼は質朴無作法にして、一見凡庸の男なりき。何事も平民的を好みしかば、洒々落々にして細節に拘はらず。ルーテルは、其當時の平民王にして、今日に於ても、獨逸國の平民王と呼ばる。ドクトル・ジョンソンは、行粗野にして、時に亂暴に流るゝことありたり。然れども、彼は粗野なる學校に教育を受け、幼時の貧窮は、彼をして奇怪なる仲間を知己となさしめたり。彼は寢床に安眠するの資力なかりし爲め、サベ

チと共に、毎夜市中を徘徊したることありたり。其不撓の勇氣と勤勉とによりて、社會に於ける地位を得たりし後も、尙ほ其少年時代の悲痛と煩悶の創痕とを有したり。彼は天性剛強粗暴、而かも、其世路の經驗は、彼をして頑固ならしめたり。或る時、人ありて、彼に、彼が宴會に案内せらるゝことなき理由を問ふ。彼答へて曰く、『紳士貴女は沈黙を好まざるが故なり』と。而してジョンソンは、屢々警句を吐きて人を驚かすことありしが、有名なる沈黙家なりし。ジョンソンの友人は、ジョンソンを綽名して『大熊星』と呼びたりしが、ゴルドスミス、彼を評して曰く、『彼の如く優しき心を有せる人なし。彼は皮膚の外には、熊に似たる何ものをも有せざり』と。彼が天性の親切は、賣春婦に力を貸して、フリート街を通過せしめたる逸事を見ても明かなる次第なり。彼は甲斐々々しく、賣春婦の手を引きて、無事に街を通過せしめたり。此時女は甚だしく酒氣を帯び居たりしが、之が爲めに彼の親切は、毫も其度を減ぜざりき。之に反し、嘗て一度ジョンソンが刺を通じて雇聘を請ひたりし書肆の主人の行爲は、極めて残酷なるものと謂ふべし。此時主人は、ジョンソンの醜

惡なる容貌を一見するや、『擔荷夫となりて材木でも運搬するが増しならめ』と侮辱せり。

好んで人の非を挙げ、又は事々物々他の説に反對するは、冷酷の感あれども、亦其反對に、他の意見に盲従し、無暗に人の感情に同情することも、甚だ不愉快にして卑劣なり。リチャード・シャープ曰く、『質朴と老實との間に棹さし、相當の賞讃と阿諛との間に舵を取るは、甚だ困難なり。されども、快活親切及び淡泊の如きは、正しき事を正しき方法にて爲すために必要なるものにして、又甚だ容易なるものなり』と。

非禮なる人は、天下甚だ多し。蓋し故意に然るにあらず。ギボンが其名著『羅馬衰亡史』の第二巻及び第三巻を出版せし當時の事なるが、一日カンパーランド侯、ギボンに出會ひ挨拶して曰く、『ギボン君、御機嫌如何に。予は、足下が昔ながらの杜撰なるなぐり書に、相變らず從事せらるゝを見る』と。蓋し侯は著者に敬意を表せんと欲して、斯の如き天真爛漫以外、他に言ふ可きお世辭を知らざりしなり。

内氣と沈着

又、單に内氣なるが故に、頑固にして沈着傲慢なりと想はるゝ人少なからず。内氣はチュートン人種の特徴なり。そは英國の亂心と呼ばれ、多少北方國民に通有なる傾向なり。普通の英國人は、外國に旅行する時、常に内氣なり。彼は頑固粗野にして閑雅ならず、淡泊ならずして同情なし。動作の快活を装ふとも、臆病は到底隠すことを得ざるなり。天性溫雅にして社交的なる佛國人は、斯の如き性質を了解するを得ず。故に其眼に映ずる英國人は滑稽なり。彼等がボンチ繪の好材料なり。

チュートン族の内氣

一般に佛國人と愛蘭人が、動作の典雅快活に於て、英國人、獨逸人、米國人に勝るは、天性の然らしむる所なり。彼等はチュートン人種よりも社交的なれども、獨立心に乏しく、淡泊なれども巧言令色なり。故に彼等は自然的交際家なり。獨逸人は比較的頑固沈着にして、内氣質朴なり。人は、性質の瀟洒敏捷、快活を表はし得れども、尊敬心を起さしむるに足る深き性質を有せざることあり。彼等は有らゆる動作の美を有す。然れども、赤心なく、輕薄にして、利己的なり。品性は假面を被り得るものなり。

内氣なる英國人

氣樂にして派手なる人と、頑固にしてじみなる人と、何れか事務に適し、及び社會或は人生の偶然なる交際に適するかは、問はずして明かなり。何れが誠實なる友人なるか、言責を重んずる人なるか、將た職分を遂行する人なるかは、全く別問題なり。

質素にして不器用なる英國人、佛國人の語を借りて言へば、所謂纏れたる英國人は、初めて出遇ふたる時には、確かに不愉快なり。火箸を飲込んだる人の如き觀あり。自ら内氣なるが故に、人をも内氣ならしむ。其頑固なるは、尊大なるが故に、あらずして、内氣なるが故なり。其内氣は天性なるが故に、思ふが儘に都合よく取り去ることを得ざるなり。英國の惡漢の粗暴なる動作と兇惡とを描寫して遺憾なき小説家其人が、既に蝙蝠の如き小膽者なりしは、敢て異しむに足らざるなり。

内氣なる人同士が相對するときは、二本の氷柱が下れる如き感あり。彼等は横に歩いて、室内に背向き合うて坐り、旅行中に在りては、列車の反對の隅に胡鼠々と這込むなり。内氣なる英國人が旅行するときは、人の居らぬ席

を見出す爲めに、列車に沿うて歩行し、都合よき場所を見付けて、一度車内に入り戸を閉づる時は、心中窃に他人の入り來らざることを祈るなり。故に俱樂部の食堂に入る時、内氣なる人は空席のテーブルを探し、時には、何れの卓も、一人づゝに占領せられて、後より來る人の迷惑すること度々あり。斯の如き非社交的は、畢竟内氣なるが故にして、英國人の特色なり。

アーサー・ヘルプス曰く、『孔子の門生が言ふ所に據れば、主君の前に在りて、孔子の動作は恭敬不寧なりしと。君在^{イデキ}蹶踏如也。社交上に於ける英國人の動作を描かんと欲せば、此二語に若くものなし』と。ヘンリー・テラーが、其著作「政治家に於て、大臣が其客を接見するには、『大臣は成る可く戸の近くに在りて、訪問者に腰を屈せず、會見終れば、倉皇隣室に逃れるものなり』と言ひしは、蓋し此意に外ならざる可し。テラー又曰く、『臆病にして、迷惑がる人は、逃げ出さんにも、通過すべき部屋の長さを自覺するときは、根から生えたるが如く、其場所を動かさず、常に會見が満足なる結局を告ぐるは、最後の語の談さるゝ折、戸に接近せる時なり』と。

故アルベルト親王は、温厚篤實の君子なりしが、亦最も内氣なる人の一人なりき。親王は自ら其短所を知り、種々工夫する所ありしも、全く徒勞に屬したり。英國の偉人中に、内氣なる人を求むれば、甚だ少からず。ニットンは、其時代の最も内氣なる人なりしものゝ如し。彼は世に名を知らるゝを恐れて、暫時其大發見を秘密に附したり。彼が二項式の發見及び其應用、並に地球引力の大發見は、發見後數年にして、初めて出版せられたるなり。月の地球回轉説の解法をコリンスに授けたる時、ニットンは、自己の名を署することを拒みて曰く、『そは恐らく知己を増加せん。是れ予を滅ぼす所以なり』と。

シェークスピアの研究より、彼の非常に内氣なる人なりしこと、推測せらる。彼が其脚本を出版せしことは、不明の事實にして、其著述の年代は、皆後世の推測なり。其自作の脚本を演ずる時、俳優として、第二流乃至第三流の役割に當りし事、名聞を嫌うて、檜舞臺たる倫敦より、四十の坂も越えざるに早く、田舎に隱遁したる事實より推せば、其内氣なる人物なりしことは、明かな

沙翁の内氣は、詩人バイロンの如く、跛者なるの故を以て、更に其歩を進めたるが如し。其他沙翁が希望と云ふ天賦を有せざりしことも、亦推測するに難からず。此大詩人が筆の跡に、愛情、徳義の如きは歴然として見はれ居るも、希望の觀念を彷彿たらしむる章句は罕なり。偶々これあれば輒ち

『悲哀には、唯希望の外良薬なし。』

と云ふが如き、極めて深刻にして、絶望的の聲なり。彼がソネットの多くは絶望の聲なり。彼は其跛たることを嘆き、俳優としての其職業を詫び、失戀の苦を訴へ、墓地を偲びて、永久の死に憧がれぬ。

沙翁の俳優たる職業と、公衆の前に度々顔を出せしことは、速に其臆病を矯正せしなるべしとは、自然に何人も想像し得らるゝ所なり。されども、本來の臆病は、容易に打勝ち得らるゝものにあらず。毎夜、群集せる家に招待せられたる、チャールレス・マッシュュースは、最も内氣なる一人なりしにあらずや。彼は人に出會ふを嫌ひて、態々裏町を迂廻せしと云ふ。其夫人の語る所に據れば、彼は内氣にして人に面を見知らるゝを厭ひ、萬一途上、通行人が私語ける

を聞くときは、伏目になりて、面を赤らめたりと。

バイロンは内氣に感染せる者とは想像し得ざるなり。然し、彼は明かに内氣の犠牲なり。サウスウエルに、ピゴット夫人を訪問しける時、此方に來る數

人の姿を見るや、忽ち窓より飛出して、小路の中に隠れたりと云ふ。

ホエー
リ

近世に於て最も著明なる例は、僧正ホエートリの事なり。彼は幼にして

極めて内氣なりき牛津オックスフォードに在學中、彼は常に白色の粗末なる上衣と、白の帽子とを被たる爲め、白熊と云ふ綽名を得たり。而して彼が自白する所に據れば、其動作は、此綽名に背かざりき。故に彼は自ら之を矯正せんと欲し、交遊せる人の中に、最も都雅なる人に模倣せんと力めたりしが、こは却つて其臆病を益々増進せるに過ぎざりき。即ち謂へらく、他人を思はずして、自己の事ばかりを考へたるが爲めなるべし。自己を棄て、他人に就きて考ふることは、禮儀の眞の根本なるなからんやと。

何等の進歩もなかりしかば、ホエートリは絶望しぬ。自白して曰く、『何故に予は望みもなきに、一生を此苦痛に堪へざるべからざるや、成功すべき一

縷の望みだにあらば、辛抱するが當然なれども、絶望なる以上は苦しむだけが野暮なれば、静かに死を待つに若かず。予は出来るだけ努力したり。而して、一生熊の如く粗暴をらざるべからざる所以を知りぬ。若かず、熊の如く苦勞せずして、天性を維持せんには」と。斯の如く覺悟を定めてよりは、一切動作に無頓着ならんと力め、世の批評を馬耳東風に聞き流しぬ。請ふ少時、彼の自白に聽け。曰く、『予は豫期以上に成功したり。蓋し予は、常に予が内氣を苦にせざるに至りしのみならず、亦自覺に依る所の動作の缺點を免れ得たればなり。天真爛漫の動作に放任して、粗野に、虚飾を加へず、圓轉滑脱と優美とは全く度外に置きて、勿論教義上に誇學者の風を學ばず。但無意識的なり。故に自ら感ずるときは、其人に好意を表するを禁じ得ず。而して予は、此等は必要なる事と信ず』と。

英國人の血統を受けたるワシントンには、亦内氣なる人なりき。『其人と爲りや少しく頑固に、其動作や形式的ならず。特に他人の前に在りては安からず』とは、ジョシアク・クンシーがワシントンに就きて語る所のものなり。彼は田

内氣なる
米國人

舎紳士の風ありて、社交に慣れず。甚だ丁寧なれども、辯舌に拙に、舉止亦甚だ都雅ならざりき。

予輩は敢て、近世の米國人を内氣なりと言はん。と欲する者にあらざれども、現今著名なる米國の文士は、大抵内氣なる人なり。ホウソンは、陰鬱なりと云ふ程に内氣なり。一日人ありて、彼の在りたる室に入り來りし時、彼は面を見られざらんが爲めに、くるりと背を向けたることを予は實見したり。最近の出版なるホウソンの「覺帳」を開るに、左の如き奇談あり。ホウソン或る時、ヘルプスと出會せしが、彼はヘルプスは甚だ冷淡なりと思へり。さて又ヘルプスも確かに、心中ホウソンと云ふ奴は冷淡なる漢なりと思ひたるなり。斯の如きは、内氣なる人同士が相對する時には、有り勝ちの事なり。双方互に頑固なり、隔意ありと僻みて、白眼み合ふばかりなれば、袂を分つまでに、温かき友誼の交換さることあらず。斯かる場合には、ヘルプスエチウスの格言を思ひ出すを可とす。曰く、『人を愛せんと欲せば、餘りに細かく注意すべからず』と。

予輩は缺點として、内氣を論じたり。然れども、亦他方面よりも之を觀察せざる可からず。蓋し内氣と雖も、亦光明の側ありて、善き分子を有するが故なり。内氣なる人及び人種は、非社交的なるが故に、無作法なり、辭令に拙なり。彼等は社交的人種の如き、自由の交際より得らるゝ動作の美を有せず。蓋し彼等は社交を求むるよりも、寧ろ社交を厭ふの傾向を有すればなり。彼等は他人の面前に在りて内氣なり。我が家族の前に在りてすら尙且つ然り。彼等は隔意と云ふ衣の下に其愛情を匿す。極めて内輪なる場合にあらざれば、其感情に左右せらるゝことなし。但し無感覺なるにはあらず。而かも、不健全にして、不正なる感情にあらざるなり。

古代獨逸人の特質は、社交的なる隣國の佛國人が、ニームック、即ち啞者と云うて嘲りたるまでに甚だ内氣なりき。此綽名は社交的なる佛國人及び愛蘭人との比較上、現今の英國人に適用し得べし。

内氣と殖民

此他英國人には、祖先傳來の一特質あり。何ぞや。曰く、家庭を非常に愛すること。是れなり。英國人に家庭を與へよ。されば、彼は比較的社會に無頓着なり。

我が家庭と稱し得るものを有せんが爲めに、英國人は、渺茫たる大海を渡りて、荒原或は人跡絶えたる森林の中深く分け入りて、此處に居をトし、己の爲めに家庭を作るなり。彼は荒寥たる寂寞を懼るゝ者にあらず。唯妻と家族の團欒を以て足れりとなし、敢て其他を希はざるなり。英米人の祖先たる日耳曼族が、最良の殖民者として、世界の各處に疾く移住及び殖民したるは、是故なり。

佛國人は、殖民者として見るべき進歩をなさざりき。こは畢竟社交的本能あるが故なり。即ち動作の美に於ける秘密なり。又彼等が佛國人たる事を忘れ能はざるが故なり。往時佛國人は北亞米利加大陸の大部分を占領するが如き形勢を示したり。當時佛國人の城砦は、下カナダより、セント・ローレンスに及び、シユウペリオル湖のフォン・デラクより、セン・クロワ河に沿うて、更にミスシッピ河を下り、其河口ニウ・オルレアンスに達したり。然るに、自重にして勤勉なる所謂大ニームックは、沿海州の殖民地より、點々として、西方に發展し、漸次に其歩を進めしかば、今日に至りては、往昔佛國人占領の名残た

佛國人の
殖民に失
由敗せし
理失

る者、獨り下カナダのアカディア殖民地あるのみ。

こゝに、佛國人が社交的にして、新世界に殖民し難き所以を證する有力なる一事實あり。上カナダ地方に於て、英國の殖民者が、深林及び荒地を開拓して、數里を隔てたる同胞殖民者を隣人とせるに、佛國の殖民者は、相集まりて、村を成し、道路の左右に軒を列べ、家の背後に耕地を擴げ、之を細かく小別せり。彼等は、社交の爲めに、斯かる不便なる制度を忍び、英、獨、米人の如く、寂しき僻遠の地に、住むを好まざりき。英國の殖民者は、常に寂寞に慣れたるのみならず、亦之を好みたり。西部の州に於ては、殖民者互に相接近して、人口増加するときは、未練を残さず、交際を斷念して、家財を荷車に積み、愉快に家族を引連れて、其地を去り、遙か西方に至りて新家庭を作るなり。

斯の如く、チエートン人種は、内氣なるが故に、好個の殖民者なり。英國人、蘇格蘭人、獨逸人及び米人は、唯家庭を作りて、家族と團欒し得ば、決して寂寞を懼れざるなり。彼等の比較的社交に冷淡なることは、彼等をして、地球の全面に發展せしめたり。然るに、佛國人の社交的本能は、其動作をして都雅ならし

英國人は
非美術的
なり

めしも、殖民者として、彼等の下風に立つを餘儀なくせしめたり。アルジェー

ル、其他の佛國殖民地に、佛國人は、守備兵よりも、多く居住せざるなり。英國人の特質にして、其非社交なることより、來るものあり。其内氣は、彼をして、自重、獨立的ならしむ。社交は、其根本的幸福ならざるが故に、私に退いて、讀書と研究と、發明を友とし、或は工藝的の仕事に慰安を求め、世界第一の器械學者となれり。彼は海洋を恐れずして、漁業家となり、水夫となり、發見家となれり。斯くて、英國の海軍は、世界に冠絶し、海上到る處として、英國の軍艦を見ざるはなし。

英國人は、社交的ならざると同じ理由によりて、非美術的なり。英國人は、最良なる殖民者、水夫、工匠となりたれども、良き唱歌者、舞踏者、俳優、美術家及び流行に合ふ人となることを得ず。彼等の衣服は、粗末なり、舉動は、野暮なり、口も手も不器用なり。姿勢は、不恰好にして、雅致を缺けり。彼は、率直坦懐なれども、品格なし。此事は、數年前巴里に開かれたる萬國家畜博覽會に於て、著しく證明せられたり。博覽會の閉會に當りて、出品人は、賞與を得る爲めに、各自其

動物を伴ひ來りぬ。上流社會の貴公子然たる風采態度にて、最下等の賞與を得たる第一着の人は、服裝美々しき、好顔華麗の西班牙人なり。次に出てしは、優美、典雅にして派手なる佛國人と伊太利人なり。其服裝は勿論華美にして、花及び種々の色彩を調和よく取交ぜたるリボンにて、動物の角を飾れり。最後に一等賞を得る者のさばり出てぬ。如何なる人ぞと見てあれば、これ抑も如何に、農夫の甲掛を着け、釦の孔に一輪の花さへなく、質朴にして野鄙なる男なり。見物人は呆氣あほうけに取られて、彼何人ぞと、互に私語さ合ひぬ。やがて、衆人一齊に叫んで曰く、「英國人なり、最大國の代表者なり」と。彼は生粹の英國人なり。彼の其處に現はれ出てたるは、己を示すにあらずして、最良の動物を示すが爲めなり。斯の如くして、彼は一等賞を得、悠々として去れり。釦の孔に花ありとも花なしとも、其動物の優劣に何の關係あらんや。

英國人の粗野と、美術趣味の缺乏とを改良せん爲めに、美術普及の目的にて、一學校創立せられぬ。美は今や教師と説教師とを有せり。或る人は早くも、美を宗教の光明中に認めたり。或は曰く、「美は善なり」或は曰く、「美は眞なり」或

は曰く、「美は仁惠の僧なり」と。此等の語は、歴然として、彼等の教科書中にあるなり。美術の研究が、人の趣味を改良するは事實なり。美の翫賞は、天性を純化すべく、故に情慾の快樂より解脱して、品性を高潔ならしむるは、確かに信すべき事實なり。

美術と修養

或る程度までは、勿論純化し高尚にし得べけれども、吾人は餘り多くを豫期すべからず。美は人生の裝飾物にして、修養すべき充分の價值あり。音樂、繪畫、舞蹈、其他の美術は、凡て快樂の根原なり。彼等は肉體的なるべからざるものなりと雖も、然かも肉感的にして、屢々其れ以上に出づるものにあらず。形及び色の美に於ける趣味を修養すること、及び音響と姿の美を修養することとは、心の修養及び品性の發達上に、必要なる結果あらざるなり。美術の翫賞が、趣味を改良し、感嘆を促すことは、疑ふべからざる事實なり。然れども、一の高潔なる行爲を人々の目前に於て實地示すことは、數里四方に銅像及び繪畫を陳列するよりも、人心を感化し、品性を刺戟すること、更に一層大なる可し。蓋し人をして大ならしむるものは、心なり、精神なり、情意なり、美術の趣味

にあらざるなり。

常に奢侈の傾向ある美術の研究が豫期の如く、人間の進歩に利したるや否やは疑問なり。其餘りに過ぎたる専修は、感情の誘惑を開放するが故に、品性を強健ならしむるよりも、寧ろ柔弱ならしむるの傾向あり。美術家の天賦は、思索家の天賦と異なり、其理想の極致は、文學、繪畫、音樂の何れに關せず、形式の美を完くするに在り。此理想は最も微妙なるものにあらざるも、兎に角、永久不滅の生命あるものなり。

之を史上に徴するに、美術の極盛時代は常に其國民衰退の時代なり。美術の極盛と、人道の腐敗紊亂は、希臘に於ても、羅馬に於ても、同時期なりき。フェデアス及びイクチノスは、アゼンスの光榮が權花一朝の夢と過ぎ去りたる時、バルセノンを完成せざりき。フェデアス牢死し、スバルタ人は、其勝利とアゼンス敗虜の記念物を市中に建設したり。羅馬も亦其歸を一にす。即ち古代羅馬の美術が極致に達せしは、羅馬人が腐敗墮落の極度に達せし時代なり。ネーロはドミチアンの如き一美術家なり。而して此二人は羅馬帝國の大惡

魔なり、美果して善ならば、コムモダスは第一の善人ならざる可からず。然るに歴史に依れば、彼は大惡人の一人なり。

近世羅馬美術の極盛時代は、法王レオ第十世の治世なり。而して此時代は、法王アレキサンダー六世の時より始まれる淫靡放縱の風、盛んに人民及び僧侶の間に行はれたる時代なりと云ふ。同じ様に、和蘭、白耳義の諸邦國に於ても、美術の極盛時代は、人文及び宗教の自由の頽廢に次ぎて、國家の生命を賣りて、西班牙の専制治下に屈服したる時代なり。若し果して、美術が國民の品位を高め、美の翫賞が、人をして善ならしむるものならば、佛京、巴里は、賢人善人の淵藪なざるべからざる理なり。羅馬は亦美術の大都なり。然れども、其處に昔時羅馬の所謂ヴェルツス即ち勇氣は、ベルツィ即ち玩弄物の趣味にまで下落したり。而かも、現今に至りては、羅馬市其者も、名狀すべからざる程汚穢なり。

美術は時として、垢穢と密接の關係あるが如く見ゆることあり。ラスキンが、ヴェニスに美術の捜求を企てたる時、其從者は、探究中、不圖惡臭を嗅ぎた

り其臭氣甚だしかしかば彼は『今吾等は甚だ古き美しくしき、或る物を獲るに近からん』と言へり。蓋し美術を意味せるなり。少しく清潔を教ふる事は、美術の教育よりも恐らく有益ならん。襪を附くるは可なれども、襯衣の汚れ目に注意せざるは愚に近からずや。

故に優美なる舉動、慇懃なる態度、溫雅なる作法、其他一切の人生を愉快に美しくし、爲すべき術は修養するの價值あれども、之が爲めに正直誠實、眞純の性質を等閑視せざらんを要す。美の本源は眼の中よりも心の中にあらず。可からず。若し術にして美しくしき生涯及び高尚なる行を爲すに足らざれば、其益たる甚だ少なし。禮儀ある動作も、禮儀ある行に伴はざれば、其價多からず。優美は皮膚の厚さに過ぎず、甚だ快きものなれども、亦甚だ輕薄なるものなり。術は無邪氣なる快樂の根源にして、高尚なる修養の補助物なれども、修養宜しきを得ざれば、單に肉感的のものとならん。單に肉感的なるに止まらば、術は即ち向上的にあらずして、向下的なり。正直なる勇氣は、優美よりも貴く、潔白は雅致に勝る。されば、身體と心情との清潔は、美術よりも勝れりと

謂ふ可し。

之を要するに、溫雅の修養を等閑に附すべからざると同時に、終局の目的とすべき一層高貴なる、或る者あることを、須臾も忘るべからず。快樂よりも、術よりも、富よりも、權力よりも、智力よりも、將た天才よりも、更に偉大なる一或る者とは何ぞ、曰く、品性の高潔、優美是れなり。個人的善の確乎たる根柢なければ、世界に於ける一切の雅美術は、人民を救ふこと能はず、又之を嵩高ならしむる能はざるなり。

第十章

書籍の友

思ふに、書籍は、純良なる實體の世界なり。そが周圍に肉と血の如く強き憂を以て、我等の娛樂と幸福とは生ひ出づるなり。

ワオリーヅウオース

吾に平常の談話に於けるのみならず、亦人間言行の根本たり、且つ根本たるべき一切の藝術に於ても、傳記は必要なるものなり。

カーライル

予は非常なる興味を以て、一切の傳記を読む。カウエンシツシユの如き無情なる人の傳記を讀みても、一讀直ちに其儼を慄び、心に其人格を描き、遂に彼は歴然と、我前に現はれ出づ。而して我は彼と地を易へ、暫時がほどは、カウエンシツシユと成りて、彼の考へし如く考へ、彼の爲せし如く爲す。

ジョーザ・ウィルソン

余は、古人を追想し、彼等と共に遠き昔の人となる。彼等の徳を愛し、彼等の尖を責め、彼等と希望及び恐怖を分かち、彼等の課程より恭しく教訓を受く。

サウヅー

人物は讀
書に依り
て推察せ
らる

良書は眞
友なり

人は其朋友に依りて知らるゝ如く、亦常に其讀む所の書籍に依りて知らるゝものなり。蓋し人の友あるが如く、書籍の友あるが故なり。人は、書籍を友とするも、人を友とするも、必ず最良なるものを以て友とすべし。

良書は良友なり。是れ過去、現在、未來を通じて變らざるものなり。良書は最も忍耐にして最も愉快なる友なり。逆境に在る時に當り、決して吾人に背を向けず。良書は常に變らざる親切を以て吾人を迎ふ。青年時代に吾人を樂ましめ、且つ教へ、老年時代に吾人を慰むるものなり。

人は、往々書籍に對する愛を同じくするが爲めに、互に意氣投合することあるものなり。恰も第三者に對する崇拜を同じくして、莫逆の友となることあるが如し。『予を愛せよ。我犬を愛せよ』と云ふ古諺あり。されど『予を愛せよ。我書籍を愛せよ』と云ふの適切なるに若かず。書籍は朋友締契の最も眞實にして高尚なるものなり。人は、其好める著者によりて、互に考へ、感じ、且つ同情を表し得べし。彼等は著者と共に生き、著者は彼等同好の人と共に居る。

ハズリット曰く、『書籍は心の中に吹き込み、詩人の詩句は吾人の血液の中

に混じて流る』と吾人は青年時代に讀みたる書籍を老年に至りて記憶す他人の經驗を讀むときは己自ら其境遇にありし如きを感じず書籍は到る處に廉價にして益あり吾人は書籍の空氣を呼吸するのみにて著者の恩澤を蒙ること多大なり。

善き書籍は人生の最良なる壺にして最良なる思想を秘藏するものなり。蓋し人間の世界は大概思想の世界なればなり。されば善き書籍は善き詞及び善き思想の寶庫にして吾人は之を心に記し之を樂むが故に吾人が永久の親友たり慰藉者たるなり。サア、ヒリップ・ブシドニー曰く『書籍は決して孤なるものにあらず必ず貴き思想によりて伴はる』と善き思想は誘惑に際して天使の如く吾人の心を純潔ならしめ守護するものなり。そは亦行爲の萌芽を秘藏す。何となれば善き詞は常に善き書物の中に含まれ居ればなり。

さればサア、ヘンリー・ローレンスは、ウォーヰツウォーリスの『幸福なる戰士の品性』と題せる詩を愛讀し其思想を我生涯に實現せしめんと欲したり。此詩は常に彼の前に模範として立ちたり。彼は間斷なく之を思ひ且つ屢々人に

之を拔萃し與へたり。其傳に曰く『彼は其生涯を此詩と一致せしめ其品性を同化せしめんとしたりしが遂に意の如く成功したり。熱心なる人は必ず成功するものなり』と。

書籍は不死の本質を有す。書籍は人間努力の産物中最も永久的のものなり。盛者必滅諸行無常、一世の榮華を極めたる金殿玉樓もいつしか消えて徒らに頽垣破墻を遺すのみ。繪畫彫刻の類が星霜を経て廢壞するは言ふまでもなし。されど獨り書籍は幾百世に及ぶも其生命を失はず。書を坑にしたる秦の無道も、孔孟諸子百家の書を滅ぼすを得ざりき。時は偉大なる思想と關係せず。古人の偉大なる思想は今日に在りても常に新なり。古人の詞及び古人の思想は今も尙ほ印刷したる頁より絶えず其聲を發せり。時の努力は唯惡き書籍を奪ひ去るのみ。文學上の書にして何時までも存するものは唯眞の佳作のみなり。

書籍は吾人を最良なる社會に紹介し偉人の前に吾人を導くものなり。吾人は彼等偉人の言行を聽き恰も生ける彼等に會ふが如き感あり。吾人は彼

等の思想に關與し、彼等と共に同情し、彼等と共に樂み、彼等と共に悲む、彼等の經驗は吾人の經驗となり、吾人は恰も彼等と共に同じ舞臺に出勤する俳優の如きを覺ゆるなり。

偉人善人は、此世に於ても死するものにあらず。書中に置めたる彼等の精神は世界を活歩す。書籍は生きたる聲なり。吾人が謹聽すべき善智識なり。吾人が古人の感化を受くるは是故なり。詩に曰く、

『死して君王の位に上り、棺桶の中より、

尙ほ吾人を支配せり。』

世界の偉人は、今猶ほ昔の如く生存せり。ホーマーは未だ死せず。其個人的歴史は、上古の雲霧中に隠されたれども、其詩は今日に在りても猶ほ斬新なり。プラトンは、尙ほ其哲學を教へつゝあり。ホレーヌ、ヅァー、ジル、ダンテは、生きたる如く尙ほ歌ひつゝあるなり。シェークスピアは死せず。其形骸は一千六百十六年に石下の土と化したれども、彼の精神は今猶ほ英國に活動し、彼の思想は萬世不滅なり。

傳記の趣味

人苟も書を読めば、貧賤なりと雖も、此等の偉人を友とするを得べく、決して僭越なりとは思はれざるなり。且つ汝等笑はんと欲するか。セルバンテス或はラブレーは、汝等と共に笑はん。汝等夫れ悲まんと欲するか。トーマス・ア・ケンピスあり。ゼレミヤ・テラーあり。汝等と共に悲を分かち、汝等を慰むる所あらん。吾人が悲喜哀樂を分つは、常に書籍或は書中に銘せる偉人の精神に頼るなり。

人は、就中人に對して、最も趣味を有するものなり。人事に關するものは、其他のものよりも、人に對して引力を有す。人は各自其同胞、換言すれば、人類界と云ふ大家族の一人として、一切の他人に對し、多少趣味を感ずるものなり。

而して人の教化益々大なれば、同情の範圍は益々大なり。個人として、人間同士の感ずる趣味は千差萬別なり。彼等の描く肖像畫、彼等の彫刻する半身像、彼等が相互に語る物語の如き、其一例なり。エマーソン曰く、『人は人間以外のものを畫き、作り、或は考ふること能はざるなり』と。就中此趣味は人物史に於て感ぜらる。カーライル曰く、『人間の自然心交誼心は、左

右の論あるに拘はらず、有力なる證據として、傳記に言ふ可からざる興味を感ずと云ふ一事實によりて、自ら證明す」と。

傳記に對する趣味は非常なるものなり。多數の讀者を有せる小説は、畢竟假空的傳記に他ならざるなり。見物の群集せる戯曲とは、實たる傳記にあらざりて果して何ぞ偉大なる天才が、小説的傳記の上に用ひられ、實際の傳記

の上に、凡庸の材能が用ひらるゝは、豈に奇ならずや。人間生涯と經驗の活圖畫たる傳記とは、現實の魔力を有するが故に、假構的の小説、戯曲よりも、更に甚だ趣味あるものなり。凡て人は他人の傳記より何事をか學ぶを得べし、比較的瑣細なる事業及び言語にても、吾人の同胞たる人間の生涯の結果なりと思へば、甚だ趣味を感ずべし。

就中善人の傳記は、有益にして、吾人の心を感化し、希望を與へ、大なる模範を示す。一生を職分の爲めに捧げたる偉大なる精神の感化は、決して埋没するものにあらず。ジョージ・ハーバート曰く、「善き生涯は時候後れのものに非ず」と。

傳記の大
教訓

「極めて平凡なる人と雖も、賢者は此人より何事をか學ぶものなり」とは、ゲテの語なり。詩人スコットは、馬車に乗りて外出する時、常に二三の消息を集め、性格の觀察をなさる事なかりき。ドクトル、ジョンソンは、途上に遇へる人の傳記、即ち其經驗、困難、辛苦、成功、失敗等に就きて知る所あらんと欲せりと云ふ。況んや萬國史上に特筆大書せらるゝ偉人の傳記に於てをや。此等史的人物に關せる所のもの、即ち彼等の習慣、動作、處世法、逸事、會話、格言、德義の如き、皆趣味、教訓、感化、模範に滿ちたり。

傳記の大教訓は、人の人たる道を示す事なり。偉人の傳記は、人を感奮せしむ。傳記は人生の作らるゝものなる事を教ふ。傳記は吾人の精神を快活にし、吾人に希望を鼓吹し、吾人に新しき力、勇氣及び信仰を興へ、大志を起さしめ、活動せしむ。傳記によりて、偉人を友とし、其模範に則るは、即ち偉人と共に住み、良友と交はるゝに異ならず。

書籍の王

傳記中の王は、バイブルなり。最も神聖にして、最も感化あり。青年の教師、壯者の導師、老人の慰藉者たるバイブルは、畢竟偉大なる英雄、愛國者、豫言者、君

王の列傳と新約全書に現はれたる基督傳に外ならず其如何に莫大なる模範を人類に垂示せるかは殆ど窺ひ知るを得ず其感化力や實に無限なり。偉人善人の傳記が人間の品性に及ぼす感化力は甚だ大なり。チスレーリ曰く「善き傳記は其最も卓越なる地位に於ける人間生存の再會なり」と何人も偉人の傳記を讀む間には必ず多少心を動かさる。されば身分卑しき人の傳記と雖も苟くも其人にして誠實正直なる精神を有する以上は必ず後人の品性に多少の感化を及ぼすものなり。

歴史其者は最も能く傳記にて研究せらるるものなり。實に歴史は傳記なり。換言すれば個人によりて感化せられ支配せらるべき人間團體の傳記なり。エマーソン曰く「歴史とは畢竟理想の仕事、即ち無限の壮志を人間に注入する絶大なる精力の記事に外ならず」と歴史の毎頁に吾人が見る所のものは人間なり。歴史上の出來事は重もに其主人公たる人の感情、苦痛、利害と相關聯して吾人に興味あるものなり。歴史に於て吾人は古人に接す。而かも其人の言行は不滅なるなり。故に吾人は古人の警咳に接して其事業を見るが

如き感あり。吾人は人の群集に於て趣味を感ずるものにあらずして、各個の役者に感じ、同情を表す。其人の傳記は、凡て大なる歴史的戯曲中、最も美なる實感を與ふるものなり。

過去の文學中、行爲の偉人及び思想の偉人の品性を作る上に、最も勢力ありし者はブルタークとモンテインの二人なり。ブルタークは、後世に英雄傑の模範を與へ、モンテインは何れの時代の人にも、最も深き趣味を與ふる輪廻の問題を推究したり。二者の著書は、傳記の體裁を備へ、傳記の特色たる品性及び經驗を表示して、遺憾なく解明したるものなり。

ブルタークの英雄傳は、ホーマーのイリアッドと同じく、約一千八百年以前の作なれども、今日尚ほ依然として傳記書類中第一等の地位を保てり。モンテインが愛讀せし書にして、英國人には、沙翁シェイクスピアが脚本の出處なるが故に、特に趣味あるものなり。モンテインは、ブルタークを以て世界第一の傳記家なりと言へり。

アルフ・エリーは、ブルタークを讀みて、初めて文學に志せり。彼語りて曰